

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2020-137816

(P2020-137816A)

(43) 公開日 令和2年9月3日(2020.9.3)

(51) Int.Cl.

A63F 7/02 (2006.01)

F 1

A 6 3 F 7/02

3 2 0

テーマコード(参考)

2 C 3 3 3

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 62 頁)

(21) 出願番号

特願2019-35613 (P2019-35613)

(22) 出願日

平成31年2月28日 (2019. 2. 28)

(71) 出願人 599104196

株式会社サンセイアールアンドディ
愛知県名古屋市中区丸の内2丁目11番1
3号

(74) 代理人 110000291

特許業務法人コスマス国際特許商標事務所
土屋 良孝愛知県名古屋市中区丸の内二丁目11番1
3号 株式会社サンセイアールアンドディ
内

(72) 発明者 川添 智久

愛知県名古屋市中区丸の内二丁目11番1
3号 株式会社サンセイアールアンドディ
内

最終頁に続く

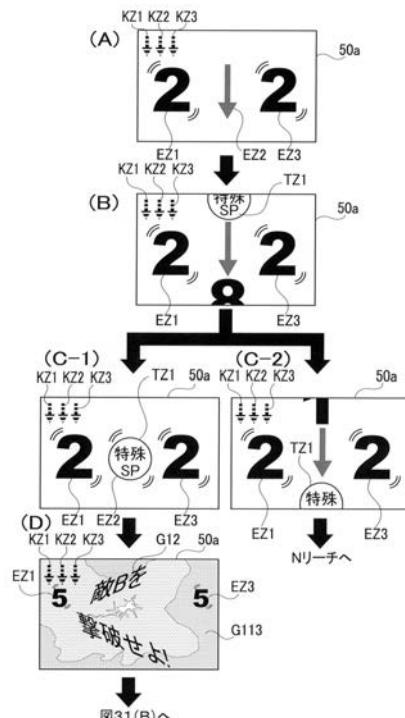
(54) 【発明の名称】遊技機

(57) 【要約】

【課題】演出の興趣向上が可能であること。

【解決手段】パチンコ遊技機 PY 1 の遊技状態には、第1の有利遊技状態と、その第1の有利遊技状態よりも遊技者に有利な第2の有利遊技状態がある。リーチ演出を実行可能であり、そのリーチ演出の実行を示唆可能な特定の態様で演出図柄を表示可能である。リーチ演出には、第1リーチ演出と第2リーチ演出とがあり、特定の態様には、第1の有利遊技状態になる可能性があることを示唆する第1態様と、第2の有利遊技状態になる可能性があることを示唆する第2態様とがある。演出図柄が第1態様で表示されて第1リーチ演出が実行される場合と、演出図柄が第1態様で表示されて第2リーチ演出が実行される場合とで、その演出図柄が第1態様から第2態様に変化する確率が異なる。

【選択図】図32



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技状態を遊技者に有利な有利遊技状態（大当たり遊技状態）に設定可能な設定手段と、

所定の演出を実行可能な演出実行手段と、を備え、

前記有利遊技状態には、第1の有利遊技状態と、第2の有利遊技状態と、があり、

前記演出実行手段は、

リーチ演出を実行可能であり、

前記リーチ演出の実行を示唆可能な特定の態様で演出図柄を表示可能であり、

前記リーチ演出には、第1リーチ演出と第2リーチ演出とがあり、

10

前記特定の態様には、前記第1の有利遊技状態になる可能性があることを示唆する第1態様と、前記第2の有利遊技状態になる可能性があることを示唆する第2態様と、があり、

演出図柄が前記第1態様で表示されて前記リーチ演出が実行される場合には、その演出図柄が前記第1態様から前記第2態様に変化するときがあり、

演出図柄が前記第1態様で表示されて前記第1リーチ演出が実行される場合と、演出図柄が前記第1態様で表示されて前記第2リーチ演出が実行される場合とで、その演出図柄が前記第1態様から前記第2態様に変化する確率がそれぞれ異なることを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】

20

【技術分野】

【0001】

本発明は、パチンコ遊技機等に代表される遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

従来から、通常遊技状態における特図変動演出中に、2つの演出図柄が同じ数字の停止態様（いわゆる「リーチ」）になってNリーチ（ノーマルリーチ）やSPリーチ（スーパー・リーチ）といった各種リーチ演出が実行され得る遊技機が知られている（例えば特許文献1）。

【先行技術文献】

30

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特開2018-111038号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、特許文献1に記載の遊技機では、「リーチ」をなす2つの演出図柄の種類（数字）が各種リーチ演出の実行中に変更されることはない。よって、遊技者は「リーチ」をなす演出図柄の種類を各種リーチ演出の実行前から把握可能な反面、各種リーチ演出の実行開始後には「リーチ」をなす2つの演出図柄への関心が薄くなりがちである。よって、演出の興趣向上の観点から改善の余地がある。

40

【課題を解決するための手段】

【0005】

本発明の遊技機は、

遊技状態を遊技者に有利な有利遊技状態（大当たり遊技状態）に設定可能な設定手段と、

所定の演出を実行可能な演出実行手段と、を備え、

前記有利遊技状態には、第1の有利遊技状態と、第2の有利遊技状態と、があり、

前記演出実行手段は、

リーチ演出を実行可能であり、

50

前記リーチ演出の実行を示唆可能な特定の態様で演出図柄を表示可能であり、前記リーチ演出には、第1リーチ演出と第2リーチ演出とがあり、

前記特定の態様には、前記第1の有利遊技状態になる可能性があることを示唆する第1態様と、前記第2の有利遊技状態になる可能性があることを示唆する第2態様と、があり、

演出図柄が前記第1態様で表示されて前記リーチ演出が実行される場合には、その演出図柄が前記第1態様から前記第2態様に変化するときがあり、

演出図柄が前記第1態様で表示されて前記第1リーチ演出が実行される場合と、演出図柄が前記第1態様で表示されて前記第2リーチ演出が実行される場合とで、その演出図柄が前記第1態様から前記第2態様に変化する確率がそれぞれ異なることを特徴とする。 10

【発明の効果】

【0006】

本発明によれば、演出の興趣向上が可能である。

【図面の簡単な説明】

【0007】

【図1】遊技機の正面図である。

【図2】遊技盤ユニットの正面図である。

【図3】第2大入賞装置等を詳細に示す正面図である。

【図4】表示器類の正面図である。

【図5】(A)は盤上可動装置と盤下可動装置とが待機状態のときの演出用ユニットの正面図、(B)は盤上可動装置と盤下可動装置とが作動したときの演出用ユニットの正面図である。 20

【図6】主制御基板側の電気的な構成を示すブロック図である。

【図7】サブ制御基板側の電気的な構成を示すブロック図である。

【図8】(A)は普図関係乱数を示す表であり、(B)は特図関係乱数を示す表である。

【図9】(A)は当たり判定テーブルであり、(B)は普図変動パターン判定テーブルであり、(C)は補助遊技制御テーブルである。

【図10】(A)は大当たり判定テーブルであり、(B)は大当たり図柄種別判定テーブルであり、(C)はリーチ判定テーブルである。

【図11】特図1変動パターン判定テーブルである。 30

【図12】特図2変動パターン判定テーブルである。

【図13】先読み判定テーブルである。

【図14】大当たり遊技制御テーブルである。

【図15】遊技状態の説明図である。

【図16】演出モードの具体例を示す説明図である。

【図17】特図変動演出の通常変動の具体例を示す説明図である。

【図18】特図変動演出のNリーチの具体例を示す説明図である。

【図19】特図変動演出のS Pリーチの具体例を示す説明図である。

【図20】保留演出の具体例を示す説明図である。

【図21】可動体演出の具体例を示す説明図である。 40

【図22】操作演出の具体例を示す説明図である。

【図23】主制御メイン処理のフローチャートである。

【図24】メイン側タイマ割り込み処理のフローチャートである。

【図25】サブ制御メイン処理のフローチャートである。

【図26】サブ側タイマ割り込み処理のフローチャートである。

【図27】第1実施形態に係る大当たり遊技制御テーブルである。

【図28】第1実施形態に係る、遊技状態が非時短状態の場合の特図1変動パターン判定テーブルである。

【図29】(A)は大当たり図柄1の場合に選択される特図1変動パターンの振分率を示す表であり、(B)は大当たり図柄2の場合に選択される特図1変動パターンの振分率を示す表である。 50

示す表であり、(C)はリーチ有りハズレの場合に選択される特図1変動パターンの振分率を示す表である。

【図30】第1実施形態に係る先読み判定テーブルである。

【図31】特殊S Pリーチの具体例を示す説明図である。

【図32】同一の偶数を用いたリーチ後の演出の流れを示す説明図である。

【図33】同一の奇数を用いたリーチ後の演出の流れを示す説明図である。

【図34】同一の偶数を用いたリーチ後の演出の流れについての変更例を示す説明図である。

【発明を実施するための形態】

【0008】

以下、本発明の遊技機の第1実施形態を、図面を参照して具体的に説明する。参照される各図において、同一の部分には同一の符号を付し、同一の部分に関する重複する説明を原則として省略する。なお、本明細書では、記述の簡略化上、情報、信号、物理量又は部材等を参照する記号又は符号を記すことによって、該記号又は符号に対する情報、信号、物理量又は部材等の名称を省略又は略記することがある。また、後述の任意のフローチャートにおいて、任意の複数のステップにおける複数の処理は、処理内容に矛盾が生じない範囲で、任意に実行順序を変更できる又は並列に実行できる。

【0009】

1. 遊技機の構造

本発明の遊技機の第1実施形態であるパチンコ遊技機PY1について説明する。最初に、パチンコ遊技機PY1の構造について図1～図5を用いて説明する。なお、以下の説明において、パチンコ遊技機PY1の各部の左右上下方向は、そのパチンコ遊技機PY1に対面する遊技者にとっての(正面視の)左右上下方向のことである。また、「前方」は、パチンコ遊技機PY1から当該パチンコ遊技機PY1に対面する遊技者に近づく方向とし、「後方」は、パチンコ遊技機PY1に対面する遊技者から当該パチンコ遊技機PY1に近づく方向とする。

【0010】

図1に示すように、パチンコ遊技機PY1は、遊技機枠2を備えている。遊技機枠2は、外枠22と、その外枠22に対して開閉可能な前扉23とを備えている。さらに、前扉23は、後述する遊技盤ユニットYUが取り付けられる遊技盤取付枠2Aと、遊技盤取付枠2Aにヒンジ2Bを介して回転自在に支持される前枠23mと、を備える。前枠23mは遊技盤取付枠2Aに対して開閉が可能である。前枠23mには、透明板23tが取り付けられている。前枠23mが閉じられているとき、遊技盤取付枠2Aに取り付けられた遊技盤1と透明板23tとは対面する。よって、パチンコ遊技機PY1が遊技店に設置されると、当該パチンコ遊技機PY1の前方にいる遊技者は、透明板23tを通して、遊技盤1に形成された遊技領域6を視認することができる。透明板23tは、透明なガラス板や透明な合成樹脂板等を用いることができる。パチンコ遊技機PY1の前方から遊技領域6を視認可能であればよい。

【0011】

前枠23mの前面の右下部には、遊技球を発射させるための回転操作が可能なハンドル72kが設けられている。ハンドル72kが操作された量(回転角度)が、遊技球を発射させるために遊技球に与えられる力(後述する発射装置72が発射ソレノイドに駆動させる量)の大きさ(発射強度)に対応付けられている。よって、遊技球は、ハンドル72kの回転操作に応じた発射強度で発射される。また、前枠23mの前面の下部中央には、前方に向けて大きく突出した下部装飾体36が設けられている。下部装飾体36の上面には、ハンドル72kに供給される遊技球を貯留するための上皿34が形成されている。また、下部装飾体36の正面の下部中央には、上皿34に収容しきれない余剰の遊技球を貯留するための下皿35が設けられている。

【0012】

下部装飾体36の上面の上皿34より前方側には、操作可能な第1入力装置(以下「通

10

20

30

40

50

常ボタン」) 4 0 が設けられている。通常ボタン 4 0 は、例えば押下面を有するボタン、把持部を有するレバー等で構成される。また、前枠 2 3 m の表面の右縁部から前方に突出して形成されている右部装飾体 3 2 において、操作可能な第 2 入力装置(以下「特殊ボタン」) 4 1 が設けられている。特殊ボタン 4 1 は、例えば押下面を有するボタン、把持部を有するレバー等で構成される。

【0013】

また、前枠 2 3 m の表面の上部から前方に突出して形成されている上部装飾体 3 1 の底面に、音を出力可能なスピーカ 5 2 が設けられている。スピーカ 5 2 は、左側に配置された左スピーカ 5 2 L と、右側に配置された右スピーカ 5 2 R と、からなる。また、前枠 2 3 m の右縁部と、下部装飾体 3 6 における正面の下皿 3 5 の左側および右側とに、発光可能な枠ランプ 5 3 が設けられている。さらに、前枠 2 3 m の左縁部および右縁部の上側には、遊技興奮を高めることを目的とする演出装置としての可動式の枠可動装置 5 8 が取り付けられている。枠可動装置 5 8 は、左側に配置された左枠可動装置 5 8 L と、右側に配置された右枠可動装置 5 8 R と、で構成される。

10

【0014】

なお、遊技機枠 2 に設けられる部材や装置の位置や数は、遊技に支障をきたさない範囲で適宜に変更可能である。

【0015】

次に、遊技盤ユニット Y U について、主に図 2 ~ 図 5 を用いて説明する。遊技盤ユニット Y U は、遊技盤 1 と、遊技盤 1 の背面側に取り付けられた演出用ユニット 1 U と、を有する。最初に、遊技盤 1 について説明する。遊技盤 1 は透明な合成樹脂板で構成されている。遊技盤 1 の略中央には正面視略円形の開口部 1 A が形成されている。開口部 1 A に沿って、遊技球が流下可能な遊技領域 6 を区画するための略リング状の内側壁部 1 B が前方に突出して形成されている。また、内側壁部 1 B の外側にも、遊技領域 6 を区画するための略リング状の外側壁部 1 C が前方に突出して形成されている。

20

【0016】

遊技盤 1 の前面には、内側壁部 1 B 、外側壁部 1 C などで囲まれた遊技領域 6 が形成されている。すなわち、遊技盤 1 の前面が、内側壁部 1 B および外側壁部 1 C によって、遊技領域 6 とそれ以外の領域とに仕切られている。

30

【0017】

遊技領域 6 は、ハンドル 7 2 k の操作によって発射された遊技球が流下可能な領域であり、パチンコ遊技機 P Y 1 で遊技を行うために設けられている。なお、遊技領域 6 には、多数の遊技くぎ(図示なし)が突設されている。遊技くぎは、遊技領域 6 に進入して遊技領域 6 を流下する遊技球を、後述する第 1 始動口 1 1 、第 2 始動口 1 2 、一般入賞口 1 0 、ゲート 1 3 、第 1 大入賞口 1 4 、および、第 2 大入賞口 1 5 などに適度に誘導する経路を構成している。

【0018】

遊技領域 6 には、遊技球が入球可能な第 1 始動口 1 1 が形成された第 1 始動入賞装置 1 1 D と、第 2 始動口 1 2 への入球を可能または不可能にさせる第 2 始動入賞装置(所謂「電チュー」) 1 2 D と、が設けられている。

40

【0019】

第 1 始動入賞装置 1 1 D は不動である。そのため、第 1 始動口 1 1 は、遊技球の入球し易さが変化せずに一定(不变)である。遊技球の第 1 始動口 1 1 への入賞は、第 1 特別図柄(以下、「特図 1」という)の抽選(後述の特図 1 関係乱数の取得と判定:以下、「特図 1 抽選」という)および特図 1 の可変表示の契機となっている。また、遊技球が第 1 始動口 1 1 へ入賞すると、所定個数(例えば 4 個)の遊技球が賞球として払い出される。

【0020】

電チュー 1 2 D は、作動可能な電チュー開閉部材 1 2 k を備えている。電チュー開閉部材 1 2 k は、通常は(通常状態では)、第 2 始動口 1 2 への遊技球の入球が不可能もしくは極めて困難な閉鎖位置にある。そして、特別状態になると、第 2 始動口 1 2 への遊技球

50

の入球が可能な開放位置に移動する。このように、電チュー開閉部材 12 k が開放位置に移動することを第 2 始動口 12 または電チュー 12 D の「開状態」ともいい、開状態であるときだけ遊技球の第 2 始動口 12 への入球が可能となる。一方、電チュー開閉部材 12 k が閉鎖位置にあることを第 2 始動口 12 または電チュー 12 D の「閉状態」という。また、第 2 始動口 12 または電チュー 12 D が「開状態」になることを「電チュー 12 D が開放する」ともいい、電チュー 12 D が「閉状態」になることを「電チュー 12 D が閉鎖する」という。

【0021】

遊技球の第 2 始動口 12 への入賞は、第 2 特別図柄（以下、「特図 2」という）の抽選（後述の特図 2 関係乱数の取得と判定：以下、「特図 2 抽選」という）および特図 2 の可変表示の契機となっている。また、遊技球が第 2 始動口 12 へ入賞すると、所定個数（例えば 4 個）の遊技球が賞球として払い出される。

10

【0022】

また、遊技領域 6 には、遊技球が入球可能な一般入賞口 10 が設けられている。遊技球が一般入賞口 10 へ入賞すると、所定個数（例えば 3 個）の遊技球が賞球として払い出される。

【0023】

また、遊技領域 6 には、遊技球が通過可能なゲート 13 が設けられている。遊技球のゲート 13 の通過は、普通図柄（以下、「普図」という）の抽選（すなわち普通図柄乱数の取得と判定：以下、「普図抽選」という）および普図の可変表示の契機となっている。補助遊技が実行されることによって電チュー 12 D を開放する。すなわち、補助遊技は、電チュー 12 D の開放を伴う遊技である。

20

【0024】

また、遊技領域 6 には、遊技球が入球可能な第 1 大入賞口 14 が形成された第 1 大入賞装置 14 D（以下、「通常 A T 14 D」ともいう）が設けられている。

【0025】

第 1 大入賞装置 14 D は、開状態と閉状態とに作動可能な通常 A T 開閉部材 14 k を備える。通常 A T 開閉部材 14 k の作動により第 1 大入賞口 14 が開閉する。通常 A T 開閉部材 14 k は、通常では第 1 大入賞口 14 を塞ぐ閉状態になっており、遊技球が第 1 大入賞口 14 の中に入球することは不可能もしくは極めて困難である。通常 A T 開閉部材 14 k が開状態に作動すると、遊技球が第 1 大入賞口 14 の中に入球することが可能になる。このように、通常 A T 開閉部材 14 k が開状態であるときだけ遊技球の第 1 大入賞口 14 への入球が可能となる。遊技球が第 1 大入賞口 14 へ入賞すると、所定個数（例えば 14 個）の遊技球が賞球として払い出される。

30

【0026】

また、遊技領域 6 には、遊技球を第 2 始動口 12 へ誘導する誘導ステージ 12 g が設けられている。なお、誘導ステージ 12 g の上面を転動する遊技球は、第 2 始動口 12 の方へ向かって流下可能である。

【0027】

また、遊技領域 6 には、遊技球が入球可能な第 2 大入賞口 15 が形成された第 2 大入賞装置 15 D（以下、「V A T 15 D」ともいう）が設けられている。第 2 大入賞装置 15 D は、作動可能な V A T 開閉部材 15 k を備えている。V A T 開閉部材 15 k は、通常では第 2 大入賞口 15 を塞いでおり、遊技球が第 2 大入賞口 15 に入球することは不可能もしくは極めて困難である。V A T 開閉部材 15 k は開状態をとることができる。V A T 開閉部材 15 k が開状態であると遊技球の第 2 大入賞口 15 への入球が容易となる。一方、V A T 開閉部材 15 k が第 2 大入賞口 15 を塞いでいる状態を「閉状態」という。このように、V A T 開閉部材 15 k の作動によって第 2 大入賞口 15 が開閉する。遊技球が第 2 大入賞口 15 へ入賞すると、所定個数（例えば 14 個）の遊技球が賞球として払い出される。

40

【0028】

50

ここで、図3を用いて、第2大入賞装置15Dについて詳細に説明する。第2大入賞装置15Dの内部には、第2大入賞口15に入球した遊技球を検知し、遊技球を下方へ通過させることができが可能なゲート状の第2大入賞口センサ15aが設けられている。

【0029】

第2大入賞口センサ15aの下流域には、遊技球が通過（進入）可能な特定領域16と非特定領域17とが設けられている。第2大入賞口センサ15aを通過した遊技球は、振分装置16Dによって、特定領域16か非特定領域17かに振り分けられる。振分装置16Dは、略矩形状の平板からなる振分部材16kと、振分部材16kを駆動する振分ソレノイド16sとを備えている。振分部材16kは、振分ソレノイド16sの駆動により、左右にスライド可能に構成されている。

10

【0030】

振分ソレノイド16sが通電されていないとき、振分部材16kは特定領域16への遊技球の通過を妨げる第1状態（通過阻止状態：図3（A）の正面視で振分部材16kの左端が特定領域16の左端よりやや右側に位置し、振分部材16kが特定領域16をその直上で覆う状態）にある。振分部材16kが第1状態にあるときは、第2大入賞口15に入賞した遊技球は、第2大入賞口センサ15aを通過した後、特定領域16を通過することは不可能もしくは極めて困難であり、非特定領域17を通過する。この第2大入賞口15から非特定領域17まで流下する遊技球のルートを第1のルートという。

10

【0031】

一方、振分ソレノイド16sが通電されているとき、振分部材16kは遊技球の特定領域16の通過（進入）を許容する第2状態（通過許容状態：図3（B）の正面視で振分部材16kの左端が特定領域16の右端よりやや左側に位置し、振分部材16kが特定領域16をその直上で覆わず、特定領域16の直上が開放している状態）にある。振分部材16kが第2状態にあるときは、第2大入賞口15に入賞した遊技球は、第2大入賞口センサ15aを通過したあと特定領域16を通過容易である。この第2大入賞口15から特定領域16まで流下する遊技球のルートを第2のルートという。

20

【0032】

なお、基本的に、振分部材16kは第1状態で保持されている。すなわち、第1状態が、振分部材16kの通常の状態であるといえる。そして、所定のラウンド遊技（例えば16R）においてのみ、振分ソレノイド16sが通電され、第2状態に変化することができる。

30

【0033】

特定領域16と非特定領域17には、各領域16、17を通過（進入）した遊技球を検知し、遊技球を下方へ通過させる特定領域センサ16a、非特定領域センサ17aが設けられている。

【0034】

なお、第1大入賞装置14Dおよび第2大入賞装置15Dは、遊技に支障をきたさない範囲で、一方だけを設けるようにすることができる。

【0035】

また、遊技領域6の略最下部には、遊技領域6へ打ち込まれたもののいずれの入賞口にも入賞しなかった遊技球を遊技領域6の外部へ排出する2つのアウトロ19が設けられている。また、遊技盤1には、発光可能な盤ランプ54が設けられている。

40

【0036】

ところで、遊技球が流下可能な遊技領域6は、左右方向の中央より左側の左遊技領域（第1遊技領域）と、右側の右遊技領域（第2遊技領域）と、に分けることができる。遊技球が左遊技領域を流下するように遊技球を発射させるハンドル72kの操作態様を「左打ち」という。一方、遊技球が右遊技領域を流下するように遊技球を発射させるハンドル72kの操作態様を「右打ち」という。パチンコ遊技機PY1において、左打ちにて遊技球を発射したときに遊技球が流下可能な流路を、第1流路R1といい、右打ちにて遊技球を発射したときに遊技球が流下可能な流路を、第2流路R2といい。第1流路R1および第

50

2流路R2は、多数の遊技くぎなどによっても構成されている。

【0037】

第1流路R1上には、第1始動口11と、2つの一般入賞口10と、が設けられている。よって、遊技者は、左打ちにより第1流路R1を流下するように遊技球を発射させることで、第1始動口11、または、一般入賞口10への入賞を狙うことができる。一方、第2流路R2上には、第2始動口12と、ゲート13と、第1大入賞口14と、第2大入賞口15と、が設けられている。よって、遊技者は、右打ちにより第2流路R2を流下するように遊技球を発射させることで、ゲート13の通過や、第2始動口12、第1大入賞口14、または、第2大入賞口15への入賞を狙うことができる。

【0038】

なお、何れの入賞口（第1始動口11、第2始動口12、一般入賞口10、第1大入賞口14、および第2大入賞口15）にも入球しなかった遊技球は、アウト口19へ誘導されて排出される。また、各入賞口への入賞による賞球数は、適宜に設定することが可能である。

【0039】

また、遊技盤1の前面に形成された遊技領域6の下方の左隣（遊技領域6以外の部分）には表示器類8が配置されている。図4に示すように、表示器類8には、特図1を可変表示する特図1表示器81a、特図2を可変表示する特図2表示器81b、及び、普図を可変表示する普図表示器82が含まれている。また、表示器類8には、後述する特図1保留数（U1：特図1表示器81aによる特図1の可変表示が保留されている数）を表示する特図1保留表示器83a、および後述する特図2保留数（U2：特図2表示器81bによる特図2の可変表示が保留されている数）を表示する特図2保留表示器83bが含まれている。

【0040】

特図1の可変表示は、第1始動口11への遊技球の入賞を契機に特図1抽選が行われると実行される。また、特図2の可変表示は、第2始動口12への遊技球の入賞を契機に特図2抽選が行われると実行される。なお、以下の説明では、特図1および特図2を総称して特図といい、特図1抽選および特図2抽選を総称して特図抽選という。また、特図1表示器81aおよび特図2表示器81bを総称して特図表示器81という。さらに、特図1保留表示器83aおよび特図2保留表示器83bを総称して特図保留表示器83という。

【0041】

特図の可変表示は、特図抽選の結果を報知する。特図の可変表示では、特図が可変表示したあと停止表示する。停止表示される特図（停止特図、可変表示の表示結果として導出表示される特別図柄）は、特図抽選によって複数種類の特図の中から選択された一つの特図である。停止特図が予め定めた特定の特図（特定の停止態様の特図すなわち大当たり図柄）である場合には、大入賞口（第1大入賞口14及び第2大入賞口15）を開放させる大当たり遊技（特別遊技の一例）が行われる。

【0042】

特図表示器81は、例えば横並びに配された8個のLED（Light Emitting Diode）から構成され、その点灯態様によって特図抽選の結果に応じた特図を表示する。例えば特図抽選の結果が大当たり（後述の複数種類の大当たりのうちの一つ）である場合には、特図表示器81は、「」（：点灯、：消灯）というように左から1, 2, 5, 6番目にあるLEDの点灯で構成される大当たり図柄を表示する。また、特図抽選の結果がハズレである場合には、特図表示器81「」というように一番右にあるLEDのみの点灯で構成されるハズレ図柄を表示する。

なお、特図抽選の結果に対応するLEDの点灯態様は限定されず、適宜に設定することができる。よって、例えば、ハズレ図柄として全てのLEDを消灯させてもよい。

【0043】

また、特図の可変表示において、特図が停止表示される前には所定の変動時間にわたって特図の可変表示がなされる。特図の可変表示の態様は、例えば左から右へ光が繰り返し

流れるように各 LED が点灯する様である。なお、特図の可変表示の様は、特に限定されず、各 LED が停止表示（特定の様での点灯表示）されていなければ、全 LED が一斉に点滅するなど適宜に設定してよい。

【0044】

ところで、パチンコ遊技機 PY1 では、第 1 始動口 11 または第 2 始動口 12 への遊技球の入賞（入球）があると、特図抽選などを行うための各種乱数（数値情報や判定情報の一例）が取得されることがある。この各種乱数は、特図保留として後述の特図保留記憶部 105 に一旦記憶される。なお、以下において、第 1 始動口 11 への遊技球の入賞（入球）により取得された各種乱数のことを「特図 1 関係乱数」といい、第 2 始動口 12 への遊技球の入賞（入球）により取得された各種乱数のことを「特図 2 関係乱数」という。ここで、特図 1 関係乱数は、特図 1 保留として、特図保留記憶部 105 の中の特図 1 保留記憶部 105a に記憶される。一方、特図 2 関係乱数は、特図 2 保留として、特図保留記憶部 105 の中の特図 2 保留記憶部 105b に記憶される。特図 1 保留記憶部 105a に記憶可能な特図 1 保留の数（特図 1 保留数）および特図 2 保留記憶部 105b に記憶可能な特図 2 保留の数（特図 2 保留数）には上限（例えば 4 個）を設定することが可能である。なお、以下において、特図 1 保留と特図 2 保留を総称して「特図保留」といい、特図 1 保留数と特図 2 保留数を総称して「特図保留数」という。また、特図 1 関係乱数と特図 2 関係乱数とを総称して「特図関係乱数」という。

10

【0045】

パチンコ遊技機 PY1 では、遊技球が第 1 始動口 11 または第 2 始動口 12 へ入賞した後すぐに特図の可変表示が行われない場合、具体的には、特図の可変表示の実行中や大当たり遊技の実行中に入賞があった場合、その入賞に対する特図の可変表示（あるいは、特図抽選の権利）を留保することができる。特図保留記憶部 105 に記憶された特図保留は、その特図保留に基づく特図の可変表示が可能となったときに消化される。すなわち、特図保留の消化とは、その特図保留に対応する特図関係乱数等を判定して、その判定結果を示すための特図の可変表示を実行することをいう。

20

【0046】

そして、特図保留数は、特図保留表示器 83 に表示される。特図 1 保留表示器 83a と特図 2 保留表示器 83b のそれぞれは、例えば 4 個の LED で構成されており、特図保留数の分だけ LED を点灯させることにより特図保留数を表示することが可能である。

30

【0047】

また、普図の可変表示は、普図抽選の結果を報知する。普図の可変表示では、普図が可変表示したあと停止表示する。停止表示される普図（停止普図、可変表示の表示結果として導出表示される普図）は、普図抽選によって複数種類の普図の中から選択された一つの普図である。停止表示された普図が予め定めた特定の普図（所定の停止態様の普図すなわち当たり図柄）である場合には、第 2 始動口 12（電チューラー 12D）を開放させる補助遊技が行われる。

【0048】

普図表示器 82 は、例えば 2 個の LED から構成されており、その点灯態様によって普図抽選の結果に応じた普図を表示する。普図抽選の結果が当たりである場合には、普図表示器 82 は、「 」（ ：点灯、 ：消灯）というように両 LED の点灯で構成される当たり図柄を表示する。また普図抽選の結果がハズレである場合には、「 」というように右の LED のみの点灯で構成されるハズレ図柄を表示する。ハズレ図柄として全ての LED を消灯させる態様を採用してもよい。なお、普図抽選の結果に対応する LED の点灯態様は限定されず、適宜に設定することができる。

40

【0049】

また、普図が停止表示される前には所定の変動時間にわたって普図の可変表示が行われる。普図の可変表示の態様は、例えば両 LED が交互に点灯するという態様である。なお、普図の可変表示の態様は、特に限定されず、各 LED が停止表示（特定の態様での点灯表示）されていなければ、全 LED が一斉に点滅するなど適宜に設定してもよい。

50

【0050】

パチンコ遊技機 PY1 では、遊技球がゲート 13 を通過すると、普図抽選を行うための普通図柄乱数（数値情報や判定情報の一例）が取得されることがある。この乱数は、普図の可変表示または補助遊技が実行されていないことを条件に、後述の普図保留記憶部 106 に記憶される。普図保留記憶部 106 に記憶可能な普図保留の数（普図保留数）には上限（例えば 4 個）を設定することが可能である。なお、以下において、遊技球がゲート 13 を通過することにより取得された普通図柄乱数のことを「普図関係乱数」ともいう。

【0051】

次に、図 5 を用いて、遊技盤 1 の背面に取り付けられた演出用ユニット 1U について説明する。演出用ユニット 1U は、主に演出を行う複数の装置をユニット化したものである。演出用ユニット 1U には、画像表示装置 50、第 1 盤可動装置（以下「盤上可動装置」）55、第 2 盤可動装置（以下「盤下可動装置」）56 が搭載されている。

10

【0052】

画像表示装置 50 は、例えば 20 インチの 3D 液晶ディスプレイ、ドット表示器、7 セグ表示器等で構成され、図柄等を表示可能な表示部 50a を具備する。

【0053】

盤上可動装置 55 は、表示部 50a よりも前方に配置され、表示部 50a に沿って移動可能であり、装飾が施された盤上可動体 55k を具備する。盤下可動装置 56 は、表示部 50a よりも前方に配置され、表示部 50a に沿って移動可能であり、装飾が施された盤下可動体 56k を具備する。

20

【0054】

図 5 (A) は、盤上可動体 55k および盤下可動体 56k が作動していない通常の待機状態で保持されている様子を概略化して表している。盤上可動装置 55 の駆動源が駆動すると、盤上可動体 55k は下向きに移動（下降）し、盤下可動装置 56 の駆動源が駆動すると、盤下可動体 56k は上向きに移動（上昇）する（図 5 (B) 参照）。このとき、画像表示装置 50 は下降した盤上可動体 55k または上昇した盤下可動体 56k に覆われ、画像表示装置 50 は視認困難となる。

【0055】

なお、遊技盤ユニット YU に設けられる部材や装置の位置や数は、遊技に支障をきたさない範囲で適宜に変更可能である。

30

【0056】

2. 遊技機の電気的構成

次に、図 6～図 7 に基づいて、パチンコ遊技機 PY1 における電気的な構成を説明する。図 6～図 7 に示すように、パチンコ遊技機 PY1 は、特図抽選、特図の可変表示、大当たり遊技、後述する遊技状態の設定、普図抽選、普図の可変表示、補助遊技などの遊技利益に関する制御（遊技の進行）を行う遊技制御基板（以下「主制御基板」）100、主制御基板 100 による遊技の進行に応じた遊技演出（特図変動演出、保留演出、大当たり遊技演出）、客待ち演出、通常ボタン 40 や特殊ボタン 41 の操作が有効な期間（操作有効期間）において操作を促す操作促進演出などの演出に関する制御を行う演出制御基板（以下「サブ制御基板」）120、および、遊技球の払い出しに関する制御などを行う払出制御基板 170 等を、遊技盤 1 の画像表示装置 50 よりさらに背面側に備えている。主制御基板 100 を、遊技の制御を行う遊技制御部と位置づけることができる。また、サブ制御基板 120 を、後述する画像制御基板 140、ランプ制御回路 151、および音声制御回路 161 とともに、演出の制御を行う演出制御部と位置づけることができる。なお、演出制御部は、少なくともサブ制御基板 120 を備え、演出手段（画像表示装置 50、スピーカ 52、枠ランプ 53、盤ランプ 54、および、可動装置 55, 56 等）を用いた遊技演出、客待ち演出、および操作促進演出を制御可能であればよい。

40

【0057】

また、パチンコ遊技機 PY1 は、電源基板 190 を備えている。電源基板 190 は、主制御基板 100、サブ制御基板 120、及び払出制御基板 170 に対して電力を供給する

50

とともに、これらの基板を介してその他の機器に対して必要な電力を供給する。電源基板 190 には、バックアップ電源回路 192 が設けられている。バックアップ電源回路 192 は、パチンコ遊技機 PY1 に対して電力が供給されていない場合に、後述する主制御基板 100 の遊技用 RAM104 やサブ制御基板 120 の演出用 RAM124 に対して電力を供給する。従って、主制御基板 100 の遊技用 RAM104 やサブ制御基板 120 の演出用 RAM124 に記憶されている情報は、パチンコ遊技機 PY1 の電断時であっても保持される。また、電源基板 190 には、電源スイッチ 191 が接続されている。電源スイッチ 191 の ON 操作または OFF 操作により、電源の投入と遮断とが切り換えられる。なお、主制御基板 100 の遊技用 RAM104 に対するバックアップ電源回路を主制御基板 100 に設けたり、サブ制御基板 120 の演出用 RAM124 に対するバックアップ電源回路をサブ制御基板 120 に設けたりしてもよい。

10

【0058】

図 6 に示すように、主制御基板 100 には、プログラムに従ってパチンコ遊技機 PY1 の遊技の進行を制御する遊技制御用ワンチップマイコン（以下「遊技制御用マイコン」）101 が実装されている。遊技制御用マイコン 101 には、遊技の進行を制御するためのプログラムやテーブル等を記憶した遊技用 ROM（Read Only Memory）103、ワークメモリとして使用される遊技用 RAM（Random Access Memory）104、および遊技用 ROM103 に記憶されたプログラムを実行する遊技用 CPU（Central Processing Unit）102 が含まれている。

20

【0059】

遊技用 ROM103 には、後述する主制御メイン処理やメイン側タイマ割り込み処理などを行うためのプログラムが格納されている。また、遊技用 ROM103 には、後述する大当たり判定テーブル、大当たり図柄種別判定テーブル、リーチ判定テーブル、特図変動パターン判定テーブル、先読み判定テーブル、大当たり遊技制御テーブル、当たり判定テーブル、普図変動パターン判定テーブル、補助遊技制御テーブルなどが格納されている。なお、遊技用 ROM103 は外付けであってもよい。また、遊技用 RAM104 には、前述した特図保留記憶部 105 や普図保留記憶部 106 などが設けられている。

20

【0060】

また、主制御基板 100 には、データや信号の入出力をを行うための遊技用 I/O（Input / Output）ポート部 118、および遊技用 RAM104 に記憶されている情報を遊技用 CPU102 にクリアさせるための RAM クリアスイッチ 119 が実装されている。

30

【0061】

主制御基板 100 には、所定の中継基板（図示なし）を介して各種センサ類 MS や各種アクチュエータ類 MA が接続されている。そのため、主制御基板 100 には、各種センサ類 MS が output した信号が input する。また、主制御基板 100 は、各種アクチュエータ類 MA に信号を出力する。

【0062】

主制御基板 100 に接続されている各種センサ類 MS には、第 1 始動口 11 に入賞した遊技球を検知する第 1 始動口センサ、第 2 始動口 12 に入賞した遊技球を検知する第 2 始動口センサ、一般入賞口 10 に入賞した遊技球を検知する一般入賞口センサ、ゲート 13 を通過した遊技球を検知するゲートセンサ、第 1 大入賞口 14 に入賞した遊技球を検知する第 1 大入賞口センサ、第 2 大入賞口 15 に入賞した遊技球を検知する第 2 大入賞口センサ 15a、特定領域 16 を通過（特定領域 16 に進入）した遊技球を検知する特定領域センサ 16a、および、非特定領域 17 を通過（非特定領域 17 に進入）した遊技球を検知する非特定領域センサ 17a が含まれている。各センサは、遊技球を検知すると、その検知内容に応じた信号を主制御基板 100 に出力する。なお、主制御基板 100 に接続されるセンサの種類や数は、遊技に支障をきたさない範囲で適宜に変更可能である。

40

【0063】

また、主制御基板 100 に接続されている各種アクチュエータ類 MA には、電チュ-1

50

2Dの電チュー開閉部材12kを駆動する電チューソレノイド、第1大入賞装置14Dの通常AT開閉部材14kを駆動する第1大入賞ロソレノイド、第2大入賞装置15DのVAT開閉部材15kを駆動する第2大入賞ロソレノイド、および、振分装置16Dの振分部材16kを駆動する振分ソレノイド16sが含まれている。なお、主制御基板100に接続されるアクチュエータの種類や数は、遊技に支障をきたさない範囲で適宜に変更可能である。

【0064】

さらに主制御基板100には、表示器類8（特図表示器81、普図表示器82、および、特図保留表示器83）が接続されている。これらの表示器類8の表示制御は、遊技制御用マイコン101によりなされる。

10

【0065】

また主制御基板100は、払出制御基板170に各種コマンドを送信するとともに、払い出し監視のために払出制御基板170から信号を受信する。払出制御基板170には、カードユニットCU（パチンコ遊技機PY1に隣接して設置され、挿入されているプリペイドカード等の情報に基づいて球貸しを可能にするもの）、および賞球払出装置73が接続されているとともに、発射制御回路175を介して発射装置72が接続されている。なお、発射装置72には、ハンドル72k（図1参照）が含まれる。

【0066】

払出制御基板170は、遊技制御用マイコン101からの信号や、接続されたカードユニットCUからの信号に基づいて、賞球払出装置73や貸球払出装置74を用いて、賞球の払い出しを行ったり、貸球の払い出しを行ったりする。払い出される遊技球の数は、払出制御基板170に出力される。

20

【0067】

また、発射装置72には、遊技者などの人のハンドル72k（図1参照）への接触を検知可能なタッチスイッチが設けられている。遊技者によるハンドル72kの操作があった場合には、タッチスイッチが遊技者のハンドル72kへの接触を検知し、検知信号を払出制御基板170に出力する。また、発射装置72には、ハンドル72kの回転角度（操作量）を検出可能な発射ボリュームつまみが接続されている。発射装置72は、発射ボリュームつまみが検出したハンドル72kの回転角度に応じた強さで遊技球が発射されるよう発射ソレノイドを駆動させる。なお、パチンコ遊技機PY1においては、ハンドル72kへの回転操作が維持されている状態では、約0.6秒毎に1球の遊技球が発射されるようになっている。

30

【0068】

また主制御基板100は、遊技の進行に応じて、サブ制御基板120に対し、遊技に関する情報を含んだ各種コマンドを送信する。サブ制御基板120は、主制御基板100から送られる各種コマンドに基づいて、主制御基板100による遊技の進行状況（遊技の制御内容）を把握することができる。なお、主制御基板100とサブ制御基板120との接続は、主制御基板100からサブ制御基板120への信号の送信のみが可能な单方向通信接続となっている。すなわち、主制御基板100とサブ制御基板120との間には、通信方向規制手段としての図示しない单方向性回路（例えばダイオードを用いた回路）が介在している。

40

【0069】

図7に示すように、サブ制御基板120には、プログラムに従ってパチンコ遊技機PY1の演出を制御する演出制御用ワンチップマイコン（以下「演出制御用マイコン」）121が実装されている。演出制御用マイコン121には、主制御基板100による遊技の進行に伴って演出を制御するためのプログラム等を記憶した演出用ROM123、ワークメモリとして使用される演出用RAM124、および演出用ROM123に記憶されたプログラムを実行する演出用CPU122が含まれている。

【0070】

また、演出用ROM123には、後述するサブ制御メイン処理、受信割り込み処理、お

50

よび、サブ側タイマ割り込み処理などを行うためのプログラムが格納されている。なお、演出用ROM123は外付けであってもよい。

【0071】

また、サブ制御基板120には、データや信号の入出力を行うための演出用I/Oポート部138、およびRTC(Real Time Clock)139が実装されている。RTC139は、現時点の日時(日付及び時刻)を計測する。RTC139は、パチンコ遊技機PY1に、所定の島電源供給装置(図示なし)から電力が供給されているときはその電力によって動作し、島電源供給装置から電力が供給されていないときは、電源基板190が備えるバックアップ電源回路192から供給される電力によって動作する。このため、RTC139は、パチンコ遊技機PY1の電源が投入されていないときにも現在の日時を計測することが可能である。なお、RTC139に対するバックアップ電源回路をサブ制御基板120に設けてもよい。バックアップ電源回路には、コンデンサや内蔵電池(ボタン電池等)を含む回路を採用することができる。

10

【0072】

サブ制御基板120には、画像制御基板140が接続されている。サブ制御基板120の演出制御用マイコン121は、主制御基板100から受信したコマンドに基づいて、すなわち、主制御基板100による遊技の進行に応じて、画像制御基板140の画像用CPU141に画像表示装置50の表示制御を行わせる。なお、サブ制御基板120と画像制御基板140との接続は、サブ制御基板120から画像制御基板140への信号の送信と、画像制御基板140からサブ制御基板120への信号の送信の双方が可能な双方向通信接続となっている。

20

【0073】

画像制御基板140は、画像制御のためのプログラム等を記憶した画像用ROM142、ワークメモリとして使用される画像用RAM143、及び、画像用ROM142に記憶されたプログラムを実行する画像用CPU141を備えている。また、画像制御基板140は、画像表示装置50に表示される画像のデータを記憶したCGROM145、CGROM145に記憶されている画像データの展開等に使用されるVRAM146、及び、VDP(Video Display Processor)144を備えている。勿論、これらの電子部品の全部又は一部がワンチップで構成されていてもよい。CGROM145には、例えば、画像表示装置50に表示される画像を表示するための画像データ(静止画データや動画データ、具体的にはキャラクタ、アイテム、図形、文字、数字および記号等(演出図柄を含む)や背景画像等の画像データ)が格納されている。

30

【0074】

VDP144は、演出制御用マイコン121からの指令に基づき画像用CPU141によって作成されるディスプレイリストに従って、CGROM145から画像データを読み出してVRAM146内の展開領域に展開する。そして、展開した画像データを適宜合成してVRAM146内のフレームバッファに画像を描画する。そしてフレームバッファに描画した画像をRGB信号として画像表示装置50に出力する。これにより、種々の演出画像が表示部50aに表示される。

40

【0075】

なお、ディスプレイリストは、フレーム単位で描画の実行を指示するためのコマンド群で構成されている。ディスプレイリストには、描画する画像の種類、画像を描画する位置、表示の優先順位、表示倍率、画像の透過率等の種々のパラメータの情報が含まれている。

【0076】

演出制御用マイコン121は、主制御基板100から受信したコマンドに基づいて、すなわち、主制御基板100による遊技の進行に応じて、音声制御回路161を介してスピーカ52から音声、楽曲、効果音等を出力する。

【0077】

スピーカ52から出力する音声等の音声データは、サブ制御基板120の演出用ROM

50

123に格納されている。なお、音声制御回路161を、基板にしてCPUを実装してもよい。この場合、そのCPUに音声制御を実行させてもよい。さらにこの場合、基板にROMを実装し、そのROMに音声データを格納してもよい。また、スピーカ52を画像制御基板140に接続し、画像制御基板140の画像用CPU141に音声制御を実行させてもよい。さらにこの場合、画像制御基板140の画像用ROM142に音声データを格納してもよい。

【0078】

また、サブ制御基板120には、所定の中継基板(図示なし)を介して、入力部となる各種スイッチ類、駆動源となる各種アクチュエータ類SA、各種ランプ類SLが接続されている。サブ制御基板120には、各種スイッチ類が出力した信号が入力する。また、サブ制御基板120は、各種アクチュエータ類SAに信号を出力する。また、サブ制御基板120は、主制御基板100から受信したコマンドなどに基づいて、ランプ制御回路151を介して各種ランプ類SLの点灯制御を行う。

10

【0079】

サブ制御基板120に接続されている各種スイッチ類には、通常ボタン検出スイッチ40aおよび特殊ボタン検出スイッチ41aが含まれている。通常ボタン検出スイッチ40aは、通常ボタン40が押下操作されたことを検出する。特殊ボタン検出スイッチ41aは、特殊ボタン41が押下操作されたことを検出する。各検出スイッチ40a, 41aは、検出内容に応じた信号をサブ制御基板120に出力する。なお、サブ制御基板120に接続されるスイッチの種類や数は、遊技に支障をきたさない範囲で適宜に変更可能である。

20

【0080】

サブ制御基板120に接続された各種アクチュエータ類SAには、盤上可動装置55、盤下可動装置56、枠可動装置58等を駆動するモータが含まれ、モータを駆動して、各可動装置に所定の動作を行わせることが可能である。詳細には演出制御用マイコン121は、各可動装置の動作態様を決める動作パターンデータを作成し、ランプ制御回路151を介して、各可動装置の動作を制御する。なお、サブ制御基板120に接続されるアクチュエータの種類や数は、遊技に支障をきたさない範囲で適宜に変更可能である。

【0081】

サブ制御基板120に接続された各種ランプ類SLには、枠ランプ53、盤ランプ54等が含まれ、各ランプを発光させる。詳細には演出制御用マイコン121は、各ランプの発光態様を決める発光パターンデータ(点灯/消灯や発光色等を決めるデータ、ランプデータともいう)を作成し、発光パターンデータに従って各ランプの発光を制御する。なお、発光パターンデータの作成にはサブ制御基板120の演出用ROM123に格納されているデータを用いる。

30

【0082】

なお、ランプ制御回路151を基板にしてCPUを実装してもよい。この場合、そのCPUに、各ランプの点灯制御、および、各可動装置の動作制御を実行させてもよい。さらにこの場合、基板にROMを実装して、そのROMに発光パターンや動作パターンに関するデータを格納してもよい。また、サブ制御基板120に接続されるランプの種類や数は、遊技に支障をきたさない範囲で適宜に変更可能である。

40

【0083】

3. 遊技機による主な遊技

次に、パチンコ遊技機PY1により行われる主な遊技について、図8～図15を用いて説明する。

【0084】

3-1. 普図に関わる遊技

最初に、普図に関わる遊技について説明する。パチンコ遊技機PY1は、発射された遊技球がゲート13を通過すると、普図抽選を行う。普図抽選を行うと、普図表示器82において、普図の可変表示(変動表示を行った後に停止表示)を行う。ここで、停止表示さ

50

れる普図には、当たり図柄とハズレ図柄とがある。なお、普図のハズレ図柄については、後述する特図のハズレ図柄と区別をするために「ハズレ普図」ともいう。当たり図柄が停止表示されると補助遊技が実行されて、当該ゲート13の通過に係る遊技が終了する。一方、ハズレ普図が停止表示されると、補助遊技は行われず、当該ゲート13の通過に係る遊技が終了する。また、以下において、普図の可変表示または補助遊技が行われていないときに遊技球がゲート13を通過することを「普図変動始動条件の成立」という。

【0085】

パチンコ遊技機PY1は、このような一連の遊技（普図抽選、普図の可変表示、補助遊技）を行うにあたり、普図変動始動条件の成立により、普図関係乱数を取得する。取得する普図関係乱数には、図8(A)に示すように、普通図柄乱数がある。普通図柄乱数は当たり判定を行うための乱数（判定情報）である。各乱数には、適宜に範囲が設けられている。

10

【0086】

3-1-1. 当たり判定

当たり判定は、図9(A)に示すような1または複数の当たり判定テーブルを用いて、当たりか否か（補助遊技を実行するか否か）を決定するための判定である。当たり判定テーブルは、後述する遊技状態に関連付けることが可能である。すなわち、遊技状態には非時短状態と時短状態とが含まれ、当たり判定テーブルとして、非時短状態で用いる当たり判定テーブル（非時短用当たり判定テーブル）と、時短状態で用いる当たり判定テーブル（時短用当たり判定テーブル）と、を区別することが可能である。各当たり判定テーブルでは、当たり判定の結果である当たりとハズレに、普通図柄乱数の判定値（普通図柄乱数值）が振り分けられている。よって、パチンコ遊技機PY1は、取得した普通図柄乱数を当たり判定テーブルに照合して、当たりかハズレかの当たり判定を行う。そして、当たり判定の結果に基づいて、普図の可変表示を行うための普図変動パターン判定を行う。当たり判定の結果が当たりであると、基本的には、普図の可変表示で当たり図柄が停止表示される。一方、当たり判定の結果がハズレであると、基本的には、普図の可変表示でハズレ普図が停止表示される。また、当たりの当選確率については、適宜に変更することが可能である。

20

【0087】

3-1-2. 普図変動

30

普図変動パターン判定は、図9(B)に示すような1または複数の普図変動パターン判定テーブルを用いて、普図変動パターンを決定するための判定である。普図変動パターンとは、普図変動時間などの普図の可変表示に関する所定事項に関する識別情報である。

【0088】

普図変動パターン判定テーブルは、遊技状態に関連付けることが可能である。すなわち、普図変動パターン判定テーブルとして、非時短状態のときに用いられる普図変動パターン判定テーブル（非時短普図変動パターン判定テーブル）と、時短状態のときに用いられる普図変動パターン判定テーブル（時短普図変動パターン判定テーブル）と、を区別することが可能である。

40

【0089】

各普図変動パターン判定テーブルには、普図変動パターン判定の結果である普図変動パターンが、停止される普図毎に1つ格納されている。すなわち、パチンコ遊技機PY1は、非時短状態においてと時短状態においてとで、普図変動時間を異ならせることが可能である。例えば、非時短状態においては、ハズレの普図（ハズレ普図）を停止表示する場合の普図の可変表示については普図変動時間が例えば30秒となる普図変動パターンに決定し、当たり図柄を停止表示する場合の普図の可変表示については普図変動時間が例えば30秒となる普図変動パターンに決定する。また、時短状態においては、ハズレ普図を停止表示する場合の普図の可変表示については普図変動時間が例えば5秒となる普図変動パターンに決定し、当たり図柄を停止表示する場合の普図の可変表示については普図変動時間が例えば5秒となる普図変動パターンに決定する。この判定で決定された普図変動パター

50

ンに対応付けられた普図変動時間の普図の可変表示が、普図表示器 8 2 で行われる。また、これら普図変動時間については、適宜に変更することが可能である。このように、当たり判定、および、普図変動パターン判定が行われることによって、普図表示器 8 2 において普図の可変表示が行われる。

【 0 0 9 0 】

3 - 1 - 3 . 補助遊技

補助遊技は、普図の可変表示で、表示結果（普図抽選の結果）として、当たり図柄が停止表示（導出）されると実行される。

【 0 0 9 1 】

補助遊技は、補助遊技を構成する要素（補助遊技構成要素）、すなわち、電チュ 1 2 D が開放する回数、および各開放についての開放時間などの様々な要素が含まれている。そして、これらの各要素は、遊技状態に対応付けられている。パチンコ遊技機 P Y 1 は、遊技状態に基づいて、図 9 (C) に示すような 1 または複数の補助遊技制御テーブルを用いて補助遊技を制御する。補助遊技制御テーブルは、遊技状態に対応付けられている。各補助遊技制御テーブルには、補助遊技構成要素が格納されている。また、これらの各要素における開放回数や開放時間については、適宜に変更することが可能である。

【 0 0 9 2 】

パチンコ遊技機 P Y 1 は、非時短状態における補助遊技と時短状態における補助遊技とで、電チュ 1 2 D の開放時間を異ならせることが可能である。例えば、非時短状態における補助遊技では、第 1 の開放時間（遊技球を電チュ 1 2 D に入賞させるのが困難な時間（例えば 0 . 0 8 秒））だけ電チュ 1 2 D を開放する。なお、以下において、非時短状態における補助遊技のことを「ショート開放補助遊技」ともいう。また、時短状態における補助遊技では、第 1 の開放時間よりも長い第 2 の開放時間（遊技球を電チュ 1 2 D に入賞させるのが容易な時間（例えば 3 . 0 0 秒））だけ電チュ 1 2 D を開放する。なお、以下において、時短状態における補助遊技のことを「ロング開放補助遊技」ともいう。

【 0 0 9 3 】

3 - 2 . 特図に関わる遊技

次に、特図に関わる遊技について説明する。パチンコ遊技機 P Y 1 は、発射された遊技球が第 1 始動口 1 1 に入賞すると、特図 1 抽選を行う。特図 1 抽選が行われると、特図 1 表示器 8 1 a において、特図 1 の可変表示（変動表示を行った後に停止表示）を行って、特図 1 抽選の結果を報知する。ここで、停止表示される特図 1 には、大当たり図柄およびハズレ図柄がある。すなわち、特図 1 抽選の結果には大当たりおよびハズレがある。大当たり図柄が停止表示されると大当たり遊技が実行され、新たな遊技状態が設定されて、当該入賞に基づく遊技が終了する。一方、ハズレ図柄が停止表示されると、大当たり遊技が行われず、当該入賞に基づく遊技が終了する。

【 0 0 9 4 】

同様に、パチンコ遊技機 P Y 1 は、発射された遊技球が第 2 始動口 1 2 に入賞すると、特図 2 抽選を行う。特図 2 抽選が行われると、特図 2 表示器 8 1 b において、特図 2 の可変表示（変動表示を行った後に停止表示）を行って、特図 2 抽選の結果を報知する。ここで、停止表示される特図 2 には、大当たり図柄およびハズレ図柄がある。すなわち、特図 2 抽選の結果には、大当たりおよびハズレがある。大当たり図柄が停止表示されると大当たり遊技が実行され、新たな遊技状態が設定されて、当該入賞に基づく遊技が終了する。一方、ハズレ図柄が停止表示されると大当たり遊技が行われず、当該入賞に基づく遊技が終了する。

【 0 0 9 5 】

なお、以下において、第 1 始動口 1 1 に遊技球が入賞することを「第 1 始動条件の成立」といい、第 2 始動口 1 2 に遊技球が入賞することを「第 2 始動条件の成立」という。また、「第 1 始動条件の成立」と「第 2 始動条件の成立」をまとめて「始動条件の成立」と総称する。また、特別図柄のハズレ図柄については、前述の普図のハズレ図柄と区別する

10

20

30

40

50

ために「ハズレ特図」ともいう。

【0096】

パチンコ遊技機 PY1は、このような一連の遊技（特図抽選、特図の可変表示、大当たり遊技、遊技状態の設定）を行うにあたり、始動条件の成立により、特図関係乱数を取得し、当該乱数について種々の判定を行う。取得する特図関係乱数には、図8（B）に示すように、特別図柄乱数（大当たり乱数）、大当たり図柄種別乱数、リーチ乱数および特図変動パターン乱数がある。特別図柄乱数は大当たり判定を行うための乱数である。大当たり図柄種別乱数は大当たり図柄種別判定を行うための乱数である。リーチ乱数はリーチ判定を行うための乱数である。特図変動パターン乱数は特別図柄の変動パターン判定を行うための乱数である。各乱数には、適宜に範囲が設けられている。なお、乱数を判定情報と言ふこともある。

10

【0097】

3-2-1. 大当たり判定

大当たり判定は、図10（A）に示すような1または複数の大当たり判定テーブルを用いて、大当たりか否か（大当たり遊技を実行するか否か）を決定するための判定である。遊技状態には、通常確率状態と高確率状態とが含まれ、大当たり判定テーブルは、通常確率状態であるか高確率状態であるかに関連付けられている。すなわち、大当たり判定テーブルとして、通常確率状態において用いられる大当たり判定テーブル（通常確率用大当たり判定テーブル）と、高確率状態において用いられる大当たり判定テーブル（高確率用大当たり判定テーブル）と、を区別することが可能である。

20

【0098】

各大当たり判定テーブルでは、大当たり判定の結果である大当たりおよびハズレに、特別図柄乱数の判定値（特別図柄乱数値）が振り分けられている。パチンコ遊技機 PY1は、取得した特別図柄乱数を大当たり判定テーブルに照合して、大当たり又はハズレの何れであるかを判定する。図10（A）に示すように、高確率用大当たり判定テーブルの方が、通常確率用大当たり判定テーブルよりも、大当たりと判定される特別図柄乱数判定値が多く設定されている。また、大当たりの当選確率については、適宜に変更することが可能である。

30

【0099】

3-2-2. 大当たり図柄種別判定

大当たり図柄種別判定は、大当たり判定の結果が大当たりである場合に、図10（B）に示すような1または複数の大当たり図柄種別判定テーブルを用いて大当たり図柄の種別（大当たり図柄種別）を決定するための判定である。大当たり図柄の種別毎に、大当たりの内容、換言すれば、遊技者に付与される遊技特典などで構成される大当たりの構成要素を対応付けることが可能である。

30

【0100】

大当たり図柄種別判定テーブルは、可変表示される特別図柄の種別、言い換えれば、当該大当たり図柄種別判定が起因する（当該大当たり図柄種別判定を発生させた）入賞が行われた始動口の種別に関連付けることが可能である。すなわち、大当たり図柄種別判定テーブルとして、特図1の可変表示を行うときに用いられる大当たり図柄種別判定テーブル（第1大当たり図柄種別判定テーブル）と、特図2の可変表示を行うときに用いられる大当たり図柄種別判定テーブル（第2大当たり図柄種別判定テーブル）と、を区別することが可能である。

40

【0101】

大当たり図柄には複数種類の種別があり、各大当たり図柄種別判定テーブルでは、大当たり図柄種別判定の結果である大当たり図柄種別に、大当たり図柄種別乱数の判定値（大当たり図柄種別乱数値）が振り分けられている。よって、パチンコ遊技機 PY1は、取得した大当たり図柄種別乱数を大当たり図柄種別判定テーブルに照合して、大当たり図柄の種別を判定する。そして、第1大当たり図柄種別判定テーブルおよび第2大当たり図柄種別判定テーブルでは、大当たり図柄種別乱数値が各種大当たり図柄に適宜に振り分けられ

50

ている。また、大当たり図柄種別の振分率については、適宜に変更することが可能である。また、大当たり図柄の種別については、適宜に増加したり減少したりすることが可能である。

【0102】

例えば、図10(B)に示すように、特図1についての大当たり図柄種別判定による大当たり図柄種別の振分率を、大当たり図柄Xが50%、大当たり図柄Yが50%にし、特図2についての大当たり図柄種別判定による大当たり図柄種別の振分率を、大当たり図柄Zが100%にすることが可能である。このように、第1始動口11に遊技球が入賞して行われる特図1抽選と、第2始動口12に遊技球が入賞して行われる特図2抽選とで、大当たり図柄種別の振分率を異ならせることが可能である。

10

【0103】

3-2-3. リーチ判定

リーチ判定は、大当たり判定の結果がハズレである場合に、図10(C)に示すような1または複数のリーチ判定テーブルを用いて、後述する特図変動演出でリーチを発生させるか否かを決定するための判定である。

【0104】

リーチ判定テーブルは、遊技状態に関連付けることが可能である。すなわち、リーチ判定テーブルとして、非時短状態のときに用いられるリーチ判定テーブル(非時短用リーチ判定テーブル)と、時短状態のときに用いられるリーチ判定テーブル(時短用リーチ判定テーブル)と、を区別することが可能である。

20

【0105】

各リーチ判定テーブルでは、リーチ判定の結果である「リーチ有り(リーチを発生させる)」と「リーチ無し(リーチを発生させない)」に、リーチ乱数の判定値(リーチ乱数值)が振り分けられている。よって、パチンコ遊技機PY1は、取得したリーチ乱数をリーチ判定テーブルに照合して、リーチ有りかリーチ無しか(リーチを発生させる否か)を判定する。図10(C)に示すように、非時短用リーチ判定テーブルと時短用リーチ判定テーブルとで、「リーチ有り(リーチを発生させる)」と判定されるリーチ乱数値の数を異ならせることが可能である。なお、以下において、大当たり判定の結果が「ハズレ」であることを前提に行われる「リーチ有り(リーチを発生させる)」のことを「リーチ有りハズレ」といい、「リーチ無し(リーチを発生させない)」のことを「リーチ無しハズレ」ということもある。

30

【0106】

3-2-4. 特図変動

特図変動パターン判定は、図11～図12に示すような1または複数の特別図柄の変動パターン判定テーブル(特図変動パターン判定テーブル)を用いて、特図の可変表示の変動パターン(特図変動パターン)を決定するための判定であり、大当たり判定の結果が大当たり、およびハズレの何れの場合にも行われる。特図変動パターンとは、特図変動時間や後述する特図変動演出の演出フロー(演出内容)などに関する所定事項を識別するための識別情報である。なお、特図変動パターンには、特図変動時間や特図変動演出の演出フロー(演出内容)の他、大当たり判定の結果とリーチ判定の結果に関する識別情報を含ませることが可能である。特図変動パターンとして、それぞれ識別情報が異なる複数種類の特図変動パターンを用いることが可能であり、その数は適宜に変更することが可能である。

40

【0107】

特図変動パターン判定テーブルは、判定対象となる可変表示を行う特別図柄の種別、言い換えれば、当該特図変動パターン判定が起因する入賞が行われた始動口の種別に関連付けることが可能である。すなわち、特図変動パターン判定テーブルとして、特図1の可変表示を行うときに用いられる特図変動パターン判定テーブル(特図1変動パターン判定テーブル:図11)と、特図2の可変表示を行うときに用いられる特図変動パターン判定テーブル(特図2変動パターン判定テーブル:図12)と、を区別することが可能である。

50

【0108】

そして、各特図変動パターン判定テーブルは、遊技状態にも関連付けることが可能である。すなわち、特図1変動パターン判定テーブルとして、非時短状態のときに用いられる特図1変動パターン判定テーブル（非時短用特図1変動パターン判定テーブル）と、時短状態のときに用いられる特図1変動パターン判定テーブル（時短用特図1変動パターン判定テーブル）と、を区別することが可能である。一方、特図2変動パターン判定テーブルについても同様に、非時短状態のときに用いられる特図2変動パターン判定テーブル（非時短用特図2変動パターン判定テーブル）と、時短状態のときに用いられる特図2変動パターン判定テーブル（時短用特図2変動パターン判定テーブル）と、を区別することが可能である。

10

【0109】

また、遊技状態に関連付けられた各特図変動パターン判定テーブルは、さらに、大当たり判定結果、大当たり図柄種別判定結果またはリーチ判定結果にも関連付けることが可能である。すなわち、非時短用特図1変動パターン判定テーブルおよび非時短用特図2変動パターン判定テーブルにはそれぞれ、大当たり用（大当たり図柄種別ごと）、リーチ有りハズレ用、およびリーチ無しハズレ用などがある。同様に、時短用特図1変動パターン判定テーブルおよび時短用特図2変動パターン判定テーブルにもそれぞれ、大当たり用（大当たり図柄種別ごと）、リーチ有りハズレ用、およびリーチ無しハズレ用などがある。

【0110】

さらに、各リーチ無しハズレ用の特図1変動パターン判定テーブルは、特図保留数にも関連付けることが可能である。例えば、特図1保留数（U1）が0～2のときに用いられるリーチ無しハズレ用の特図1変動パターン判定テーブルと、特図1保留数（U1）が3～4のときに用いられるリーチ無しハズレ用の特図1変動パターン判定テーブルと、を区別することが可能である。また、各リーチ無しハズレ用の特図2変動パターン判定テーブルは、特図保留数にも関連付けることが可能である。例えば、特図2保留数（U2）が0～2のときに用いられるリーチ無しハズレ用の特図2変動パターン判定テーブルと、特図2保留数（U2）が3～4のときに用いられるリーチ無しハズレ用の特図2変動パターン判定テーブルと、を区別することが可能である。

20

【0111】

そして、各特図変動パターン判定で決定された特図変動パターンに応じた特図変動時間の特図の可変表示が、特図表示器81で行われる。そして、特図の可変表示で、表示結果（特図抽選の結果）として、大当たり図柄が停止表示されると、即座に次の特図の可変表示が行われず、引き続いて、大当たり遊技が実行される。

30

【0112】

また、各特図変動パターンには、図11～図12の表の右から2番目の欄に示すような特図変動演出の演出フローに関連付けることが可能である。

【0113】

なお、図11～図12の表の一番右の欄に示すように、特図変動パターンについて、特図（大当たり判定結果）および特図変動演出の演出内容などに関連付けて名称を付すことがある。例えば、大当たりに係る特図変動パターンのことを「大当たり変動」という。一方、リーチ有りハズレの中で、リーチの一種であるSPリーチが行われる特図変動パターンのことを「SPハズレ変動」、リーチ有りハズレの中で、リーチの一種であるLリーチが行われる特図変動パターンのことを「Lハズレ変動」、リーチ有りハズレの中で、リーチの一種であるNリーチで特図変動演出が終わる特図変動パターンのことを「Nハズレ変動」、リーチ無しハズレに係る特図変動パターンのことを「通常ハズレ変動」という。

40

【0114】

3-2-5. 先読み判定

パチンコ遊技機PY1は、取得した特図関係乱数に基づいて、図13に示すような1または複数の先読み判定テーブルを用いて先読み判定を行う。先読み判定には、例えば、特別図柄乱数が大当たり判定で大当たりと判定されるか否かの判定、大当たり図柄種別乱数

50

が大当たり図柄種別判定で何れの大当たり図柄の種別に決定されるかの判定、特図変動パターン乱数が特図変動パターン判定で何れの特図変動パターンに決定されるかの判定、などがある。先読み判定テーブルは、その始動入賞に係る始動口の種別に関連付けることが可能である。すなわち、先読み判定テーブルとして、第1始動口11に入賞した場合の先読み判定テーブル（第1先読み判定テーブル）と、第2始動口12に入賞した場合の先読み判定テーブル（第2先読み判定テーブル）と、を区別することが可能である。

【0115】

また、先読み判定テーブルは、遊技状態にも関連付けることが可能である。すなわち、先読み判定テーブルとして、非時短状態のときに用いられる先読み判定テーブル（非時短用先読み判定テーブル）と、時短状態のときに用いられる先読み判定テーブル（時短用先読み判定テーブル）と、を区別することが可能である。

10

【0116】

つまり、先読み判定テーブルには、非時短状態のときに用いられる第1先読み判定テーブルと、時短状態のときに用いられる第1先読み判定テーブルと、非時短状態のときに用いられる第2先読み判定テーブルと、時短状態のときに用いられる第2先読み判定テーブルと、を区別することが可能である。なお、先読み判定にどのような判定を含ませるかは適宜に変更可能である。

【0117】

3 - 3 . 大当たり遊技

次に、大当たり遊技について説明する。大当たり遊技は、大入賞口（第1大入賞口14または第2大入賞口15）の開閉を伴う複数回のラウンド遊技と、大当たり遊技が開始してから初回のラウンド遊技が開始されるまでのオープニング（OPとも表記する）と、最終回のラウンド遊技が終了してから大当たり遊技が終了するまでのエンディング（EDとも表記する）とを含んでいる。各ラウンド遊技は、オープニングの終了又は前のラウンド遊技の終了によって開始し、次のラウンド遊技の開始又はエンディングの開始によって終了する。また、OPやEDを設けないようすることが可能である。なお、以下において、所定回数（所定の順番）のラウンド遊技を、単に「ラウンド」という。例えば、初回（1回目）のラウンド遊技のことを「1ラウンド（1R）」といい、10回目のラウンド遊技のことを「10ラウンド（10R）」という。

20

【0118】

このような大当たり遊技を構成する要素（大当たり遊技構成要素）には、ラウンド遊技の回数、各回のラウンド遊技における大入賞口（第1大入賞口14または第2大入賞口15）の開放回数、各開放が行われる大入賞口の種別および開放時間（開放パターン）、次回の開放まで閉鎖させる時間（閉鎖時間）、オープニングの時間（オープニング時間）、およびエンディングの時間（エンディング時間）などが含まれている。パチンコ遊技機PY1は、特図の停止表示後、図14に示すような1または複数の大当たり遊技制御テーブルを用いて大当たり遊技を制御する。大当たり遊技制御テーブルには、大当たり遊技毎に大当たり遊技構成要素が格納されている。大当たり遊技として、1種類又は複数種類の大当たり遊技を制御することが可能である。

30

【0119】

例えば、図14に示すように、1Rから15Rまでは、最大で29.5秒にわたって第1大入賞口14が開放するラウンド遊技、または、最大で0.1秒にわたって第1大入賞口14が開放するラウンド遊技、が行われる。そして、16R（最終ラウンド）では、最大で29.5秒にわたって第2大入賞口15が開放するラウンド遊技、または、最大で0.1秒にわたって第2大入賞口15が開放するラウンド遊技、が行われる。また、各ラウンド遊技では、予め定めた所定個数（例えば10個）の遊技球が大入賞口センサに検知されると、大入賞口14, 15の最大開放時間が経過する前であっても、ラウンド遊技を終了させる。

40

【0120】

また、各要素における回数や時間については、適宜に変更することが可能である。また

50

、大当たり遊技を、第1大入賞口14および第2大入賞口15の両方を用いて行うことも一方だけを用いて行うことも可能である。

【0121】

ここで、特定領域16について詳細に説明する。特定領域16は、振分部材16kによって、入賞不可能な閉状態と、入賞可能な開状態とをとるので、振分部材16kの作動態様は、特定領域16の開閉態様ということができる。以下において、振分部材16kの作動態様のことを「特定領域16の開閉態様」ともいう。このように、振分部材16kが一定の作動態様（特定領域16が一定の開閉態様）で制御されるが、振分部材16kの一定の作動態様（特定領域16の一定の開閉態様）と、大当たり遊技における第2大入賞口15の開閉態様との組み合わせで、大当たり遊技において遊技球を特定領域16に進入させることの困難性（容易性）が設定されることになる。なお、以下において、特定領域16が開状態にあることを「V開放」ともいう。

10

【0122】

第2大入賞口の開放が開始してから15秒間、振分ソレノイド16sが通電され、振分部材16kが第2状態（図3（B））に制御される。よって、最大で29.5秒にわたって第2大入賞口15が開放するラウンド遊技では、第2大入賞口15の開放時間およびタイミングと、振分部材16kの第2状態に制御されている時間およびタイミングとの関係から、遊技球が特定領域16を通過する（遊技球を特定領域16に進入させる）ことが容易である。一方、最大で0.1秒にわたって第2大入賞口15が開放するラウンド遊技では、第2大入賞口15の開放時間およびタイミングと、振分部材16kの第2状態に制御されている時間およびタイミングとの関係から、遊技球が特定領域16を通過する（遊技球を特定領域16に進入させる）ことはほぼ不可能（困難）である。このように、大当たり遊技には、当該大当たり遊技中に、遊技球の特定領域16の通過（以下、「V通過」ともいう）が容易な第1開放パターン（Vロング開放パターン）でVAT開閉部材15k及び振分部材16kが作動する大当たり遊技と、遊技球の特定領域16の通過が不可能又は困難な第2開放パターン（Vショート開放パターン）でVAT開閉部材15k及び振分部材16kが作動する大当たり遊技と、を実行することが可能である。このように、Vロング開放パターンでVAT開閉部材15k及び振分部材16kが作動する大当たり遊技を「Vロング大当たり」という。一方、Vショート開放パターンでVAT開閉部材15k及び振分部材16kが作動する大当たり遊技を「Vショート大当たり」という。

20

【0123】

3-4. 遊技状態

次に、遊技状態について説明する。パチンコ遊技機PY1は、図15に示すように、「低確率低ベース遊技状態」、「低確率高ベース遊技状態」、「高確率低ベース遊技状態」、「高確率高ベース遊技状態」および「大当たり遊技状態」の何れかの遊技状態にすることが可能である。なお、「低確率低ベース遊技状態」を「低確率ベース状態」と、「低確率高ベース遊技状態」を「低確率高ベース状態」と、「高確率低ベース遊技状態」を「高確率低ベース状態」と、「高確率高ベース遊技状態」を「高確率高ベース状態」と、それぞれ略称することができる。遊技状態を構成する状態として、大当たり判定において「大当たり」と判定される確率に係る状態と、電チューリングの開放の容易性に係る状態とがある。前者としては、通常確率状態と高確率状態とがある。一方、後者としては非時短状態と時短状態とがある。

30

【0124】

通常確率状態は、「低確率低ベース遊技状態」または「低確率高ベース遊技状態」において設定され、大当たり判定で大当たりと判定される確率が通常の確率である状態である。高確率状態は、「高確率低ベース遊技状態」または「高確率高ベース遊技状態」において設定され、大当たり判定で大当たりと判定される確率が通常確率より高い高確率である状態である。従って、高確率状態は通常確率状態よりも遊技者に有利な状態であると言える。パチンコ遊技機PY1で初めて電源投入されたときには通常確率状態が設定される。そして、大当たりに当選することによって通常確率状態から高確率状態に切り替えること

40

50

が可能になる。例えば、大当たり遊技において遊技球が特定領域 1 6 を通過することによって高確率状態に切り替えることが可能である。また、大当たり図柄の種別によって高確率状態に切り替えることも可能である。高確率状態は、大当たりに当選することなく所定回数の大当たり判定が行われることや、次回の大当たりに当選することで、高確率状態から通常確率状態に切り替えることが可能である。

【 0 1 2 5 】

非時短状態は、「低確率低ベース遊技状態」、「高確率低ベース遊技状態」または「大当たり遊技状態」において設定される。時短状態は、「低確率高ベース遊技状態」または「高確率高ベース遊技状態」において設定され、非時短状態に比べて、1回の補助遊技における電チュー 1 2 D の開放時間が長くなり易い遊技状態である。例えば、時短状態においては、非時短状態における電チュー 1 2 D の開放時間（例えば 0.08 秒）よりも長い開放時間（例えば 3.00 秒）となる。また、時短状態では、特図変動時間の短い特図変動パターンが選択されることが非時短状態よりも多くなるように定められた特図変動パターン判定テーブルを用いて、特図変動パターン判定が行われるようにすることも可能である（図 1 1 ~ 図 1 2 参照）。その結果、時短状態では、特図保留の消化のペースが速くなり、始動口への有効な入賞（特図保留として記憶され得る入賞）が発生しやすくなる。そのため、スムーズな遊技の進行のもとで大当たりを狙うことができる。

10

【 0 1 2 6 】

また、時短状態は、非時短状態に比べて、普図変動時間が短くなり易くすることが可能である。例えば、時短状態においては、非時短状態において決定される普図変動時間（30 秒）よりも短い普図変動時間（5 秒）が決定される。よって、時短状態の方が、単位時間当たりにおける普図抽選の実行回数が多い。

20

【 0 1 2 7 】

また、時短状態は、非時短状態に比べて、当たり判定で当たりと判定され易くすることが可能である。例えば、時短状態では、非時短状態で当たりと判定される確率（例えば 6600 / 65536）よりも高い確率（例えば 59936 / 65536）で当たりと判定される。よって、時短状態の方が、単位時間当たりにおいて当たり判定で当たりと判定される回数が多い。

【 0 1 2 8 】

このように時短状態では、非時短状態に比して、単位時間当たりの電チュー 1 2 D の開放時間が長くなり、第 2 始動口 1 2 へ遊技球が頻繁に入賞し易くなる。その結果、発射球数に対する賞球数の割合であるベースが高くなる。そのため、ベースの高い時短状態では、所持する遊技球を大きく減らすことなく大当たり当選を狙うことができる。従って、時短状態は非時短状態よりも遊技者に有利な状態であると言える。

30

【 0 1 2 9 】

パチンコ遊技機 PY 1 で初めて電源投入されたときには非時短状態が設定される。そして、例えば、大当たりに当選することによって時短状態が設定可能になる。時短状態は、大当たりに当選することなく所定回数の大当たり判定が行われることや、次回の大当たりに当選することで、時短状態から非時短状態に変更することが可能である。

40

【 0 1 3 0 】

なお、時短状態では、非時短状態に比して、当たりに当選し易く、普図変動時間が短くなり易く、且つ、1回の補助遊技における電チュー 1 2 D の開放時間が長くなり易い。普図に係る遊技について 3 つの点で、遊技者に有利に設定されている。しかし、この遊技者に有利に設定されている点はこれらの中の一部であってもよい。

【 0 1 3 1 】

なお、パチンコ遊技機 PY 1 で初めて電源投入された後の遊技状態は、通常確率状態且つ非時短状態が設定される「低確率低ベース遊技状態」である。この遊技状態を「通常遊技状態」ともいう。なお、「大当たり遊技状態」では、当たり判定は行われるが大当たり判定は行われないため、大当たり遊技の開始に伴って、非時短状態が設定される。また、遊技状態については、前述した遊技状態の全てを用いることも一部だけを用いることも可

50

能である。

【0132】

4. 遊技機による主な演出

次に、パチンコ遊技機 PY1により行われる主な演出について、図16～図22を用いて説明する。

【0133】

4-1. 演出モード

最初に、演出モードについて説明する。演出モードは、演出の区分（あるいは、上位概念的な属性）のことである。パチンコ遊技機 PY1は、演出モードとして、客待ち演出モード、通常演出モードと、確変演出モード、時短演出モードおよび大当たり演出モードを設定することが可能である。

【0134】

客待ち演出モードは、「低確率低ベース遊技状態」、「低確率高ベース遊技状態」、「高確率低ベース遊技状態」および「高確率高ベース遊技状態」において特図変動演出が行われていないときに設定可能であり、特図変動演出が行われていない待機状態であることを示す演出モードである。客待ち演出モードが設定されているときに客待ち演出が行われる。客待ち演出では、例えば、図16(A-1)に示すように、表示部50aにおいてパチンコ遊技機PY1を紹介する客待ちデモ動画G100が表示される。また、客待ちデモ動画G100が表示されているときに通常ボタン40が操作されると、図16(A-2)に示すように、パチンコ遊技機PY1の演出に関する設定を行うための設定画面G101が表示される。演出に関する設定には、スピーカ52から出力される音の音量設定、表示部50aの輝度設定（「光量設定」）、実行される演出の頻度設定（「演出設定」）などがある。

【0135】

通常演出モードは、「低確率低ベース遊技状態」または「高確率低ベース遊技状態」において特図変動演出が行われているときに設定可能であり、非時短状態であることを示す演出モードである。通常演出モードには、例えば、図16(B-1)に示すように、表示部50aにおいて昼間の山の景色を表す背景画像（昼間通常用背景画像G102）が表示される第1通常演出モードと、図16(B-2)に示すように、表示部50aにおいて夕方の山の景色を表す背景画像（夕方通常用背景画像G103）が表示される第2通常演出モードと、図16(B-3)に示すように、表示部50aにおいて夜間の山の景色を表す背景画像（夜間通常用背景画像G104）が表示される第3通常演出モードと、があり、大当たりに当選することなく1回または複数回の特図変動演出が行われることを1つの条件として切り替えられる。さらに、第1～第3通常演出モードのそれぞれには、特図変動演出において、リーチが成立する前の通常前段演出モードと、リーチが成立した後の通常後段演出モードと、がある。通常前段演出モードでは、表示部50aにおいて、昼間通常用背景画像G102、夕方通常用背景画像G103および夜間通常用背景画像G104の何れかが表示されるが、通常後段演出モードでは、リーチの種類に応じた専用の背景画像が表示される。また、「高確率低ベース遊技状態」においてのみ設定される特殊演出モードを設けても良い。

【0136】

確変演出モードは、「高確率高ベース遊技状態」において特図変動演出が行われているときに設定可能な演出モードであり、高確率状態且つ時短状態であることを示す演出モードである。確変演出モードでは、例えば、図16(B-4)に示すように、表示部50aにおいて宇宙を表す背景画像（確変用背景画像G105）が表示される。さらに、確変演出モードには、特図変動演出において、リーチが成立する前の確変前段演出モードと、リーチが成立した後の確変後段演出モードと、がある。確変前段演出モードでは、表示部50aにおいて、確変用背景画像G105が表示されるが、確変後段演出モードでは、リーチの種類に応じた専用の背景画像が表示される。

【0137】

10

20

30

40

50

時短演出モードは、「低確率高ベース遊技状態」において特図変動演出が行われているときに設定可能な演出モードであり、通常確率状態且つ時短状態であることを示す演出モードである。時短演出モードでは、例えば、図16(B-5)に示すように、表示部50aにおいて空を表す背景画像(時短用背景画像G106)が表示される。さらに、時短演出モードには、特図変動演出において、リーチが成立する前の時短前段演出モードと、リーチが成立した後の時短後段演出モードと、がある。時短前段演出モードでは、表示部50aにおいて、時短用背景画像G106が表示されるが、時短後段演出モードでは、リーチの種類に応じた専用の背景画像が表示される。

【0138】

大当たり演出モードは、「大当たり遊技状態」において大当たり遊技が行われているときに設定可能な演出モードであり、大当たり遊技が行われていることを示す演出モードである。大当たり演出モードでは、例えば、大当たり遊技におけるオープニング中には、図16(C-1)に示すように、表示部50aにおいて、大当たり遊技の開始を示唆するオープニング画像G107や「右打ち」を促す右打ち画像G108が表示される大当たりオープニング演出が行われる。大当たり遊技におけるラウンド中には、図16(C-2)に示すように、表示部50aにおいて、ラウンド数を示すラウンド画像G109や払い出された賞球数を示唆する賞球数画像G110が表示されるラウンド演出が行われる。大当たり遊技におけるエンディング中には、図16(C-3)に示すように、表示部50aにおいて、大当たり遊技後に設定される演出モードを示唆するエンディング画像G111や払い出された総賞球数を示唆する総賞球数画像G112が表示される大当たりエンディング演出が行われる。

10

20

30

【0139】

なお、演出モードの種類については、適宜に変更または追加することが可能である。

【0140】

4-2. 特図変動演出

次に、特図変動演出(単に「変動演出」とも言う)について説明する。パチンコ遊技機PY1は、特図の可変表示が開始されると、特図の可変表示に係る特図変動パターンおよび特図抽選結果(大当たり判定結果、大当たり図柄種別判定結果、リーチ判定結果、および、特図変動パターン判定結果)などに基づいて、特図変動演出を実行する。特図変動演出では、表示部50aにおいて、所定の背景画像に重畳的に、演出図柄の変動表示が行われる。演出図柄は、例えば1~9の数字図柄で構成され、演出図柄の変動表示では、特図の可変表示の開始に伴って演出図柄が変動し、特図の可変表示の終了に伴って演出図柄が停止する。すなわち、特図変動時間、演出図柄の変動表示が行われた後に、当該変動が停止して、演出図柄の停止表示(本停止表示)が行われる。そして、演出図柄の停止表示によって特図抽選の結果が報知される。

30

【0141】

なお、特図変動演出では、演出図柄の変動表示以外に、画像表示装置50、スピーカ52、枠ランプ53、盤ランプ54、可動装置55, 56, 58、通常ボタン40、特殊ボタン41などの様々な演出装置を用いた他の演出を行うことが可能である。この場合、演出図柄の停止表示後も、他の演出を継続して行うことが可能である。

40

【0142】

4-2-1. 演出図柄表示領域

画像表示装置50の表示部50aには、図17(A)に示すように、表示部50aを水平方向に3つに略均等に分けた左側、中央および右側それぞれに、左演出図柄領域50b1、中演出図柄領域50b2、および右演出図柄領域50b3を設けることが可能である。左演出図柄領域50b1は、特図変動演出における演出図柄の停止表示のときに、左演出図柄EZ1を表示する領域である。同様に、中演出図柄領域50b2および右演出図柄領域50b3は、中演出図柄EZ2および右演出図柄EZ3を表示する領域である。

【0143】

また、図17(A)に示すように、表示部50aの上端部の左端(左上隅)の一区画に

50

、小図柄領域 50c を設けることが可能である。小図柄領域 50c は、特図の可変表示が行われているときに小図柄 KZ1, KZ2, KZ3 を変動表示する領域である。小図柄 KZ1, KZ2, KZ3 は、例えば、1~9 の数字図柄で構成される。

【0144】

なお、図 17 (A)において、左演出図柄領域 50b1、中演出図柄領域 50b2、右演出図柄領域 50b3、および小図柄領域 50c は二点鎖線で明示されているが、これは左演出図柄領域 50b1、中演出図柄領域 50b2、右演出図柄領域 50b3、および小図柄領域 50c の範囲を表すために記載したものであり、実際には表示されていない。

【0145】

4-2-2. 通常変動

パチンコ遊技機 PY1 は、特図変動演出において、先ず通常変動を行うことが可能である。通常変動は、特図の可変表示が開始されたことを示唆する演出として機能する。

【0146】

特図の可変表示が開始されると、例えば、図 17 (A) に示すように、表示部 50a において、左演出図柄 EZ1、中演出図柄 EZ2 および右演出図柄 EZ3 が停止表示されていると共に、左小図柄 KZ1、中小図柄 KZ2 および右小図柄 KZ3 が停止表示されており、特図の可変表示が行われておらず、特図の可変表示を待機している状態から、図 17 (B) に示すように、その開始に伴って演出図柄 EZ1, EZ2, EZ3 の変動表示が開始されると共に、小図柄 KZ1, KZ2, KZ3 の変動表示が開始される。なお、図 17 中の「」は、図柄の変動表示中であることを示している。そして、この特図の可変表示の特図変動パターンが、例えば「通常ハズレ変動」の場合には、図 17 (C-1) に示すように、左演出図柄 EZ1 と右演出図柄 EZ3 とが異なる停止態様で仮停止してから、図 17 (D) に示すように、ハズレを示唆する停止態様（所謂バラケ目）で演出図柄 EZ1, EZ2, EZ3 が停止表示する。このとき、小図柄 KZ1, KZ2, KZ3 もハズレを示唆する停止態様で一斉に停止表示する。ハズレを示唆する停止態様には、「1・1・2」や「2・4・6」など、左右の図柄が同一ではない停止態様が複数種類ある。一方、特図の可変表示の特図変動パターンが、例えば「Nハズレ変動」などのリーチ有りの特図変動パターンの場合には、図 17 (C-2) に示すように、左演出図柄 EZ1 と右演出図柄 EZ3 とが同じ停止態様（所謂リーチ目）で仮停止して、リーチが成立する。このとき、小図柄 KZ1, KZ2, KZ3 の変動表示は継続して行われ、特図変動パターンに応じたリーチ演出が行われる。なお、演出図柄 EZ1, EZ2, EZ3 の停止順序や停止態様は、適宜に変更することが可能である。

【0147】

4-2-3. Nリーチ

パチンコ遊技機 PY1 は、通常変動においてリーチが成立すると Nリーチを行なうことが可能である。Nリーチは、大当たり判定の結果が「大当たり」であった可能性があることを示唆する演出であり、遊技者に大当たりを期待させるための演出として機能する。

【0148】

Nリーチでは、図 18 (A) に示すように、リーチが成立した状態が所定時間（例えば、10秒）維持され、図 18 (B) に示すように、中演出図柄 EZ2 の変動速度が徐々に減速していく。そして、特図の可変表示の特図変動パターンが、例えば「Nハズレ変動」の場合には、図 18 (C-1) に示すように、リーチハズレを示唆する停止態様（所謂リーチハズレ目）で演出図柄 EZ1, EZ2, EZ3 が停止表示する。このとき、小図柄 KZ1, KZ2, KZ3 もリーチハズレを示唆する停止態様で一斉に停止表示する。リーチハズレを示唆する停止態様には、「7・6・7」や「5・3・5」など、左右の図柄が同一且つ中の図柄が左右の図柄と異なる停止態様が複数種類ある。一方、特図の可変表示の特図変動パターンが、例えば「N大当たり変動」の場合には、図 18 (C-2) に示すように、大当たりを示唆する停止態様（所謂ゾロ目）で停止表示する。大当たりを示唆する停止態様には、「7・7・7」や「2・2・2」など、左右中の図柄が同一の停止態様が複数種類ある。このとき、小図柄 KZ1, KZ2, KZ3 も大当たりを示唆する停止態様

10

20

30

40

50

で一斉に停止表示する。なお、Nリーチの演出内容は、中演出図柄EZ2が徐々に減速することに限られず、適宜に変更または追加することが可能である。

【0149】

4-2-4. SPリーチ

パチンコ遊技機PY1は、Nリーチの後にSPリーチを行うことが可能である。SPリーチは、大当たり判定の結果が「大当たり」であった可能性が、Nリーチよりも高いことを示唆する演出であり、遊技者に大当たりを期待させるための演出として機能する。

【0150】

SPリーチでは、Nリーチの後に、例えば、図19(A)に示すように、表示部50aにSPリーチ専用の背景画像(SPリーチ用背景画像G113)が表示され、表示部50aの中央にSPリーチが開始されたことを表す画像(SPリーチ開始タイトル画像)G1が表示される。その後、図19(B)に示すように、SPリーチ専用演出(例えばバトル演出)が行われる。そして、SPリーチ専用演出の最終局面を迎えると、特図の可変表示の特図変動パターンが、例えば「SP大当たり変動」の場合には、図19(C-1)に示すように、表示部50aに、大当たりを示唆する演出(例えば、主人公キャラクタがバトルに勝利して喜んでいる表示)が行われるとともに、演出図柄EZ1, EZ2, EZ3が大当たりを示唆する停止態様(所謂ゾロ目)で停止表示する。このとき、小図柄KZ1, KZ2, KZ3も大当たりを示唆する停止態様で一斉に停止表示する。一方、特図の可変表示の特図変動パターンが、例えば「SPハズレ変動」の場合には、図19(C-2)に示すように、ハズレを示唆する演出(例えば、敵キャラクタがバトルに勝利して喜んでいる表示)が行われるとともに、演出図柄EZ1, EZ2, EZ3がリーチハズレを示唆する停止態様で停止表示する。このとき、小図柄KZ1, KZ2, KZ3もハズレを示唆する停止態様で一斉に停止表示する。なお、SPリーチの演出内容は、適宜に変更または追加することが可能である。

10

20

30

40

【0151】

ここで、各リーチに対する演出図柄EZ1, EZ2, EZ3が大当たりを示す態様で停止される可能性(大当たり期待度)について詳細に説明する。各リーチに対する大当たり期待度は、大当たり判定の結果に基づく実行確率によって定められる。例えば、Nリーチの実行確率を、大当たり判定の結果が「ハズレ」の場合には10%とし、大当たり判定の結果が「大当たり」の場合には100%とした場合、SPリーチの実行確率を、大当たり判定の結果が「ハズレ」の場合には4%とし、大当たり判定の結果が「大当たり」の場合には100%とすれば、SPリーチの大当たり期待度を、Nリーチの大当たり期待度よりも高く設定することが可能である。また、SPリーチとしてSPリーチAとSPリーチBとを実行可能にし、SPリーチAの実行確率を、大当たり判定の結果が「ハズレ」の場合には2%とし、大当たり判定の結果が「大当たり」の場合には20%とした場合、SPリーチBの実行確率を、大当たり判定の結果が「ハズレ」の場合には2%とし、大当たり判定の結果が「大当たり」の場合には30%とすれば、SPリーチBの大当たり期待度を、SPリーチAの大当たり期待度よりも高く設定することが可能である。このように、大当たり判定の結果に応じた実行確率を適宜に設定することで、大当たり期待度を設定することが可能である。

30

40

【0152】

4-3. 保留アイコン表示領域

画像表示装置50の表示部50aには、図20(A)に示すように、4つの表示領域からなる保留アイコン表示領域50dを設けることが可能である。保留アイコン表示領域50dは、第1表示領域50d1、第2表示領域50d2、第3表示領域50d3および第4表示領域50d4で構成され、特図1保留数または特図2保留数に応じて、各表示領域50d1, 50d2, 50d3, 50d4に、保留アイコンHAを表示することが可能である。例えば、特図1保留数が『1』の場合には、第1表示領域50d1に保留アイコンHAが表示され、特図1保留数が『2』の場合には、第1表示領域50d1と第2表示領域50d2とに保留アイコンHAが表示される。

50

【0153】

また、保留アイコン表示領域 50d の近傍に、図 20 (A) に示すように、1 つの表示領域からなる当該アイコン表示領域 50e を設けることが可能である。当該アイコン表示領域 50e は、特図変動演出が開始されることに応じて、保留アイコン HA と同じまたは異なる当該アイコン TA を表示することが可能である。

【0154】

なお、保留アイコン表示領域 50d を構成する表示領域の数については、適宜に変更することが可能である。また、保留アイコン表示領域 50d を、特図 1 保留数および特図 2 保留数の両方を表示する表示領域とすることも一方だけを表示する表示領域とすることも可能である。

10

【0155】

4 - 3 - 1 . 保留演出

パチンコ遊技機 PY1 は、遊技球が第 1 始動口 11 または第 2 始動口 12 に入賞することに応じて、保留演出を行うことが可能である。保留演出は、特図 1 保留または特図 2 保留の数を遊技者に報知することが可能である。

【0156】

保留演出では、特図 1 保留数が『0』のときに遊技球が第 1 始動口 11 に入賞すると、特図変動演出が開始され、例えば、図 20 (B) に示すように、当該アイコン表示領域 50e に当該アイコン TA が表示される。そして、特図変動演出中に更に 2 個の遊技球が第 1 始動口 11 に入賞すると、図 20 (C) に示すように、保留アイコン表示領域 50d の第 1 表示領域 50d1 と第 2 表示領域 50d2 とに保留アイコン HA が表示され、特図 1 保留数が『2』であることが遊技者に報知される。その後、特図変動演出が終了し、新たな特図変動演出が開始されると、図 20 (D) に示すように、保留アイコン表示領域 50d の第 1 表示領域 50d1 に表示されていた保留アイコン HA が、当該アイコン表示領域 50e に移動して当該アイコン TA として表示され、保留アイコン表示領域 50d の第 2 表示領域 50d2 に表示されていた保留アイコン HA が、第 1 表示領域 50d1 に移動して表示され、特図 1 保留数が『1』であることが遊技者に報知される。

20

【0157】

4 - 4 . 予告演出

パチンコ遊技機 PY1 は、特図変動演出中の任意のタイミングで予告演出を行うことが可能である。予告演出は、画像表示装置 50、スピーカ 52、枠ランプ 53、盤ランプ 54、可動装置 55, 56, 58、入力装置 40, 41 等を用いた演出であり、大当たり判定の結果や特図変動パターン判定の結果を示唆することが可能である。

30

【0158】

4 - 4 - 1 . 可動体演出

パチンコ遊技機 PY1 は、予告演出として、可動装置 55, 56, 58 を用いた可動体演出を行うことが可能である。可動体演出は、可動装置 55, 56, 58 を作動させる演出であり、遊技者に大当たりを期待させるための演出として機能する。

【0159】

可動体演出では、例えば、N リーチから S P リーチに発展する際に、図 21 (A) に示すように、盤上可動装置 55 および盤下可動装置 56 が作動し、盤上可動体 55k と盤下可動体 56k とが、遊技者から見て、表示部 50a 上に重なるように移動して、S P リーチに発展することが示唆される。このとき、表示部 50a の盤上可動体 55k および盤下可動体 56k と重なっていないスペースにはエフェクト画像が表示される。その後、図 21 (B) に示すように、盤上可動体 55k と盤下可動体 56k とが、通常の待機状態に戻って S P リーチに発展する。なお、可動体演出については、S P リーチへの発展示唆に限られず、適宜に変更または追加することが可能である。また、可動体演出における可動装置の作動内容は、適宜に変更または追加することが可能である。

40

【0160】

4 - 4 - 2 . 操作演出

50

パチンコ遊技機 P Y 1 は、予告演出として、通常ボタン 4 0 や特殊ボタン 4 1 を用いた操作演出を行うことが可能である。操作演出は、遊技者が通常ボタン 4 0 や特殊ボタン 4 1 を操作する演出であり、遊技者に大当たりを期待させるための演出として機能する。

【 0 1 6 1 】

操作演出では、例えば、S P リーチにおいて、特殊ボタン 4 1 の押下操作が有効な期間（ボタン操作有効期間）が発生し、このボタン操作有効期間の発生に伴って、図 2 2 (A) に示すように、特殊ボタン 4 1 の操作を促す演出（ボタン操作促進演出）が行われる。ボタン操作促進演出において、表示部 5 0 a に、ボタン操作促進画像 G 3 が表示される。ボタン操作促進画像 G 3 は、特殊ボタン 4 1 を模した画像（特殊ボタン画像 G 3 1 ）と、特殊ボタン 4 1 の操作態様（すなわち、押下操作）を表す画像（押下操作画像 G 3 2 ）と、ボタン操作有効期間の残り時間を表す画像（操作有効期間残り時間画像 G 3 3 ）と、を含む。なお、操作有効期間残り時間画像 G 3 3 は、おおむね曲線状のプログレスバーからなり、時間の経過に伴って、遊技者が操作有効期間の残り時間を容易に理解できるようになります。その後、ボタン操作有効期間において特殊ボタン 4 1 が押下操作されることに応じて、または、ボタン操作有効期間において特殊ボタン 4 1 が操作されることなくボタン操作有効期間が経過した後、図 2 2 (B) に示すように、盤上可動装置 5 5 が作動し、遊技者から見て、盤上可動体 5 5 k が表示部 5 0 a 上に重なるように移動して、大当たり期待度が示唆される。なお、操作演出については、盤上可動装置 5 5 の作動に限られず、適宜に変更または追加することが可能である。

10

【 0 1 6 2 】

20

4 - 4 - 3 . 先読み演出

パチンコ遊技機 P Y 1 は、予告演出として、特図抽選が行われていない特図 1 保留または特図 2 保留に対する先読み演出を行うことが可能である。先読み演出は、特図 1 保留または特図 2 保留に対する特図抽選の抽選結果を事前に示唆するための演出として機能する。

30

【 0 1 6 3 】

先読み演出では、例えば、特図 1 保留に対する先読み判定の結果が「大当たり」の場合、図 2 0 (C) に示すように、保留アイコン表示領域 5 0 d に通常は「○」で表示される保留アイコン H A を「 」で表示することがある。また、先読み判定の結果が「ハズレ」の場合に、所謂ガセ演出として、保留アイコン H A を「 」で表示することがある。なお、先読み演出は、特図 1 保留および特図 2 保留の両方または一方に対して行うことが可能である。また、保留アイコン H A の表示態様の変化に限られず、適宜に変更または追加することが可能である。例えば、特図変動演出における演出図柄 E Z 1 , E Z 2 , E Z 3 の停止態様を変化させることも可能である。

30

【 0 1 6 4 】

40

5 . 遊技制御用マイコン 1 0 1 による遊技の制御

次に図 2 3 ~ 図 2 4 に基づいて遊技制御用マイコン 1 0 1 による遊技の制御について説明する。なお、以下において説明する遊技制御用マイコン 1 0 1 による遊技の制御において登場するカウンタ、タイマ、バッファ等は、遊技用 R A M 1 0 4 に設けられている。

【 0 1 6 5 】

40

[1 . 主制御メイン処理]

主制御基板 1 0 0 に備えられた遊技制御用マイコン 1 0 1 は、パチンコ遊技機 P Y 1 が電源投入されると、遊技用 R O M 1 0 3 から図 2 3 に示した主制御メイン処理のプログラムを読み出して実行する。同図に示すように、主制御メイン処理では、まず、電源投入時処理 (S 0 0 1) を行う。電源投入時処理では、遊技用 R A M 1 0 4 へのアクセスの許可設定、遊技用 C P U 1 0 2 の設定、S I O 、P I O 、C T C (割り込み時間の管理のための回路) の設定等が行われる。

【 0 1 6 6 】

50

電源投入時処理に次いで、割り込みを禁止し (S 0 0 2) 、普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理 (S 0 0 3) を実行する。この普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理 (S 0 0

3) では、図 8 (A) および図 8 (B) に示した種々の乱数のカウンタ値を 1 加算して更新する。各乱数のカウンタ値は上限値に達すると「 0 」に戻って再び加算される。なお各乱数のカウンタの初期値は「 0 」以外の値であってもよく、ランダムに変更されるものであってもよい。また各乱数のうちの少なくとも一部は、カウンタ I C 等からなる公知の乱数生成回路を利用して生成される所謂ハードウェア乱数であってもよい。

【 0167 】

普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理 (S 0 0 3) が終了すると、割り込みを許可する (S 0 0 4)。割り込み許可中は、メイン側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) の実行が可能となる。メイン側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) は、例えば 4 m s e c 周期で遊技用 C P U 1 0 2 に繰り返し入力される割り込みパルスに基づいて実行される。すなわち、メイン側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) は 4 m s e c 周期で実行される。そして、メイン側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) が終了してから、次にメイン側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) が開始されるまでの間に、普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理 (S 0 0 3) による種々の乱数のカウンタ値の更新処理が繰り返し実行される。なお、割り込み禁止状態のときに遊技用 C P U 1 0 2 に割り込みパルスが入力された場合は、メイン側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) はすぐには開始されず、割り込み許可 (S 0 0 4) がされてから開始される。

10

【 0168 】

【 2 . メイン側タイマ割り込み処理 】

次に、メイン側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) について説明する。図 2 4 に示すように、メイン側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) では、まず出力処理 (S 1 0 1) を実行する。出力処理 (S 1 0 1) では、以下に説明する各処理において主制御基板 1 0 0 の遊技用 R A M 1 0 4 に設けられた出力バッファにセットされたコマンド等を、サブ制御基板 1 2 0 や払出制御基板 1 7 0 等に出力する。

20

【 0169 】

出力処理 (S 1 0 1) に次いで行われる入力処理 (S 1 0 2) では、遊技制御用マイコン 1 0 1 は、例えば、下皿 3 5 の満杯を検出する下皿満杯スイッチからの検出信号を取り込み、下皿満杯データとして遊技用 R A M 1 0 4 の出力バッファに記憶する。

【 0170 】

次に行われる普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理 (S 1 0 3) は、図 2 3 の主制御メイン処理で行う普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理 (S 0 0 3) と同じである。すなわち、図 8 (A) および図 8 (B) に示した各種乱数のカウンタ値の更新処理は、メイン側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) の実行期間と、それ以外の期間 (メイン側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) の終了後、次のメイン側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) が開始されるまでの期間) との両方で行われている。

30

【 0171 】

普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理 (S 1 0 3) に次いで、遊技制御用マイコン 1 0 1 は、センサ検出処理 (S 1 0 4) を行い、続いて普通動作処理 (S 1 0 5) を行い、さらに特別動作処理 (S 1 0 6) を行う。センサ検出処理、普通動作処理および特別動作処理については後述する。

40

【 0172 】

特別動作処理 (S 1 0 6) に次いで、振分装置 1 6 D を制御するための振分装置制御処理を行う (S 1 0 7) 。

【 0173 】

次に、遊技制御用マイコン 1 0 1 は、その他の処理 (S 1 0 8) を実行して、メイン側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) を終了する。その他の処理 (S 1 0 8) としては、電源が断たれる際の電源断監視処理、遊技用 R A M 1 0 4 に設けられているタイマの更新などが行われる。また、その他の処理 (S 1 0 8) として、遊技者に賞球を払い出す払出制御処理が行われる。払出制御処理では、各入賞口への遊技球の入賞に応じて、賞球要求信号を払出制御基板 1 7 0 に送信する。つまり、払出制御基板 1 7 0 は、賞球要求信号に基づ

50

いて、賞球を払い出す。

【0174】

そして、遊技制御用マイコン101は、次に遊技用CPU102に割り込みパルスが入力されるまでは主制御メイン処理のステップS002～S004の処理を繰り返し実行し(図23参照)、割り込みパルスが入力されると(約4 msec後)、再びメイン側タイマ割り込み処理(S005)を実行する。遊技制御用マイコン101は、再び実行されたメイン側タイマ割り込み処理(S005)の出力処理(S101)において、前回のメイン側タイマ割り込み処理(S005)にて遊技用RAM104の出力バッファにセットされたコマンド等を出力する。

【0175】

[2-1. センサ検出処理]

センサ検出処理(S104)では、一般入賞口センサ処理、ゲートセンサ処理、第2始動口センサ処理、第1始動口センサ処理、第1大入賞口センサ処理、第2大入賞口センサ処理、特定領域センサ処理を順次行う。そして、各処理において生成されたコマンドを遊技用RAM104の出力バッファにセットする。

【0176】

一般入賞口センサ処理では、一般入賞口センサによって遊技球が検出されたか否かを判定する。また、当該処理の結果に応じて、一般入賞口センサ用コマンドを生成する。

【0177】

ゲートセンサ処理では、ゲートセンサによって遊技球が検出されたか否かを判定する。遊技球が検出されたと判定されると、普通図柄乱数カウンタのカウンタ値が示す普通図柄乱数を取得し、取得した普通図柄乱数を、遊技用RAM104に設けられた普図保留記憶部106に記憶する。なお、普図保留記憶部106に普通図柄乱数が所定数(例えば4個)記憶されている場合には、新たに取得された普通図柄乱数は記憶されない。また、当該処理の結果に応じて、ゲートセンサ用コマンドを生成する。

【0178】

第2始動口センサ処理では、第2始動口センサによって遊技球が検出されたか否かを判定する。遊技球が検出されたと判定されると、特別図柄乱数カウンタ、大当たり図柄種別乱数カウンタ、リーチ乱数カウンタ及び特図変動パターン乱数カウンタからなる特図2関係乱数を取得し、取得した特図2関係乱数を、遊技用RAM104に設けられた特図2保留記憶部105bに記憶する。特図2保留記憶部105bは、第1領域から第n領域まで(nは2以上の整数)の複数の記憶領域があり、取得された特図2関係乱数は、第1領域から順に記憶される。なお、第n領域まで特図2関係乱数が記憶されている場合には、新たに取得された特図2関係乱数は記憶されない。また、取得した特図2関係乱数と第2先読み判定テーブルとを用いて第2先読み判定を行う。また、当該処理の結果に応じて、特図2保留記憶部105bに記憶されている特図2関係乱数の数(特図2保留数)を表す特図2保留数コマンドおよび第2先読み判定の結果を表す第2始動入賞コマンドを含む第2始動口センサ用コマンドを生成する。

【0179】

第1始動口センサ処理では、第1始動口センサによって遊技球が検出されたか否かを判定する。遊技球が検出されたと判定されると、特別図柄乱数カウンタ、大当たり図柄種別乱数カウンタ、リーチ乱数カウンタ及び特図変動パターン乱数カウンタからなる特図1関係乱数を取得し、取得した特図1関係乱数を、遊技用RAM104に設けられた特図1保留記憶部105aに記憶する。特図1保留記憶部105aは、第1領域から第n領域まで(nは2以上の整数)の複数の記憶領域があり、取得された特図1関係乱数は、第1領域から順に記憶される。なお、第n領域まで特図1関係乱数が記憶されている場合には、新たに取得した特図1関係乱数は記憶されない。また、取得した特図1関係乱数と第1先読み判定テーブルとを用いて第1先読み判定を行う。また、当該処理の結果に応じて、特図1保留記憶部105aに記憶されている特図1関係乱数の数(特図1保留数)を表す特図1保留数コマンドおよび第1先読み判定の結果を表す第1始動入賞コマンドを含む第1始

10

20

30

40

50

動口センサ用コマンドを生成する。

【0180】

第1大入賞口センサ処理では、第1大入賞口センサによって遊技球が検出されたか否かを判定する。また、当該処理の結果に応じた第1大入賞口センサ用コマンドを生成する。

【0181】

第2大入賞口センサ処理では、第2大入賞口センサによって遊技球が検出されたか否かを判定する。また、当該処理の結果に応じた第2大入賞口センサ用コマンドを生成する。

【0182】

特定領域センサ処理では、特定領域センサによって遊技球が検出されたか否か判定する。また、当該処理の結果に応じて、特定領域センサ用コマンドを生成する。

10

【0183】

[2-2. 普通動作処理]

普通動作処理(S105)では、普通図柄待機処理、普通図柄変動処理、普通図柄確定処理、補助遊技制御処理を順次行う。そして、各処理において生成されたコマンドを遊技用RAM104の出力バッファにセットする。

【0184】

普通図柄待機処理は、普図の可変表示および補助遊技が行われていない待機中に行われる処理である。普通図柄待機処理では、普図保留記憶部106に記憶された普通図柄乱数に基づいて当たり判定を行う。また、現在の遊技状態に基づいて普図変動パターン判定を行って普図変動パターンを決定する。そして、当たり判定および普図変動パターンの結果に関する情報を含む普図変動開始コマンドを生成する。それから、決定した普図変動パターンに対応付けられた普図変動時間に基づいて、普図の可変表示を普図表示器82に開始させる。

20

【0185】

普通図柄変動処理は、普図の可変表示中に行われる処理である。普通図柄変動処理では、実行中の普図の可変表示が開始してから普図変動時間が経過することに応じて、当たり判定結果に基づいて普図の停止表示を行う。そして、普図の可変表示の終了を示す普図変動停止コマンドを生成する。

【0186】

普通図柄確定処理は、普図が停止表示しているときに行われる処理である。普通図柄確定処理では、実行中の普図の停止表示が開始してから所定の停止時間(例えば、0.8秒)が経過することに応じて、停止表示している普図が当たり図柄であるか否かを判定する。当たり図柄が停止表示していれば、現在の遊技状態および補助遊技制御テーブルに基づいて補助遊技を開始させ、補助遊技の開始を示す補助遊技開始コマンドを生成する。

30

【0187】

補助遊技制御処理は、補助遊技が行われているときに行われる処理である。補助遊技制御処理では、現在の遊技状態および補助遊技制御テーブルに基づいて補助遊技を制御する。また、当該処理の結果に応じて、補助遊技制御用コマンドを生成する。

【0188】

[2-3. 特別動作処理]

特別動作処理(S106)では、特別図柄待機処理、特別図柄変動処理、特別図柄確定処理、大当たり遊技制御処理、遊技状態設定処理を順次行う。そして、各処理において生成されたコマンドを遊技用RAM104の出力バッファにセットする。

40

【0189】

[2-3-1. 特別図柄待機処理]

特別図柄待機処理は、大当たり遊技状態ではなく、特図の可変表示が行われていない待機中に行われる処理である。特別図柄待機処理では、特図2保留記憶部105bに記憶されている特図2関係乱数に基づいて、特図2判定処理及び特図2変動パターン判定処理を行うとともに、特図2保留記憶部シフト処理を行う。また、特図1保留記憶部105aに記憶されている特図1関係乱数に基づいて、特図1判定処理及び特図1変動パターン判定

50

処理を行うとともに、特図 1 保留記憶部シフト処理を行う。

【0190】

特図 2 判定処理では、特図 2 保留記憶部 105b の第 1 領域に記憶されていた特図 2 関係乱数のうちの特別図柄乱数と、現在の遊技状態に応じた大当たり判定テーブルと、を用いて、大当たり、または、ハズレの何れであるかを判定する大当たり判定を行う。大当たり判定の結果が大当たりであれば、特図 2 関係乱数のうちの大当たり図柄種別乱数と特図 2 大当たり図柄種別判定テーブルとを用いて、大当たり図柄の種別を判定する大当たり図柄種別判定を行う。そして、判定された大当たり図柄種別を表す図柄指定コマンドを生成する。また、大当たり判定の結果がハズレであれば、ハズレを表す図柄指定コマンドを生成する。

10

【0191】

特図 2 変動パターン判定処理は、特図 2 判定処理の後に行われる処理である。特図 2 変動パターン判定処理では、特図 2 保留記憶部 105b の第 1 領域に記憶されていた特図 2 関係乱数のうちの特図変動パターン乱数と、現在の遊技状態に応じた特図 2 変動パターンテーブルと、を用いて、特図 2 変動パターンを判定する。なお、特図 2 変動パターンの判定は、特図 2 保留記憶部 105b に記憶されている特図 2 関係乱数の数（特図 2 保留数）にも関連付けられる。そして、判定された特図 2 変動パターンを表す特図 2 変動開始コマンドを生成する。特図 2 変動開始コマンドには、特図 2 であることに関する情報、大当たり判定の結果に関する情報、リーチ判定の結果に関する情報、特図 2 変動パターンに対応付けられた特図変動時間の情報などが含まれる。そして、判定された特図 2 変動パターンに対応付けられた特図変動時間に基づいて特図 2 表示器 81b に特図 2 の可変表示を開始させる。

20

【0192】

特図 2 保留記憶部シフト処理は、特図 2 判定処理及び特図 2 変動パターン判定処理が行われる際に行われる処理である。特図 2 保留記憶部シフト処理では、特図 2 保留記憶部 105b に記憶されていた特図 2 関係乱数を第 1 領域側に一つシフトするとともに、第 1 領域の特図 2 関係乱数を特図 2 保留記憶部 105b からクリアする。このようにして、特図 2 関係乱数は取得された順に消化される。そして、当該処理後の特図 2 保留数を表す特図 2 保留数コマンド生成をする。

30

【0193】

特図 1 判定処理では、特図 1 保留記憶部 105a の第 1 領域に記憶されていた特図 1 関係乱数のうちの特別図柄乱数と、現在の遊技状態に応じた大当たり判定テーブルと、を用いて、大当たり、または、ハズレの何れであるかを判定する大当たり判定を行う。大当たり判定の結果が大当たりであれば、特図 1 関係乱数のうちの大当たり図柄種別乱数と特図 1 大当たり図柄種別判定テーブルとを用いて、大当たり図柄の種別を判定する大当たり図柄種別判定を行う。そして、判定された大当たり図柄種別を表す図柄指定コマンドを生成する。また、大当たり判定の結果がハズレであれば、ハズレを表す図柄指定コマンドを生成する。

【0194】

特図 1 変動パターン判定処理は、特図 1 判定処理の後に行われる処理である。特図 1 変動パターン判定処理では、特図 1 保留記憶部 105a の第 1 領域に記憶されていた特図 1 関係乱数のうちの特図変動パターン乱数と、現在の遊技状態に応じた特図 1 変動パターンテーブルと、を用いて、特図 1 変動パターンを判定する。なお、特図 1 変動パターンの判定は、特図 1 保留記憶部 105a に記憶されている特図 1 関係乱数の数（特図 1 保留数）にも関連付けられる。そして、判定された特図 1 変動パターンを表す特図 1 変動開始コマンドを生成する。特図 1 変動開始コマンドには、特図 1 であることに関する情報、大当たり判定の結果に関する情報、リーチ判定の結果に関する情報、大当たり種別判定の結果に関する情報、特図 1 変動パターンに対応付けられた特図変動時間の情報などが含まれる。そして、判定された特図 1 変動パターンに対応付けられた特図変動時間に基づいて特図 1 表示器 81a に特図 1 の可変表示を開始させる。

40

50

【0195】

特図1保留記憶部シフト処理は、特図1判定処理及び特図1変動パターン判定処理が行われる際に行われる処理である。特図1保留記憶部シフト処理では、特図1保留記憶部105aに記憶されていた特図1関係乱数を第1領域側に一つシフトするとともに、第1領域の特図1関係乱数を特図1保留記憶部105aからクリアする。このようにして、特図1関係乱数は取得された順に消化される。そして、当該処理後の特図1保留数を表す特図1保留数コマンドを生成する。

【0196】

なお、本実施形態では、特図2保留数および特図1保留数の何れも存在する場合、特図2判定処理が優先して行われ、特図2の可変表示と特図1の可変表示とが並行して行われないようになっている。

10

【0197】

[2-3-2. 特別図柄変動処理]

特別図柄変動処理は、特図の可変表示中に行われる処理である。特別図柄変動処理では、特図変動時間が経過することに応じて、特図表示器81に、特図の可変表示を終了させるとともに、大当たり判定の結果に応じた特図を停止表示させる。大当たり判定の結果が大当たりであれば、大当たりを示す大当たり図柄を停止表示させ、大当たり判定の結果がハズレであれば、ハズレを示すハズレ図柄を停止表示させる。そして、特図の可変表示の終了を示す特図変動停止コマンドを生成する。

【0198】

20

[2-3-3. 特別図柄確定処理]

特別図柄確定処理は、特図が停止表示しているときに行われる処理である。特別図柄確定処理では、現在停止表示している特図が大当たり図柄である場合には、大当たり遊技状態に移行させる。そして、大当たり遊技の開始を示すオープニングコマンドを生成する。オープニングコマンドには、大当たり種別判定の結果に関する情報が含まれる。また、現在停止表示している特図がハズレ図柄であり且つ高確率状態を終了させる場合には、通常確率状態を設定する。そして、通常確率状態への移行を示す高確率終了コマンドを生成する。また、現在停止表示している特図がハズレ図柄であり且つ時短状態を終了させる場合には、非時短状態を設定する。そして、非時短状態への移行を示す時短終了コマンドを生成する。なお、現在停止表示している特図がハズレ図柄であり且つ特図2保留数および特図1保留数が「0」の場合には、パチンコ遊技機PY1が待機状態であることを示す待ちコマンドを生成する。

30

【0199】

[2-3-4. 大当たり遊技制御処理]

大当たり遊技制御処理は、大当たり遊技状態において行われる処理である。大当たり遊技制御処理では、大当たり遊技制御テーブルを用いて、大当たり遊技を行う。大当たり遊技状態への移行後、オープニング時間または閉鎖時間の経過に応じて、各ラウンド遊技を開始する。そして、ラウンド遊技の開始を示すラウンド遊技コマンドを生成する。また、最終のラウンド遊技を終了させることに応じて、エンディングを開始する。そして、大当たり遊技の終了を示すエンディングコマンドを生成する。エンディングコマンドには、大当たり種別判定の結果に関する情報が含まれる。

40

【0200】

[2-3-5. 遊技状態設定処理]

遊技状態設定処理は、大当たり遊技状態が終了する際に行われる処理である。遊技状態設定処理では、通常確率状態から高確率状態に変更する場合は、大当たり遊技状態の終了の際に高確率状態を設定する。高確率状態の継続期間を制限する場合には、高確率状態の継続期間（例えば、大当たりに当選することなく高確率状態が継続できる特図の可変表示の回数）も併せて設定する。そして、高確率状態の設定を示す高確率設定コマンドを生成する。また、非時短状態から時短状態に変更する場合は、大当たり遊技状態の終了の際に時短状態を設定する。時短状態の継続期間を制限する場合には、時短状態の継続期間（例

50

えば、大当たりに当選することなく時短状態が継続できる特図の可変表示の回数)も併せて設定する。そして、時短状態の設定を示す時短設定コマンドを生成する。

【0201】

なお、遊技制御用マイコン101が各処理において生成するコマンドは、適宜に追加または変更することが可能である。

【0202】

6. 演出制御用マイコン121による演出の制御

次に、図25および図26に基づいて演出制御用マイコン121による演出の制御について説明する。なお、以下の演出制御用マイコン121による演出の制御の説明において登場するカウンタ、タイマ、フラグ、バッファ等は、演出用RAM124に設けられている。

10

【0203】

[1. サブ制御メイン処理]

サブ制御基板120に備えられた演出制御用マイコン121は、パチンコ遊技機PY1が電源投入されると、図25に示したサブ制御メイン処理のプログラムを演出用ROM123から読み出して実行する。同図に示すように、サブ制御メイン処理では、最初に、電源投入に応じた電源投入時処理を行う(S4001)。電源投入時処理では、例えば、演出用CPU122の設定、SIO、PIO、CTC(割り込み時間の管理のための回路)等の設定等を行う。

20

【0204】

次に、割り込みを禁止し(S4002)、乱数シード更新処理を実行する(S4003)。乱数シード更新処理(S4003)では、種々の演出に関する判定を行うための種々の演出判定用乱数カウンタの値を更新する。種々の演出についての演出判定用乱数カウンタの更新方法は、一例として、前述の主制御基板100が行う普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理と同様の方法をとることができる。更新に際して乱数値を1ずつ加算するのではなく、2ずつ加算するなどしてもよい。これは、前述の主制御基板100が行う普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理においても同様である。

20

【0205】

乱数シード更新処理が終了すると、コマンド送信処理を実行する(S4004)。コマンド送信処理では、サブ制御基板120の演出用RAM124内の出力バッファに格納されている各種のコマンドを、画像制御基板140に送信する。コマンドを受信した画像制御基板140は、受信したコマンドに従って、表示部50aに画像を表示する(画像による種々の演出を実行する)。また、サブ制御基板120は、画像制御基板140によって行われる種々の演出とともに、音声制御回路161を介してスピーカ52から音声を出力させたり(音声による種々の音演出を実行したり)、ランプ制御回路151を介して枠ランプ53、および盤ランプ54を発光させたり(発光による種々の発光演出を実行したり)、可動装置55, 56, 58を作動させたり(動作による種々の可動体演出を実行したり)する。

30

【0206】

演出制御用マイコン121は続いて、割り込みを許可する(S4005)。以降、ステップS4002～ステップS4005をループさせる。割り込み許可中においては、受信割り込み処理(S4010)、および、サブ側タイマ割り込み処理(S4011)の実行が可能となる。

40

【0207】

受信割り込み処理(S4010)は、主制御基板100から送られた各種のコマンドが演出制御用マイコン121に入力される度に実行される。受信割り込み処理(S4010)では、演出制御用マイコン121は主制御基板100の出力処理(S101)により送信されてきて受信した各種のコマンドを演出用RAM124の受信バッファに格納する。この受信割り込み処理は、他の割り込み処理(S4011)に優先して実行される。

50

【0208】

[2 . サブ側タイマ割り込み処理]

サブ側タイマ割り込み処理 (S 4 0 1 1) は、サブ制御基板 1 2 0 に所定の周期 (例えば、1 msec 周期) の割り込みパルスが入力される度に実行される。サブ側タイマ割り込み処理 (S 4 0 1 1) では、図 2 6 に示すように、入力処理 (S 4 1 0 1) 、発光データ出力処理 (S 4 1 0 2) 、可動装置制御処理 (S 4 1 0 3) 、ウォッチドッグタイマ処理 (S 4 1 0 4) 、受信コマンド解析処理 (S 4 1 0 5) 、演出タイマ更新処理 (S 4 1 0 6) 、音声制御処理 (S 4 1 0 7) 、演出用データ作成処理 (S 4 1 0 8) を順次行う。

【 0 2 0 9 】

入力処理では、通常ボタン検出スイッチ 4 0 a や特殊ボタン検出スイッチ 4 1 a などの遊技者が操作可能な操作部に対する操作を検出する。発光データ出力処理では、後述する演出データ作成処理で作成された演出用データに基づいて、画像による演出等に合うタイミングなどで枠ランプ 5 3 、および盤ランプ 5 4 などのランプを発光させるべく、発光データをランプ制御回路 1 5 1 に出力する。つまり、演出制御用マイコン 1 2 1 は、発光データに従って枠ランプ 5 3 、および盤ランプ 5 4 などを所定の発光態様で発光させる。可動装置制御処理では、演出データ作成処理で作成された演出用データに基づいて、所定のタイミングで可動装置 5 5 , 5 6 , 5 8 などの可動装置を動作させる可動体演出を行うべく、駆動データを出力する。つまり、演出制御用マイコン 1 2 1 は、駆動データに従って、可動装置 5 5 , 5 6 , 5 8 などを所定の動作態様で動作させる可動体演出を行う。ウォッチドッグタイマ処理では、ウォッチドッグタイマのリセット設定を行う。

【 0 2 1 0 】

受信コマンド解析処理では、受信割り込み処理 (S 4 0 1 0) によって演出用 RAM 1 2 4 の受信バッファに格納されたコマンドを解析し、そのコマンドに応じた処理 (例えば演出の選択や演出モードの設定、コマンドのセット等) を行う。演出タイマ更新処理では、各演出に関する時間を計測するためのタイマを更新する。音声制御処理では、受信コマンド解析処理の処理結果に基づいて、音声データ (スピーカ 5 2 からの音声の出力を制御するデータ) の作成と音声制御回路 1 6 1 への出力が行われる。演出用データ作成処理では、受信コマンド解析処理の処理結果に基づいて、演出用データの作成が行われる。

【 0 2 1 1 】

7 . 第 1 実施形態の特徴点の説明

第 1 実施形態のパチンコ遊技機 PY 1 における特徴点に関して、さらなる詳細な説明を以下に加える。

【 0 2 1 2 】

7 - 1 . 大当たり遊技

まず、本実施形態の大当たり遊技について、図 2 7 に基づいてさらに説明する。本実施形態の遊技用 ROM 1 0 3 には、図 2 7 に示す大当たり遊技制御テーブルが格納されている。遊技制御用マイコン 1 0 1 は、図 2 7 に示す大当たり遊技制御テーブルを用いて大当たり遊技を実行可能である。本実施形態の大当たり遊技には、図 2 7 に示すように「大当たり遊技 1 」、「大当たり遊技 2 」、「大当たり遊技 3 」および「大当たり遊技 4 」がある。

【 0 2 1 3 】

「大当たり遊技 1 」は、遊技制御用マイコン 1 0 1 による特図 1 判定処理で大当たり判定の結果が「大当たり」且つ、大当たり図柄種別判定の結果が「大当たり図柄 1 」の場合に実行される大当たり遊技である。なお、特図 1 判定処理における「大当たり図柄 1 」の振分率は「50%」である (図 2 7 参照)。「大当たり遊技 1 」ではラウンド遊技が 6 回行われる。各ラウンド遊技は、最大で 29.5 秒にわたる第 1 大入賞口 1 4 の開放を伴う。

【 0 2 1 4 】

「大当たり遊技 2 」は、遊技制御用マイコン 1 0 1 による特図 1 判定処理で大当たり判定の結果が「大当たり」且つ、大当たり図柄種別判定の結果が「大当たり図柄 2 」の場合

10

20

30

40

50

に実行される大当たり遊技である。なお、特図1判定処理における「大当たり図柄2」の振分率は「50%」である(図27参照)。「大当たり遊技2」では、上記「大当たり遊技1」と同じく、最大で29.5秒にわたる第1大入賞口14の開放を伴うラウンド遊技が6回行われる。

【0215】

「大当たり遊技3」は、遊技制御用マイコン101による特図2判定処理で大当たり判定の結果が「大当たり」且つ、大当たり図柄種別判定の結果が「大当たり図柄3」の場合に実行される大当たり遊技である。なお、特図2判定処理における「大当たり図柄3」の振分率は「65%」である(図27参照)。「大当たり遊技3」では、最大で29.5秒にわたる第1大入賞口14の開放を伴うラウンド遊技が10回行われる。

10

【0216】

「大当たり遊技4」は、遊技制御用マイコン101による特図2判定処理で大当たり判定の結果が「大当たり」且つ、大当たり図柄種別判定の結果が「大当たり図柄4」の場合に実行される大当たり遊技である。なお、特図2判定処理における「大当たり図柄4」の振分率は「35%」である(図27参照)。「大当たり遊技4」では、上記「大当たり遊技3」と同じく、最大で29.5秒にわたる第1大入賞口14の開放を伴うラウンド遊技が10回行われる。

【0217】

本実施形態では、ラウンド遊技の回数が10回である「大当たり遊技3」および「大当たり遊技4」は、ラウンド遊技の回数が6回である「大当たり遊技1」および「大当たり遊技2」よりも遊技者に有利な大当たり遊技といえる。つまり「大当たり遊技3」が実行される大当たり遊技状態は、「大当たり遊技1」又は「大当たり遊技2」が実行される大当たり遊技状態よりも遊技者に有利な遊技状態といえる。また、「大当たり遊技4」が実行される大当たり遊技状態は、「大当たり遊技1」又は「大当たり遊技2」が実行される大当たり遊技状態よりも遊技者に有利な遊技状態といえる。

20

【0218】

また、本実施形態では「大当たり遊技1」、「大当たり遊技2」、「大当たり遊技3」および「大当たり遊技4」の実行後には遊技状態が時短状態(「低確率高ベース遊技状態」又は「高確率高ベース遊技状態」)に設定される(図27参照)。

30

【0219】

「大当たり遊技1」および「大当たり遊技3」の実行後には遊技状態が高確率状態(「高確率高ベース遊技状態」)に設定される(図27参照)。但し、本実施形態では「大当たり遊技1」および「大当たり遊技3」のラウンド遊技で上記第2大入賞口15の開放がない。つまり、大当たり遊技後における高確率状態への設定は、第2大入賞口15内の特定領域16への遊技球の通過によらない。

【0220】

一方、「大当たり遊技2」および「大当たり遊技4」の実行後には遊技状態が低確率状態(「低確率高ベース遊技状態」)に設定される(図27参照)。

【0221】

本実施形態では「高確率高ベース遊技状態」は、次回の大当たり遊技が実行されるまで継続可能であり、「低確率高ベース遊技状態」は、特図の可変表示の回数が100回となるまで継続可能である。従って、大当たり遊技後に「高確率高ベース遊技状態」に設定される「大当たり遊技1」および「大当たり遊技3」は、大当たり遊技後に「低確率高ベース遊技状態」に設定される「大当たり遊技2」および「大当たり遊技4」よりも遊技者に有利な大当たり遊技であるといえる。つまり「大当たり遊技1」又は「大当たり遊技3」が実行される大当たり遊技状態は、「大当たり遊技2」又は「大当たり遊技4」が実行される大当たり遊技状態よりも遊技者に有利な遊技状態といえる。

40

【0222】

また、本実施形態では、大当たり判定の結果が「大当たり」の場合には、当該の特図(特図1, 特図2)の可変表示に伴う特図変動演出で、所定の数字(本実施形態では数字「

50

「1」、「2」、「3」、「4」、「5」、「6」、「7」又は「8」)を含む演出図柄EZ1,EZ2,EZ3が三つ揃いで表示部50a上に停止表示(本停止表示)される。

【0223】

そして、特図1判定処理での大当たり図柄種別判定の結果が「大当たり図柄1」の場合には、当該の特図1の可変表示に伴う特図変動演出において、1種類の奇数の数字(数字「1」、「3」、「5」又は「7」)を含む演出図柄EZ1,EZ2,EZ3が三つ揃いで本停止表示される。それに対し「大当たり図柄2」の場合には、1種類の奇数の数字を含む演出図柄EZ1,EZ2,EZ3ではなく、1種類の偶数の数字を含む演出図柄EZ1,EZ2,EZ3が三つ揃いで本停止表示される。

【0224】

そのため、特図1の可変表示に伴う特図変動演出にて、演出図柄EZ1,EZ2,EZ3が奇数の数字を含む三つ揃いで本停止表示した場合に、遊技者は「大当たり図柄1」に当選したことを把握できる。また、演出図柄EZ1,EZ2,EZ3が偶数の数字を含む三つ揃いで本停止表示した場合に、遊技者は「大当たり図柄2」に当選したことを把握できる。

【0225】

また、特図2判定処理での大当たり図柄種別判定の結果が「大当たり図柄3」の場合には、当該の特図2の可変表示に伴う特図変動演出で、1種類の奇数の数字を含む演出図柄EZ1,EZ2,EZ3が三つ揃いで本停止表示される。また「大当たり図柄4」の場合には、1種類の偶数の数字を含む演出図柄EZ1,EZ2,EZ3が三つ揃いで本停止表示される。

【0226】

そのため、特図1の可変表示に伴う特図変動演出と同じく、特図2の可変表示に伴う特図変動演出にて、演出図柄EZ1,EZ2,EZ3が奇数の数字を含む三つ揃いで本停止表示した場合に、遊技者は「大当たり図柄3」に当選したことを把握できる。また、演出図柄EZ1,EZ2,EZ3が偶数の数字を含む三つ揃いで本停止表示した場合に、遊技者は「大当たり図柄4」に当選したことを把握できる。

【0227】

7-2. 特図1変動パターン

次に、遊技制御用マイコン101が決定可能な特図1変動パターンについて、図28および図29に基づいてさらに説明する。本実施形態の遊技用ROM103には、図28に示す特図1変動パターン判定テーブルが格納されている。遊技制御用マイコン101は、特図1変動パターン判定処理において、大当たり判定の結果、大当たり図柄種別判定の結果および特図変動パターン乱数に基づいて、図28に示す特図1変動パターン判定テーブルを用いて特図1変動パターンを決定する。いずれの特図1変動パターンに決定するかは、特図変動パターン乱数によって異なる。

【0228】

具体的に、非時短状態で大当たり判定の結果が「大当たり」で大当たり図柄種別判定の結果が「大当たり図柄1」の場合の特図1変動パターンには、特図変動パターン「P21」～「P23」の3種類がある(図28参照)。

【0229】

特図変動パターン「P21」は、通常変動、リーチ、Nリーチおよび発展演演出を経てSPリーチが行われる特図変動パターンである。この特図変動パターンのリーチでは、奇数の数字を含む演出図柄のうちの同一のものが左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3として仮停止表示される。そして、SPリーチの実行後、その奇数を含む演出図柄EZ1,EZ2,EZ3が三つ揃いで本停止表示される。この特図変動パターン「P21」を特図1変動パターンの「第1SP大当たり変動」という。

【0230】

特図変動パターン「P22」は、通常変動、リーチ、および後述の「煽り演出」を経て、後述の特殊SPリーチが行われる特図変動パターンである。この特図変動パターンのリ

ーチでは、偶数の数字を含む演出図柄のうちの同一のものが左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3として仮停止表示される。また、煽り演出の実行後、中演出図柄EZ2として後述の「特殊図柄TZ1」が一旦仮停止表示された後、特殊SPLリーチが行われる。そして、特殊SPLリーチの実行後、奇数の数字を含む演出図柄のうちの同一のものが三つ揃いで本停止表示される。この特図変動パターン「P22」を特図1変動パターンの「第2SPL大当たり変動」という。

【0231】

特図変動パターン「P23」は、通常変動およびリーチを経てNリーチが行われる特図変動パターンである。この特図変動パターンのリーチでは、奇数の数字を含む演出図柄のうちの同一のものが左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3として仮停止表示される。そして、Nリーチの実行後、その偶数を含む演出図柄EZ1, EZ2, EZ3が三つ揃いで本停止表示される。この特図変動パターン「P23」を特図1変動パターンの「第1N大当たり変動」という。

10

【0232】

また、非時短状態で大当たり判定の結果が「大当たり」で大当たり図柄種別判定の結果が「大当たり図柄2」の場合の特図1変動パターンには、特図変動パターン「P24」～「P26」の3種類がある（図28参照）。

【0233】

特図変動パターン「P24」は、上記「P21」と同じく、通常変動、リーチ、Nリーチおよび発展演出来を経てSPLリーチが行われる特図変動パターンである。但し、この特図変動パターンのリーチでは、偶数の数字を含む演出図柄のうちの同一のものが左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3として仮停止表示される点で、上記「P21」とは異なる。この特図変動パターン「P23」を特図1変動パターンの「第3SPL大当たり変動」という。

20

【0234】

特図変動パターン「P25」は、通常変動、リーチ、後述の「煽り演出」、Nリーチおよび発展演出来を経て、SPLリーチが行われる特図変動パターンである。この特図変動パターンのリーチでは、偶数の数字を含む演出図柄のうちの同一のものが左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3として仮停止表示される。また、この特図変動パターンでは、煽り演出の実行後、中演出図柄EZ2として後述の「特殊図柄TZ1」が仮停止表示されずにNリーチが行われる。そして、SPLリーチの実行後、その偶数を含む演出図柄EZ1, EZ2, EZ3が三つ揃いで本停止表示される。この特図変動パターン「P25」を特図1変動パターンの「第4SPL大当たり変動」という。

30

【0235】

特図変動パターン「P26」は、通常変動、リーチおよび後述の「煽り演出」を経てNリーチが行われる特図変動パターンである。この特図変動パターンのリーチでは、偶数の数字を含む演出図柄のうちの同一のものが左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3として仮停止表示される。また、この特図変動パターンでは、煽り演出の実行後、中演出図柄EZ2として後述の「特殊図柄TZ1」が仮停止表示されずにNリーチが行われる。そして、Nリーチの実行後、その偶数を含む演出図柄EZ1, EZ2, EZ3が三つ揃いで本停止表示される。この特図変動パターン「P26」を特図1変動パターンの「第2N大当たり変動」という。

40

【0236】

また、非時短状態で、大当たり判定の結果が「ハズレ」で、リーチ判定の結果が「リーチ有り」の場合の特図1変動パターンには、特図変動パターン「P27」～「P31」の5種類がある（図28参照）。

【0237】

特図変動パターン「P27」は、上記「P21」および「P24」の「ハズレ」に対応した特図1変動パターンである。すなわち、通常変動、リーチ、Nリーチおよび発展演出来を経てSPLリーチが行われ、その後、演出図柄EZ1, EZ2, EZ3がハズレを示唆す

50

る停止態様で本停止表示される。この特図変動パターンのリーチでは、左演出図柄 E Z 1 および右演出図柄 E Z 3 として、奇数の数字を含む演出図柄のうちの同一のもの、或いは偶数の数字を含む演出図柄のうちの同一のものが仮停止表示される。この特図変動パターン「P 27」を特図1変動パターンの「第1SPハズレ変動」という。

【0238】

特図変動パターン「P 28」は、上記「P 22」の「ハズレ」に対応した特図1変動パターンである。すなわち、通常変動、リーチ、および後述の「煽り演出」を経て、後述の特殊SPリーチが行われ、その後、演出図柄 E Z 1, E Z 2, E Z 3 がハズレを示唆する停止態様で本停止表示される。この特図変動パターンのリーチでは、上記「P 22」と同じく、偶数の数字を含む演出図柄のうちの同一のものが左演出図柄 E Z 1 および右演出図柄 E Z 3 として仮停止表示される。また、煽り演出の実行後、中演出図柄 E Z 2 として後述の「特殊図柄 TZ 1」が一旦仮停止表示された後、特殊SPリーチが行われる。この特図変動パターン「P 28」を特図1変動パターンの「第2SPハズレ変動」という。

10

【0239】

特図変動パターン「P 29」は、上記「P 25」の「ハズレ」に対応した特図1変動パターンである。すなわち、通常変動、リーチ、後述の「煽り演出」、Nリーチおよび発展演出を経て、SPリーチが行われ、その後、演出図柄 E Z 1, E Z 2, E Z 3 がハズレを示唆する停止態様で本停止表示される。この特図変動パターンのリーチでは、上記「P 22」と同じく、偶数の数字を含む演出図柄のうちの同一のものが左演出図柄 E Z 1 および右演出図柄 E Z 3 として仮停止表示される。また、この特図変動パターンでは、煽り演出の実行後、中演出図柄 E Z 2 として「特殊図柄 TZ 1」が仮停止表示されずにNリーチが行われる。この特図変動パターン「P 29」を特図1変動パターンの「第3SPハズレ変動」という。

20

【0240】

特図変動パターン「P 30」は、上記「P 23」の「ハズレ」に対応した特図1変動パターンである。すなわち、通常変動およびリーチを経てNリーチが行われ、その後、演出図柄 E Z 1, E Z 2, E Z 3 がハズレを示唆する停止態様で本停止表示される。この特図変動パターンのリーチでは、上記「P 23」と同じく、奇数の数字を含む演出図柄のうちの同一のものが左演出図柄 E Z 1 および右演出図柄 E Z 3 として仮停止表示される。この特図変動パターン「P 30」を特図1変動パターンの「第1Nハズレ変動」という。

30

【0241】

特図変動パターン「P 31」は、上記「P 26」の「ハズレ」に対応した特図1変動パターンである。すなわち、通常変動、リーチおよび後述の「煽り演出」を経てNリーチが行われ、その後、演出図柄 E Z 1, E Z 2, E Z 3 がハズレを示唆する停止態様で本停止表示される。この特図変動パターンのリーチでは、上記「P 26」と同じく、偶数の数字を含む演出図柄のうちの同一のものが左演出図柄 E Z 1 および右演出図柄 E Z 3 として仮停止表示される。また、この特図変動パターンでは、煽り演出の実行後、中演出図柄 E Z 2 として「特殊図柄 TZ 1」が仮停止表示されずにNリーチが行われる。この特図変動パターン「P 31」を特図1変動パターンの「第2Nハズレ変動」という。

40

【0242】

図29には、非時短状態での特図1変動パターン判定テーブル(図28)における特図変動パターンの振分率(実行確率)を示す。本実施形態では、非時短状態で、大当たり判定の結果が「大当たり」且つ、大当たり図柄種別判定の結果が「大当たり図柄1」の場合に、遊技制御用マイコン101は図29(A)に示す振分率で特図変動パターンを決定する。また、非時短状態で、大当たり判定の結果が「大当たり」且つ、大当たり図柄種別判定の結果が「大当たり図柄2」の場合に、遊技制御用マイコン101は図29(B)に示す振分率で特図変動パターンを決定する。さらに、非時短状態で、大当たり判定の結果が「ハズレ」且つ、リーチ判定の結果が「リーチ有り」の場合に、遊技制御用マイコン101は図29(C)に示す振分率で特図変動パターンを決定する。

【0243】

50

図29(A)によれば、特図変動パターン「P21」の振分率の値は「45%」であり、特図変動パターン「P23」の振分率の値(「5%」)よりも大きい。そのため、特図1変動パターン判定処理での判定の結果が「大当たり」且つ「大当たり図柄1」の場合には、Nリーチまでしか行われない特図1変動パターンよりも、Nリーチを経てSPリーチが行われる特図1変動パターンの方が選択され易い。

【0244】

また、特図変動パターン「P22」の振分率の値は「50%」であり、特図変動パターン「P23」の振分率の値よりも、また、特図変動パターン「P21」の振分率の値よりも大きい(図29(A)参照)。そのため、特図1変動パターン判定処理での判定の結果が「大当たり」且つ「大当たり図柄1」の場合には、特図変動パターン「P22」が最も選択され易く、次いで特図変動パターン「P21」が選択され易く、特図変動パターン「P23」が最も選択され難い。

10

【0245】

一方、図29(C)によれば、特図変動パターン「P21」の「ハズレ」用の特図1変動パターンである特図変動パターン「P27」の振分率の値は「6%」である。この値は、特図変動パターン「P23」の「ハズレ」用の特図1変動パターンである特図変動パターン「P30」の振分率の値(「45%」)よりも小さい。そのため、特図1変動パターン判定処理での判定の結果が「ハズレ」の場合には、Nリーチまでしか行われない特図1変動パターンの方が、Nリーチを経てSPリーチが行われる特図1変動パターンよりも選択され易い。

20

【0246】

しかも、特図変動パターン「P22」の「ハズレ」用の特図1変動パターンである特図変動パターン「P28」の振分率の値は「4%」であり、特図変動パターン「P27」の振分率の値よりも、また、特図変動パターン「P30」の振分率の値よりも小さい(図29(C)参照)。そのため、特図1変動パターン判定処理での判定の結果が「ハズレ」の場合には、特図変動パターン「P30」が最も選択され易く、次いで特図変動パターン「P27」が選択され易く、特図変動パターン「P28」が最も選択され難い。

20

【0247】

以上により、遊技者は、NリーチからSPリーチに発展した方が発展しない場合よりも、その後の大当たり遊技1の実行を期待できる。さらに、SPリーチの実行よりも特殊SPリーチの実行の方が、その後の大当たり遊技1の実行を期待できる。

30

【0248】

また、図29(B)によれば、特図変動パターン「P24」の振分率の値は「55%」であり、特図変動パターン「P25」および「P26」の振分率の合計の値(「45%」)よりも大きい。そのため、特図1変動パターン判定処理での判定の結果が「大当たり」且つ「大当たり図柄2」の場合には、後述の煽り演出が行われる特図1変動パターンよりも、煽り演出が行われない特図1変動パターンの方が選択され易い。

【0249】

また、特図変動パターン「P25」の振分率の値は、特図変動パターン「P26」の振分率の値よりも大きい(図29(B)参照)。そのため、特図1変動パターン判定処理での判定の結果が「大当たり」且つ「大当たり図柄2」の場合には、特図変動パターン「P24」が最も選択され易く、次いで特図変動パターン「P25」が選択され易く、特図変動パターン「P26」が最も選択され難い。

40

【0250】

一方、図29(C)によれば、特図変動パターン「P24」の「ハズレ」用の特図1変動パターンである特図変動パターン「P27」の振分率の値は「6%」である。この値は、特図変動パターン「P25」の「ハズレ」用の特図1変動パターンである特図変動パターン「P29」、および、特図変動パターン「P26」の「ハズレ」用の特図1変動パターンである特図変動パターン「P31」の振分率の合計の値(「45%」)よりも小さい。そのため、特図1変動パターン判定処理での判定の結果が「ハズレ」の場合には、煽り

50

演出が行われる特図 1 変動パターンの方が、煽り演出が行われない特図 1 変動パターンよりも選択され易い。

【0251】

しかも、特図変動パターン「P29」の振分率の値は「6%」であり、特図変動パターン「P31」の振分率の値よりも小さい(図29(C)参照)。そのため、特図1変動パターン判定処理での判定の結果が「ハズレ」の場合には、特図変動パターン「P31」が最も選択され易く、次いで特図変動パターン「P29」が選択され易く、特図変動パターン「P27」が最も選択され難い。

【0252】

以上により、遊技者は、NリーチからSPリーチに発展した方が発展しない場合よりも、その後の大当たり遊技2の実行を期待できる。さらに、煽り演出が行われない方が行われる場合よりも、その後の大当たり遊技2の実行を期待できる。

10

【0253】

7-3. 先読み判定

続いて、本実施形態の先読み判定について、図30に基づいてさらに説明する。本実施形態では、取得した特図関係乱数に基づいて、図30に示す先読み判定テーブルを用いた先読み判定が実行可能となっている。具体的に例えば、遊技制御用マイコン101は、始動口11, 12への入賞に伴って特図関係乱数が取得された場合に、その特図関係乱数、および、上記先読み判定テーブルに基づいて、上述の先読み判定を行う。そして、その先読み判定の結果に応じて、始動入賞コマンドを生成して、演出制御用マイコン121に出力する。演出制御用マイコン121は、始動入賞コマンドを受信したら、その始動入賞コマンドに基づいて各種演出を実行可能となっている。

20

【0254】

詳細には、先読み判定で特図変動パターンの判定結果が特図変動パターン「P21」の場合には、遊技制御用マイコン101によって「コマンド21」が出力される(図30参照)。同じようにして、先読み判定で特図変動パターン「P22」、「P23」、「P24」、「P25」、「P26」、「P27」、「P28」、「P29」、「P30」および「P31」がそれぞれ判定された場合には、「コマンド22」、「コマンド23」、「コマンド24」、「コマンド25」、「コマンド26」、「コマンド27」、「コマンド28」、「コマンド29」、「コマンド30」および「コマンド31」がそれぞれ出力される(図30参照)。

30

【0255】

7-4. 各種演出

次に、本実施形態における各種演出についてさらに説明する。本実施形態の演出制御用マイコン121は、特図変動演出における上記のSPリーチに加えて、SPリーチとは演出内容が異なる「特殊SPリーチ」が実行可能である。また、リーチ後、残り1つの演出図柄(中演出図柄EZ2)として「特殊図柄TZ1」が仮停止表示されるかどうかを示唆する「煽り演出」を実行可能である。

30

【0256】

7-4-1. 特図変動演出

40

まず、本実施形態の特図変動演出について説明する。特図変動演出では、表示部50aにおいて3つの演出図柄EZ1, EZ2, EZ3の変動表示が行われる。これら演出図柄EZ1, EZ2, EZ3は、特図の可変表示の開始に伴って変動し、特図の可変表示の終了に伴って停止する。すなわち、特図の可変表示の特図変動時間において、演出図柄EZ1, EZ2, EZ3の変動表示が行われ、その後に演出図柄EZ1, EZ2, EZ3の停止表示(本停止表示)が行われる。そして、演出図柄EZ1, EZ2, EZ3の停止表示によって特図抽選の結果が報知される。

【0257】

なお、本実施形態では、演出図柄EZ1, EZ2, EZ3の本停止表示の前に、演出図柄EZ1, EZ2, EZ3の仮停止表示が行われる場合がある。仮停止表示とは、例えば

50

演出図柄 E Z 1 , E Z 2 , E Z 3 の揺れ変動表示や、演出図柄 E Z 1 , E Z 2 , E Z 3 を再変動させる前の短時間の停留表示である。本停止表示とは異なり、演出図柄 E Z 1 , E Z 2 , E Z 3 の仮停止表示によって、特図抽選の結果が必ずしも報知されない。

【 0 2 5 8 】

さらに、特図変動演出では、表示部 5 0 a において 3 つの小図柄 K Z 1 , K Z 2 , K Z 3 の変動表示が行われる。これら小図柄 K Z 1 , K Z 2 , K Z 3 は、演出図柄 E Z 1 , E Z 2 , E Z 3 と同じく、特図の可変表示の開始に伴って変動し、特図の可変表示の終了に伴って停止する。そして、小図柄 K Z 1 , K Z 2 , K Z 3 の停止表示によって特図抽選の結果が報知される。但し、演出図柄 E Z 1 , E Z 2 , E Z 3 とは異なり、小図柄 K Z 1 , K Z 2 , K Z 3 には仮停止表示がない。

10

【 0 2 5 9 】

本実施形態の演出図柄 E Z 1 , E Z 2 , E Z 3 のうち、左演出図柄 E Z 1 および右演出図柄 E Z 3 にはそれぞれ 8 種類の異なる演出図柄がある。さらに、左小図柄 K Z 1 および右小図柄 K Z 3 にも、演出図柄 E Z 1 , E Z 3 にそれぞれ対応した 8 種類の小図柄がある。具体的には、数字「 1 」を含む図柄（演出図柄、小図柄）、数字「 2 」を含む図柄、数字「 3 」を含む画像、数字「 4 」を含む図柄、数字「 5 」を含む図柄、数字「 6 」を含む図柄、数字「 7 」を含む図柄、および、数字「 8 」を含む図柄がある。これら図柄は、数字「 1 」を含む図柄、数字「 2 」を含む図柄、数字「 3 」を含む画像、数字「 4 」を含む図柄、数字「 5 」を含む図柄、数字「 6 」を含む図柄、数字「 7 」を含む図柄、および、数字「 8 」を含む図柄の順に並ぶ。そして、数字「 8 」を含む図柄に次いで、数字「 1 」を含む図柄が続く。

20

【 0 2 6 0 】

それに対し、中演出図柄 E Z 2 には 9 種類の異なる演出図柄がある。具体的には、左演出図柄 E Z 1 および右演出図柄 E Z 3 と同じ 8 種類の演出図柄に加えて「特殊図柄 T Z 1 」がある。本実施形態では、数字「 8 」を含む図柄に次に特殊図柄 T Z 1 が位置し、その後に数字「 1 」を含む図柄が続く。つまり、中演出図柄 E Z 2 において、数字「 8 」を含む図柄と数字「 1 」を含む図柄との間に特殊図柄 T Z 1 がある。

【 0 2 6 1 】

特殊図柄 T Z 1 とは、図 3 2 (C - 1) に示すような、文字列「 特殊 S P 」を示す画像を含む図柄がある。本実施形態では、中演出図柄 E Z 2 として特殊図柄 T Z 1 が仮停止した場合には、引き続いて後述の特殊 S P リーチが実行される。つまり、特殊図柄 T Z 1 の仮停止表示が特殊 S P リーチの実行契機になっている。

30

【 0 2 6 2 】

また、文字列「 特殊 S P 」が特殊 S P リーチのタイトルの一部と共に通する。そのため、特殊図柄 T Z 1 の停止表示によって、特殊 S P リーチを遊技者に想起させることができくなっている。つまり、本実施形態の特殊図柄 T Z 1 は、特殊 S P リーチの実行を示唆する表示態様になっている。

【 0 2 6 3 】

なお、本実施形態では、特殊図柄 T Z 1 に対応した小図柄が中小図柄 K Z 2 はない。つまり、中小図柄 K Z 2 は、左小図柄 K Z 1 および右小図柄 K Z 3 と同じく、数字を含む演出図柄に対応した 8 種類の小図柄からなる。

40

【 0 2 6 4 】

また、本実施形態では、数字「 1 」を含む図柄（演出図柄、小図柄）、数字「 3 」を含む図柄、数字「 5 」を含む図柄、および、数字「 7 」を含む図柄を特に奇数の数字を含む図柄（演出図柄、小図柄）ともいう。これに対し、数字「 2 」を含む図柄（演出図柄、小図柄）、数字「 4 」を含む図柄、数字「 6 」を含む図柄、および、数字「 8 」を含む図柄を特に偶数の数字を含む図柄（演出図柄、小図柄）ともいう。

【 0 2 6 5 】

7 - 4 - 2 . S P リーチ

次に、本実施形態の S P リーチについてさらに説明する。 S P リーチは、大当たり判定

50

の結果が「大当たり」である可能性があることを示唆する演出である。このS Pリーチの方が上述のNリーチよりも「大当たり」である可能性が高いことを示唆している（図28および図29参照）。なお、本パチンコ遊技機PY1では、大当たり判定の結果が「大当たり」の場合にその後の大当たり遊技の実行に伴って遊技状態が大当たり遊技状態に変更されるため、S Pリーチは遊技状態の変更の可能性があることを示唆する演出であるともいえる。

【0266】

本実施形態のS Pリーチは、S Pリーチ専用演出が主人公キャラクタと「敵A」とのバトル演出になっているS Pリーチである。具体的には、図19（A）に示す、表示部50aにS Pリーチ専用の背景画像（S Pリーチ用背景画像）G113がまず表示される。そして、そのS Pリーチ用背景画像G113の手前側に重なるように、S Pリーチの開始を表す画像（S Pリーチ開始タイトル画像）G11が表示される。このS Pリーチ開始タイトル画像G11は、文字列「敵Aを擊破せよ！」を示す画像である（図19（A）参照）。つまり、このS Pリーチ開始タイトル画像G11は、この後のS Pリーチ専用演出の演出内容が「敵A」とのバトル（対戦）であることを示唆している。

10

【0267】

上記のS Pリーチ用背景画像G113およびS Pリーチ開始タイトル画像G11の表示後、図19（B）に示す、第1態様のS PリーチにおけるS Pリーチ専用演出が開始される。このS Pリーチ専用演出では、主人公キャラクタを示す画像GMと敵Aを示す画像GAとが表示部50a上に表示される。

20

【0268】

なお、S Pリーチ専用演出の最終局面（終盤）の演出内容は、特図抽選の結果（実行中の特図変動パターン）によって異なる。具体的に、特図抽選の結果が「大当たり」の場合（つまり実行中の特図変動パターンが「大当たり」に対応するものの場合）には、図19（C-1）に示すように、表示部50aに大当たりを示唆する表示（主人公キャラクタがバトルに勝利して喜んでいる表示）が行われるとともに、大当たりを示唆する停止態様で演出図柄EZ1, EZ2, EZ3の停止表示（本停止表示）が行われる。

20

【0269】

一方、特図抽選の結果が「ハズレ」の場合（つまり実行中の特図変動パターンが「ハズレ」に対応するものの場合）には、図19（C-2）に示すように、ハズレを示唆する表示（敵Aがバトルに勝利して喜んでいる表示）が行われるとともに、リーチハズレを示唆する停止態様で演出図柄EZ1, EZ2, EZ3の停止表示（本停止表示）が行われる。その演出図柄EZ1, EZ2, EZ3の停止表示とともに、それと同じ停止態様（つまりハズレを示唆する停止態様）で小図柄KZ1, KZ2, KZ3の停止表示も行われる。

30

【0270】

7-4-3. 特殊S Pリーチ

続いて、特殊S Pリーチについて説明する。この特殊S Pリーチは、S Pリーチ専用演出が主人公キャラクタと「敵B」とのバトル演出になっている。すなわち「敵A」とのバトル演出ではない点でS Pリーチとは異なる。この特殊S Pリーチは、上述のS Pリーチと同じく、大当たり判定の結果が「大当たり」である可能性があることを示唆する演出である。但し、この特殊S Pリーチの方が上述のNリーチやS Pリーチよりも「大当たり」である可能性が高いことを示唆している（図28および図29参照）。なお、本パチンコ遊技機PY1では、大当たり判定の結果が「大当たり」の場合にその後の大当たり遊技の実行に伴って遊技状態が大当たり遊技状態に変更されるため、特殊S Pリーチは遊技状態の変更の可能性があることを示唆する演出であるともいえる。

40

【0271】

本実施形態の特殊S Pリーチではまず、図31（A）に示す、上述のS Pリーチと同じS Pリーチ用背景画像G113が表示部50aに表示される。但し、そのS Pリーチ用背景画像G113の手前側に重なるように、S Pリーチとは異なるS Pリーチ開始タイトル画像G12が表示される。このS Pリーチ開始タイトル画像G12は、文字列「敵Bを擊

50

破せよ！」を示す画像である（図31（A）参照）。つまり、このS Pリーチ開始タイトル画像G12は、この後のS Pリーチ専用演出の演出内容が「敵B」とのバトル（対戦）であることを示唆している。

【0272】

上記のS Pリーチ用背景画像G113およびS Pリーチ開始タイトル画像G12の表示後、図31（B）に示すS Pリーチ専用演出が開始される。このS Pリーチ専用演出では、主人公キャラクタを示す画像GMと敵Bを示す画像GBとが表示部50a上に表示される。

【0273】

特殊S PリーチのS Pリーチ専用演出の最終局面（終盤）の演出内容は、特図抽選の結果（実行中の特図変動パターン）によって異なる。具体的に、具体的に、特図抽選の結果が「大当たり」の場合には、図31（C-1）に示すように、表示部50aに大当たりを示唆する表示（主人公キャラクタがバトルに勝利して喜んでいる表示）が行われるとともに、大当たりを示唆する停止態様で演出図柄EZ1, EZ2, EZ3の停止表示（本停止表示）が行われる。一方、特図抽選の結果が「ハズレ」の場合には、図31（C-2）に示すように、ハズレを示唆する表示（敵Bがバトルに勝利して喜んでいる表示）が行われるとともに、リーチハズレを示唆する停止態様で演出図柄EZ1, EZ2, EZ3の停止表示（本停止表示）が行われる。その演出図柄EZ1, EZ2, EZ3の停止表示とともに、それと同じ停止態様（つまりハズレを示唆する停止態様）で小図柄KZ1, KZ2, KZ3の停止表示も行われる。

10

20

【0274】

本実施形態では、遊技制御用マイコン101が決定した特図1変動パターンが上記「P22」又は「P28」の場合に特殊S Pリーチが実行される。上述したように、これら特図1変動パターン「P22」および「P28」では、左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3が同一の偶数の数字を含んだ停止態様で仮停止表示し、後述の煽り演出で特殊図柄TZ1が仮停止して特殊S Pリーチが行われる（図28参照）。そして、特殊S Pリーチの実行開始時には、左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3が、同一の偶数の数字を含んだ停止態様から、図31（A）に示すように、同一の奇数の数字を含んだ停止態様に変更される。

30

【0275】

7-4-4. 煽り演出

次に、煽り演出について、図32（B）に基づいて説明する。本実施形態の煽り演出は、左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3として、偶数の数字を含む演出図柄のうちの同一のものが仮停止表示されたリーチの後に、中演出図柄EZ2として特殊図柄TZ1が仮停止表示するかどうかを示唆する演出である。

【0276】

具体的には、まず、図32（A）に示すように、左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3として、偶数の数字を含む演出図柄のうちの同一のものが仮停止表示されるリーチが実行される。その後、特殊図柄TZ1が表示部50aの上下方向中央に中演出図柄EZ2として仮停止することを煽る。具体的には、中演出図柄EZ2として特殊図柄TZ1の一つ手前の、数字「8」を含む演出図柄が表示部50aの上下方向中央を過ぎたら、中演出図柄EZ2の変動表示の速度が落ちて（スローダウンして）、表示部50aの上方から出現する特殊図柄TZ1が表示部50aの上下方向中央に仮停止するかどうかをじらす内容の画像演出になっている。

40

【0277】

本実施形態では、図32（B）に示す煽り演出の実行後に特殊図柄TZ1が仮停止する場合と、中演出図柄EZ2（特殊図柄TZ1）が仮停止しない場合とがある。具体的に、図32（B）に示す煽り演出が行われた後、図32（C-1）に示すように中演出図柄EZ2として特殊図柄TZ1が仮停止して、図28に示す上記特殊S Pリーチに移行する場合と、図32（C-2）に示すように中演出図柄EZ2として「特殊図柄TZ1」が仮停

50

止せず、上記Nリーチに移行する場合とがある。

【0278】

特殊SPリーチに移行する場合、中演出図柄EZ2としての特殊図柄TZ1の仮停止後すぐに特殊SPリーチの実行が開始される(図32(D)参照)。つまり、特殊図柄TZ1の仮停止が特殊SPリーチの実行契機となっている。

【0279】

また、図32(C-1)に示すように、特殊図柄TZ1の仮停止時の左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3は、同一の偶数の数字を含んだ停止態様で仮停止表示されている。それに対し、図32(D)に示すように、特殊SPリーチの実行時には、左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3は、同一の奇数の数字を含んだ停止態様で仮停止表示されている。つまり、特殊SPリーチの実行開始の前後で、左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3の停止態様が同一の偶数の数字を含んだものから同一の奇数の数字を含んだものに変化する。

【0280】

同一の偶数の数字を含んだ停止態様で左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3が仮停止したリーチの時点で、遊技者は、この特図変動で大当たりに当選しても、それが遊技者にとって有利な「大当たり図柄1」ではなく「大当たり図柄2」になるだろうと思いがちである。しかしながら、特殊SPリーチの実行開始に伴って、左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3が同一の奇数の数字を含んだ停止態様に変化することで、当該の特図変動で大当たりに当選する場合には、その大当たりが遊技者にとって有利な「大当たり図柄1」になるかもしれないことを遊技者に期待させることができるとなっている。つまり、当選の場合には相対的に価値のあるうれしい大当たりになることを遊技者に意識させて、大当たり当選への関心を高めることができるとなっている。そして、大当たり当選に高い関心を持った遊技者に、表示部50a上で実行される特殊SPリーチの演出内容やその結末(当否判定)について注目させることができるとなっている。

【0281】

一方、Nリーチに移行する場合、中演出図柄EZ2が変動した状態のまま、上述のNリーチの実行が開始される。

【0282】

なお、本実施形態では、左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3として奇数の数字を含む演出図柄のうちの同一のものが仮停止表示されたリーチの後に上記の煽り演出が行われない。すなわち、同一の奇数の数字を含んだ停止態様で左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3が仮停止したリーチ後に、上記特殊図柄TZ1が中演出図柄EZ2に仮停止することもなければ、特殊SPリーチが実行されることもない。

【0283】

本実施形態では、遊技制御用マイコン101が決定した特図1変動パターンが上記「P21」、「P23」、「P27」又は「P30」の場合に、同一の奇数の数字を含んだ停止態様で左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3が仮停止したリーチになり得る。上述したように、これら特図1変動パターン「P21」、「P23」、「P27」および「P30」では、左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3が同一の奇数の数字を含んだ停止態様で仮停止表示してNリーチが行われる(図28参照)。つまり、本実施形態では、図33に示すように、同一の奇数の数字を含んだ停止態様で左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3が仮停止したリーチ後には必ずNリーチが実行される。すなわち、同一の奇数の数字を含んだ停止態様で左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3が仮停止したリーチ後に、特殊SPリーチが実行されることはない。

【0284】

8. 第1実施形態の効果

以上で詳細に説明したように、第1実施形態のパチンコ遊技機PY1のリーチの態様には、左演出図柄EZ1と右演出図柄EZ3とが同じ偶数の停止態様と、左演出図柄EZ1と右演出図柄EZ3とが同じ奇数の停止態様とがある。左演出図柄EZ1と右演出図柄EZ3とが同じ偶数の停止態様とがある。

10

20

30

40

50

Z 3 とが同じ偶数の停止態様とは、実行後の遊技状態が低確率高ベース遊技状態に設定される「大当たり遊技 2」になる可能性があることを示唆する態様である。それに対し、左演出図柄 E Z 1 と右演出図柄 E Z 3 とが同じ奇数の停止態様とは、実行後の遊技状態が高確率高ベース遊技状態に設定される「大当たり遊技 1」になる可能性があることを示唆する態様である。そして、図 3 2 (C - 1) に示すように、同じ偶数の停止態様での左演出図柄 E Z 1 および右演出図柄 E Z 3 の表示中に、中演出図柄 E Z 2 として特殊図柄 T Z 1 が表示された場合には、その後、図 3 2 (D) に示すように、左演出図柄 E Z 1 および右演出図柄 E Z 3 が同じ奇数の停止態様に変更される。

【 0 2 8 5 】

そのため、同じ偶数の停止態様での左演出図柄 E Z 1 および右演出図柄 E Z 3 から、仮に大当たりに当選したとしても「大当たり遊技 2」になると思っていた遊技者の意表を突くことが可能となっている。さらに、その大当たり遊技 2 より有利な「大当たり遊技 1」になるかもしれないことを遊技者に期待（意識）させることができるとなっている。そして、そのような期待を抱いた遊技者に、その後の遊技や演出（特に、特殊 S P リーチや結末）を注目させることができとなっている。

10

【 0 2 8 6 】

或いは、特殊 S P リーチの実行開始とともに左演出図柄 E Z 1 と右演出図柄 E Z 3 とが同じ偶数の停止態様から同じ奇数の停止態様に変化した場合に、もともと想定していた「大当たり遊技 2」ではなく「大当たり遊技 1」になるかもしれないことを遊技者に意識させることができとなっている。そして、そのような意識を持った遊技者に、左演出図柄 E Z 1 および右演出図柄 E Z 3 の図柄の変化以降の特殊 S P リーチを注目させることができとなっている。

20

【 0 2 8 7 】

また、本実施形態では、同じ奇数の停止態様での左演出図柄 E Z 1 および右演出図柄 E Z 3 の停止表示が、N リーチ又は S P リーチの実行を示唆し、同じ偶数の停止態様での左演出図柄 E Z 1 および右演出図柄 E Z 3 の停止表示が、N リーチ又は特殊 S P リーチの実行を示唆している。そして、同じ偶数の停止態様での左演出図柄 E Z 1 および右演出図柄 E Z 3 の表示中に特殊図柄 T Z 1 が表示された場合には、特殊 S P リーチの実行が開始される。

30

【 0 2 8 8 】

そのため、同じ偶数の停止態様での左演出図柄 E Z 1 および右演出図柄 E Z 3 の表示中に特殊図柄 T Z 1 が表示されることで、遊技者は、特殊 S P リーチの実行とともに、同じ奇数の停止態様での左演出図柄 E Z 1 および右演出図柄 E Z 3 への変化も確信可能となっている。そして、同じ偶数の停止態様での左演出図柄 E Z 1 および右演出図柄 E Z 3 への変化によって、「大当たり遊技 2」より有利な「大当たり遊技 1」になるかもしれないことをさらに期待する遊技者に、特殊 S P リーチを注目させることができとなっている。

【 0 2 8 9 】

また、本実施形態では、左演出図柄 E Z 1 および右演出図柄 E Z 3 が同じ偶数の停止態様で表示されて特殊 S P リーチが実行される場合には、それら左演出図柄 E Z 1 および右演出図柄 E Z 3 が同じ偶数の停止態様から同じ奇数の停止態様に変化する。それに対し、左演出図柄 E Z 1 および右演出図柄 E Z 3 が同じ偶数の停止態様で表示されて N リーチが実行される場合には、それら左演出図柄 E Z 1 および右演出図柄 E Z 3 が同じ奇数の停止態様に変化しない。つまり、左演出図柄 E Z 1 および右演出図柄 E Z 3 が同じ偶数の停止態様で表示されて特殊 S P リーチが実行される場合と N リーチが実行される場合との間で、それら左演出図柄 E Z 1 および右演出図柄 E Z 3 が同じ偶数の停止態様から同じ奇数の停止態様に変化する確率が異なる。

40

【 0 2 9 0 】

そのため、実行されるリーチ演出の種類によって、同じ偶数の停止態様である左演出図柄 E Z 1 および右演出図柄 E Z 3 が変化することへの遊技者の期待感を異ならせることができとなっている。よって、バラエティに富んだリーチ演出を備えた遊技機とすることが

50

可能である。

【0291】

また、本実施形態では、「大当たり遊技2」よりも「大当たり遊技1」の方が遊技者に有利な大当たり遊技状態であり、左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3が同じ偶数の停止態様で表示されてNリーチが実行される場合よりも、特殊SPリーチが実行される場合の方が、それら左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3が同じ奇数の停止態様に変化し易い。

【0292】

そのため、遊技者は、同じ偶数の停止態様で左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3が表示された場合には、Nリーチよりも、左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3が同じ奇数の停止態様に変化し易い特殊SPリーチの実行を期待し易い。

10

【0293】

また、本実施形態では、特殊SPリーチは、左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3が同じ偶数の停止態様で表示された場合に実行されるときがあるけれども、同じ奇数の停止態様で表示された場合には実行されない。

【0294】

そのため、遊技者は、同じ偶数の停止態様で左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3が表示された場合にだけ特殊SPリーチの実行を期待可能となっている。

【0295】

9. 変更例

20

次に、上記第1実施形態のパチンコ遊技機PY1の変更例について説明する。なお、変更例の説明において、第1実施形態のパチンコ遊技機PY1と同様の構成については、同じ符号を付して説明を省略する。勿論、変更例に係る構成同士を適宜組み合わせて構成してもよい。また、上記第1実施形態および下記変更例中の技術的特徴は、本明細書において必須なものとして説明されていなければ、適宜、削除することが可能である。

【0296】

上記第1実施形態では、特殊SPリーチ（第1リーチ演出）を、左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3が同じ偶数の停止態様で表示された場合に行われるときがあるけれども、同じ奇数の停止態様で表示された場合には行われない演出とした。しかしながら、第1リーチ演出を、左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3が同じ奇数の停止態様で表示された場合よりも同じ偶数の停止態様で表示された場合の方が実行され易い演出としてもよい。そのような場合に、同じ奇数の停止態様で左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3が表示された場合よりも、同じ偶数の停止態様で左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3が表示された場合の方が、遊技者は特殊SPリーチ（第1リーチ演出）の実行を期待し易い。

30

【0297】

また、上記第1実施形態では、文字列「特殊SP」を示す画像を含む特殊図柄TZ1を特殊な演出図柄とした。しかしながら、「特殊SP」以外の文字又は文字列を用いた画像を含む図柄でもよい。また、特殊SPリーチのタイトルの一部と共に通する文字列を含む図柄を特殊な演出図柄としたが、共通しない文字又は文字列を含む図柄でもよい。つまり、特殊SPリーチ（特殊リーチ演出）の実行を遊技者に想起させづらい（或いは想起させない）文字又は文字列を含む図柄でもよい。

40

【0298】

また、文字や文字列を含まない画像でもよい。具体的に例えば、特定の図形（図34（C-1）参照）や、キャラクタや、オブジェクトや、それらをモチーフとした（真似た）形状（形態）の画像でもよい。

【0299】

また、上記第1実施形態では、特殊図柄（特殊な演出図柄）の態様を、特殊SPリーチ（特殊リーチ演出）の実行を示唆する表示態様とした。しかしながら、特殊リーチ演出の実行を示唆しない表示態様でもよい。つまり、特殊リーチ演出とは関連性の薄い（或いは

50

関連性がない) 表示態様でもよい。

【0300】

また、上記第1実施形態では、その後、低確率高ベース遊技状態になる大当たり遊技状態を第1の有利遊技状態とし、その後、高確率高ベース遊技状態になる大当たり遊技状態を第2の有利遊技状態とした。しかしながら、第1の有利遊技状態と第2の有利遊技状態の組み合わせとして、その後、低確率低ベース遊技状態になる大当たり遊技状態が第1の有利遊技状態であるのに対し、その後、高確率高ベース遊技状態になる大当たり遊技状態が第2の有利遊技状態でもよい。また、その後、低確率低ベース遊技状態になる大当たり遊技状態が第1の有利遊技状態であるのに対し、その後、高確率低ベース遊技状態になる大当たり遊技状態が第2の有利遊技状態でもよい。さらに、その後、低確率低ベース遊技状態になる大当たり遊技状態が第1の有利遊技状態であるのに対し、その後、低確率高ベース遊技状態になる大当たり遊技状態が第2の有利遊技状態でもよい。

10

【0301】

或いは、その後、高確率低ベース遊技状態になる大当たり遊技状態が第1の有利遊技状態であるのに対し、その後、高確率高ベース遊技状態になる大当たり遊技状態が第2の有利遊技状態でもよい。さらに、その後、高確率低ベース遊技状態になる大当たり遊技状態が第1の有利遊技状態であるのに対し、その後、低確率高ベース遊技状態になる大当たり遊技状態が第2の有利遊技状態でもよい。また、その後、低確率高ベース遊技状態になる大当たり遊技状態が第1の有利遊技状態であるのに対し、その後、高確率低ベース遊技状態になる大当たり遊技状態が第2の有利遊技状態でもよい。

20

【0302】

また、上記第1実施形態では、第1の有利遊技状態よりも第2の有利遊技状態の方が遊技者に有利としたが、逆に、第2の有利遊技状態よりも第1の有利遊技状態の方が遊技者に有利としてもよい。すなわち、第1の有利遊技状態と第2の有利遊技状態の組み合わせとして、その後、低確率低ベース遊技状態になる大当たり遊技状態が第2の有利遊技状態であるのに対し、その後、高確率高ベース遊技状態になる大当たり遊技状態が第1の有利遊技状態でもよい。また、その後、低確率低ベース遊技状態になる大当たり遊技状態が第2の有利遊技状態であるのに対し、その後、高確率低ベース遊技状態になる大当たり遊技状態が第1の有利遊技状態でもよい。さらに、その後、低確率低ベース遊技状態になる大当たり遊技状態が第2の有利遊技状態であるのに対し、その後、低確率高ベース遊技状態になる大当たり遊技状態が第1の有利遊技状態でもよい。

30

【0303】

或いは、その後、高確率低ベース遊技状態になる大当たり遊技状態が第2の有利遊技状態であるのに対し、その後、高確率高ベース遊技状態になる大当たり遊技状態が第1の有利遊技状態でもよい。さらに、その後、高確率低ベース遊技状態になる大当たり遊技状態が第2の有利遊技状態であるのに対し、その後、低確率高ベース遊技状態になる大当たり遊技状態が第1の有利遊技状態でもよい。また、その後、低確率高ベース遊技状態になる大当たり遊技状態が第2の有利遊技状態であるのに対し、その後、高確率低ベース遊技状態になる大当たり遊技状態が第1の有利遊技状態でもよい。

40

【0304】

また、第1の有利遊技状態および第2の有利遊技状態が同程度に遊技者に有利な遊技状態でもよい。

【0305】

また、上記第1実施形態では、左演出図柄EZ1と右演出図柄EZ3と同じ停止態様(仮停止態様)を特定の態様とした。しかしながら、左演出図柄EZ1と中演出図柄EZ2とが同じ停止態様を特定の態様としてもよい。つまり、リーチの態様が左演出図柄EZ1および中演出図柄EZ2からなる構成でもよい。また、中演出図柄EZ2と右演出図柄EZ3とが同じ停止態様を特定の態様としてもよい。つまり、リーチの態様が中演出図柄EZ2および右演出図柄EZ3からなる構成でもよい。

50

【0306】

また、上記第1実施形態では、演出図柄の数を3個（左演出図柄EZ1、中演出図柄EZ2および右演出図柄EZ3）とした。しかしながら、演出図柄の数を2個としてもよい。その場合、2個の演出図柄の一方からなる停止態様（仮停止態様）を特定の態様とする。又は、演出図柄の数をN個（Nは4以上の整数）としてもよい。その場合、N個の演出図柄のうち、（N-1）個の演出図柄からなる停止態様（仮停止態様）を特定の態様とする。或いは、（N-M）個（Mは2以上かつN未満の整数）の演出図柄からなる停止態様（仮停止態様）を特定の態様とする。

【0307】

また、上記第1実施形態では、2つの演出図柄に含まれる数字が同じである停止態様（仮停止態様）を特定の態様とした。しかしながら、例えば2つの演出図柄の色が同じである停止態様（仮停止態様）を特定の態様としてもよい。また、例えば2つの演出図柄に含まれるキャラクタ画像が同じである停止態様（仮停止態様）を特定の態様としてもよい。

10

【0308】

また、上記第1実施形態では、同じ偶数の停止態様（第1態様）での左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3（演出図柄）の表示中に特殊図柄TZ1（特殊な演出図柄）が表示された場合には、必ずその演出図柄が第1態様から同じ奇数の停止態様（第2態様）に変化する構成とした。しかしながら、第1態様での演出図柄の表示中に特殊な演出図柄が表示された場合には、必ずしもその演出図柄が第1態様から第2態様に変化しない構成としてもよい。つまり、第1態様での演出図柄の表示中に特殊な演出図柄が表示された場合には、その演出図柄が第1態様から第2態様に変化するときもあれば、変化しないときもある構成としてもよい。

20

【0309】

また、上記第1実施形態では、同じ奇数の停止態様（第2態様）での左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3（演出図柄）の表示中に特殊図柄TZ1（特殊な演出図柄）が表示された場合には、演出図柄を第2態様から同じ偶数の停止態様（第1態様）に変化させない構成とした。しかしながら、第2態様での演出図柄の表示中に特殊な演出図柄が表示された場合に、演出図柄を第2態様から第1態様に変化させるときがある構成としてもよい。

30

【0310】

また、上記第1実施形態では、特殊SPリーチを特殊リーチ演出としたが、特殊SPリーチ以外の、SPリーチや、Lリーチや、Nリーチといったリーチ演出を特殊リーチ演出としてもよい。

【0311】

また、上記第1実施形態では、特殊SPリーチ（特殊リーチ演出）の実行開始とともに、左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3（演出図柄）を同じ偶数の停止態様（第1態様）から同じ奇数の停止態様（第2態様）に変化させる構成とした。しかしながら、特殊リーチ演出の実行開始とともに、演出図柄を第1態様から第2態様に変化させる構成でもよい。また、特殊リーチ演出の実行前に、演出図柄を第1態様から第2態様に変化させる構成としてもよい。具体的には、特殊図柄TZ1（特殊な演出図柄）の表示後から特殊リーチ演出の実行前までの期間に、演出図柄を第1態様から第2態様に変化させる構成が挙げられる。

40

【0312】

また、上記第1実施形態では、左演出図柄EZ1および右演出図柄EZ3（演出図柄）が同じ偶数の停止態様（第1態様）で表示されて特殊SPリーチ（第1リーチ演出）が実行された場合に、演出図柄が第1態様から、同じ奇数の停止態様（第2態様）に変化する構成とした。しかしながら、演出図柄が第1態様で表示されて第1リーチ演出が実行された場合に、演出図柄が第1態様から第2態様に変化可能な構成としてもよい。さらに、演出図柄が第1態様で表示されてNリーチ（第2リーチ演出）が実行された場合に、その演出図柄が第1態様から第2態様に変化しない構成とした。しかしながら、演出図柄が第1態様で表示されて第2リーチ演出が実行された場合に、演出図柄が第1態様から第2態様

50

に変化可能な構成としてもよい。

【0313】

しかも、演出図柄が第1態様で表示されて第1リーチ演出が実行された場合にその演出図柄が第1態様から第2態様に変化する確率の方が、演出図柄が第1態様で表示されて第2リーチ演出が実行された場合にその演出図柄が第1態様から第2態様に変化する確率よりも小さくてもよい。

【0314】

また、上記第1実施形態では、特殊図柄の停止後に連続して特殊SPリーチが実行される構成とした。しかしながら、特殊図柄の停止後に、例えばNリーチや、ほかのSPリーチの実行を介して特殊SPリーチが実行される構成でもよい。

10

【0315】

また、上記第1実施形態では、所謂「第1種」、「デジパチ」といわれるパチンコ遊技機PY1を遊技機として示した。しかしながら遊技機を、所謂「第3種」、「権利物」といわれるパチンコ遊技機や、「第1種」のパチンコ遊技機の特徴と「第2種」のパチンコ遊技機の特徴とを併せ持つ所謂「1種2種混合」といわれるパチンコ遊技機としてもよい。また、ST(スペシャルタイム)の期間、当選確率が高確率状態に制御される所謂「ST機」といわれるパチンコ遊技機としてもよい。

【0316】

10. 上記の実施形態に示されている発明

上記の実施形態には、以下の発明(発明A1～A2、発明B1～B5)が示されている。以下に記す発明の説明では、上記した実施の形態における対応する構成名や表現、図面に使用した符号を参考のためにかっこ書きで付記している。但し、各発明の構成要素はこの付記に限定されるものではない。

20

【0317】

発明A1は、

遊技状態を遊技者に有利な有利遊技状態(大当たり遊技状態)に設定可能な設定手段(特別動作処理(S106))の遊技状態設定処理を実行する遊技制御用マイコン101)と、

所定の演出を実行可能な演出実行手段(サブ制御基板120)と、を備え、
前記有利遊技状態には、第1の有利遊技状態(その後、低確率高ベース遊技状態になる大当たり遊技状態)と、その第1の有利遊技状態よりも遊技者に有利な第2の有利遊技状態(その後、高確率高ベース遊技状態になる大当たり遊技状態)と、があり、
前記演出実行手段は、

特定の態様(左演出図柄EZ1と右演出図柄EZ3とが同じ停止態様)で演出図柄を表示可能であり、

前記特定の態様には、前記第1の有利遊技状態になる可能性があることを示唆する第1態様(左演出図柄EZ1と右演出図柄EZ3とが同じ偶数の停止態様)と、前記第2の有利遊技状態になる可能性があることを示唆する第2態様(左演出図柄EZ1と右演出図柄EZ3とが同じ奇数の停止態様)と、があり、

前記第1態様での演出図柄の表示中に特殊な演出図柄(特殊図柄TZ1, TZ2)が表示された場合には、その演出図柄が前記第1態様から前記第2態様に変化するときがあることを特徴とする遊技機(パチンコ遊技機PY1)である。

30

【0318】

この構成の遊技機によれば、第1態様での演出図柄の表示中に特殊な演出図柄が表示されて演出図柄が第2態様に変化した場合に、より有利な遊技状態(第2の有利遊技状態)になるかもしれないことを遊技者に期待させることが可能である。そして、そのような期待を抱いた遊技者に、その後の遊技を注目させることが可能である。

【0319】

発明A2は、

発明A1に記載の遊技機であって、

50

前記演出実行手段は、

リーチ演出を実行可能であり、

前記特定の態様とは、前記リーチ演出の実行を示唆可能な態様であり、

前記リーチ演出には、特殊リーチ演出（特殊 S P リーチ）があり、

前記第1態様での演出図柄の表示中に前記特殊な演出図柄が表示された場合には、前記特殊リーチ演出の実行が開始されることを特徴とする遊技機である。

【0320】

この構成の遊技機によれば、第1態様での演出図柄の表示中に特殊な演出図柄が表示されることで、遊技者は、特殊リーチ演出の実行を確信しつつ、第1態様から第2態様への演出図柄の変化を期待することが可能である。そして、演出図柄が第2態様に変化した場合には、より有利な遊技状態になるかもしれないことをさらに期待する遊技者に、特殊リーチ演出を注目させることができる。

10

【0321】

発明 B 1 は、

遊技状態を遊技者に有利な有利遊技状態（大当たり遊技状態）に設定可能な設定手段（特別動作処理（S106）の遊技状態設定処理を実行する遊技制御用マイコン101）と、

所定の演出を実行可能な演出実行手段（サブ制御基板120）と、を備え、

前記有利遊技状態には、第1の有利遊技状態（その後、低確率高ベース遊技状態になる大当たり遊技状態）と、第2の有利遊技状態（その後、高確率高ベース遊技状態になる大当たり遊技状態）と、があり、

20

前記演出実行手段は、

リーチ演出（Nリーチ、特殊 S P リーチ）を実行可能であり、

前記リーチ演出の実行を示唆可能な特定の態様（左演出図柄EZ1と右演出図柄EZ3とが同じ停止態様）で演出図柄を表示可能であり、

前記特定の態様には、前記第1の有利遊技状態になる可能性があることを示唆する第1態様（左演出図柄EZ1と右演出図柄EZ3とが同じ偶数の停止態様）と、前記第2の有利遊技状態になる可能性があることを示唆する第2態様（左演出図柄EZ1と右演出図柄EZ3とが同じ奇数の停止態様）と、があり、

演出図柄が前記第1態様で表示されて前記リーチ演出が実行される場合には、その演出図柄が前記第1態様から前記第2態様に変化するときがあることを特徴とする遊技機（パンチコ遊技機PY1）である。

30

【0322】

この構成の遊技機によれば、リーチ演出にて演出図柄が第1態様から第2態様に変化した場合に、第1の有利遊技状態ではなく第2の有利遊技状態になるかもしれないことを遊技者に意識させることができある。そして、そのような意識を持った遊技者に、演出図柄の変化以降のリーチ演出を注目させることができる。

【0323】

発明 B 2 は、

発明 B 1 に記載の遊技機であって、

40

前記リーチ演出には、第1リーチ演出（特殊 S P リーチ）と第2リーチ演出（Nリーチ）とがあり、

演出図柄が前記第1態様で表示されて前記第1リーチ演出が実行される場合と、演出図柄が前記第1態様で表示されて前記第2リーチ演出が実行される場合とで、その演出図柄が前記第1態様から前記第2態様に変化する確率がそれぞれ異なることを特徴とする遊技機である。

【0324】

この構成の遊技機によれば、実行されるリーチ演出の種類によって、演出図柄の変化への遊技者の期待感を異ならせることができる。よって、バラエティに富んだリーチ演出を備えた遊技機とすることが可能である。

50

【0325】

発明B3は、

発明B2に記載の遊技機であって、

前記第1の有利遊技状態よりも前記第2の有利遊技状態の方が遊技者に有利な遊技状態であり、

演出図柄が前記第1態様で表示されて前記第2リーチ演出が実行される場合よりも、演出図柄が前記第1態様で表示されて前記第1リーチ演出が実行される場合の方が、その演出図柄が前記第1態様から前記第2態様に変化し易いことを特徴とする遊技機である。

【0326】

この構成の遊技機によれば、遊技者は、第1態様で演出図柄が表示された場合には、第2リーチ演出よりも、その演出図柄が第2態様に変化し易い第1リーチ演出の実行を期待し易い。

【0327】

発明B4は、

発明B3に記載の遊技機であって、

前記第1リーチ演出は、

演出図柄が前記第1態様で表示された場合には実行されるときがあるけれども、演出図柄が前記第2態様で表示された場合には実行されないことを特徴とする遊技機である。

【0328】

この構成の遊技機によれば、遊技者は、第1態様で演出図柄が表示された場合にだけ第1リーチ演出の実行を期待可能である。

【0329】

発明B5は、

発明B3に記載の遊技機であって、

前記第1リーチ演出は、

演出図柄が前記第2態様で表示された場合よりも前記第1態様で表示された場合の方が実行され易いことを特徴とする遊技機である。

【0330】

この構成の遊技機によれば、遊技者は、第2態様で演出図柄が表示された場合よりも第1態様で演出図柄が表示された場合の方が第1リーチ演出の実行を期待し易い。

【符号の説明】

【0331】

101...遊技制御用マイコン

120...サブ制御基板（演出実行手段）

121...演出制御用マイコン

EZ1...左演出図柄

EZ2...中演出図柄

EZ3...右演出図柄

PY1...パチンコ遊技機（遊技機）

TZ1, TZ2...特殊図柄（特殊な演出図柄）

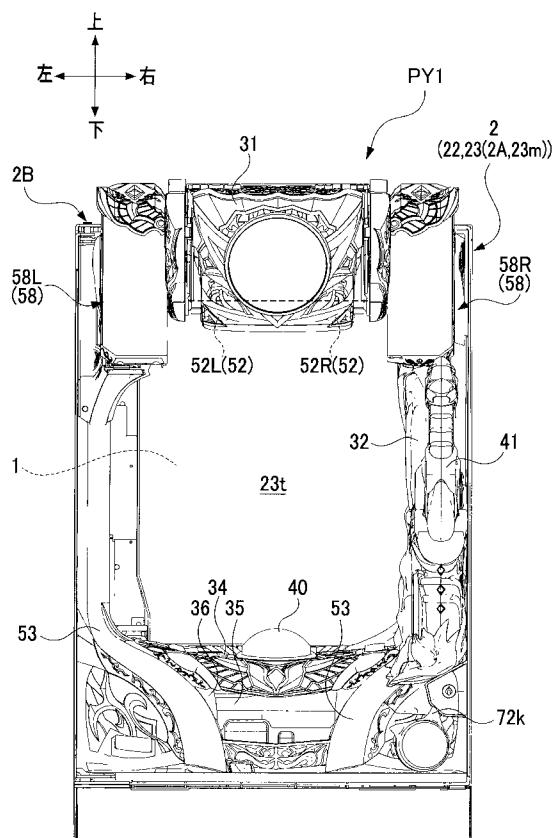
10

20

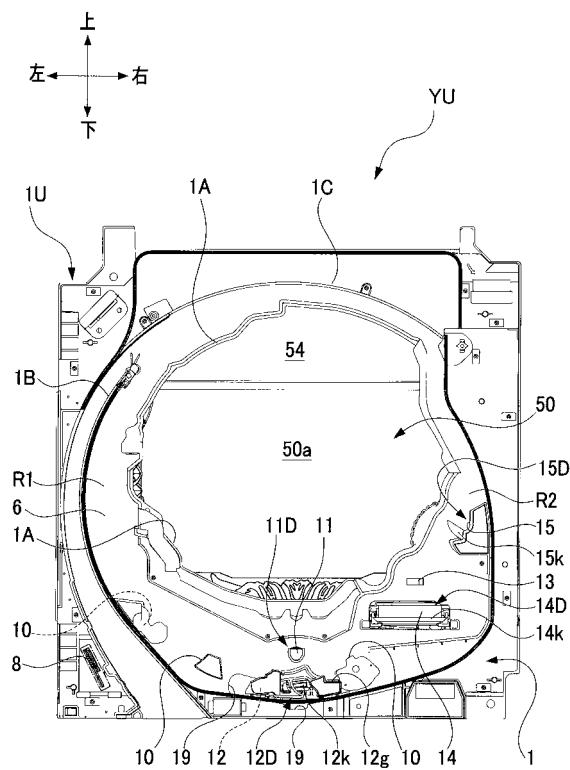
30

40

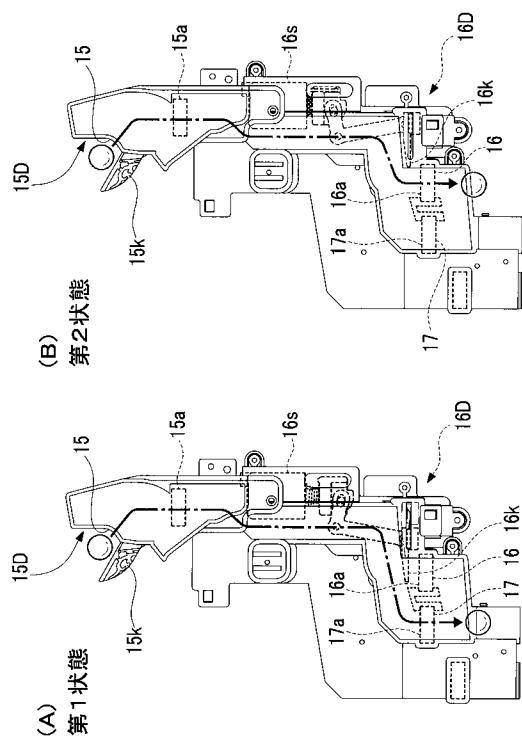
【図1】



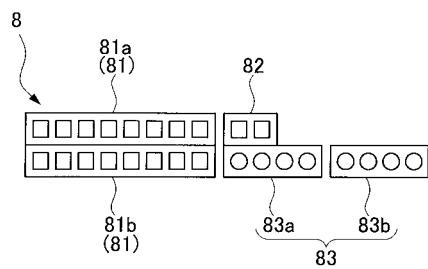
【図2】



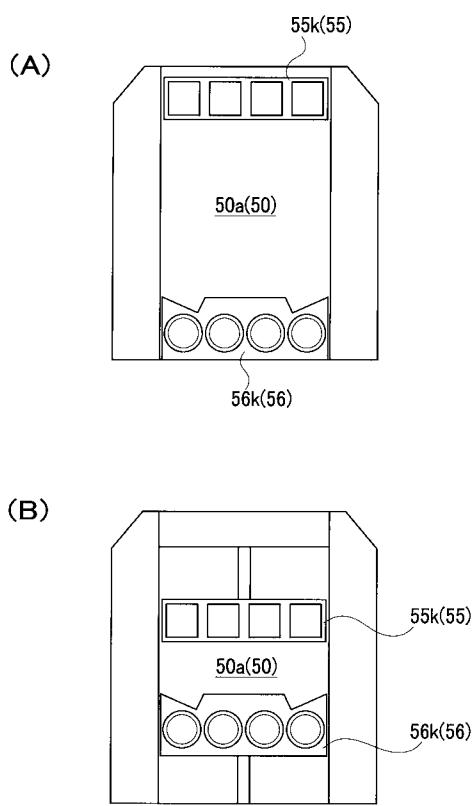
【図3】



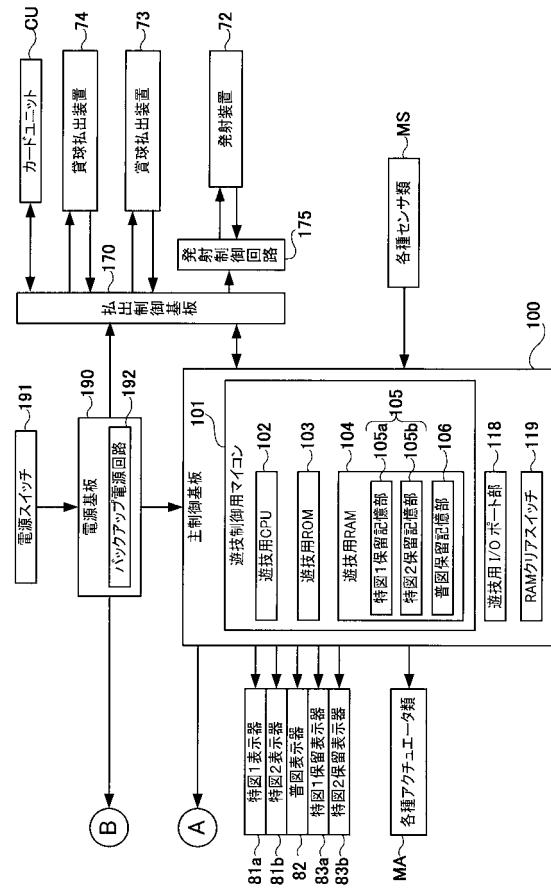
【図4】



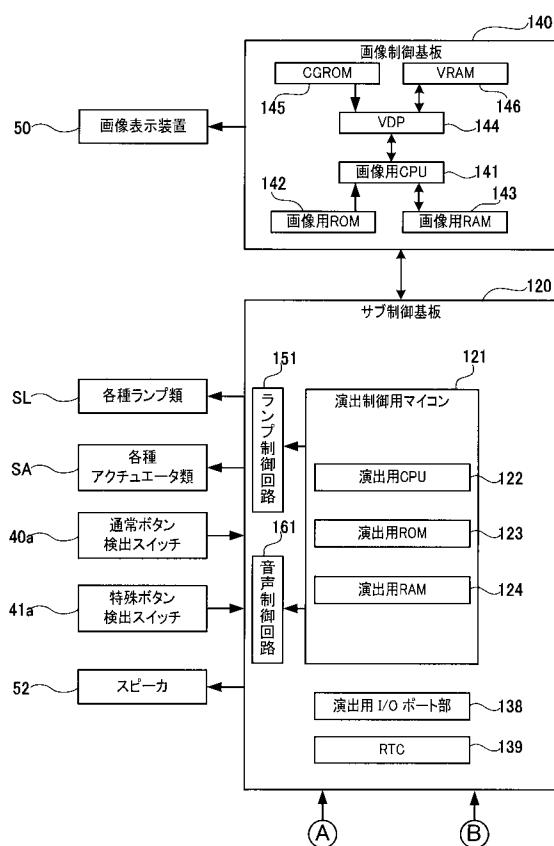
【図5】



【図6】



【図7】



【図8】

(A)普図関係乱数

乱数名	数値範囲	用途
普通図柄乱数	0~65535	当たり判定用

(B)特図関係乱数

乱数名	数値範囲	用途
特別図柄乱数	0~65535	当たり判定用
大当たり図柄種別乱数	0~9	大当たり図柄種別判定用
リーチ乱数	0~99	リーチ判定用
特図変動パターン乱数	0~99	特図変動パターン判定用

【図9】

(A)当たり判定テーブル

遊技状態		普通回柄乱数値	判定結果
非時短状態	—	1~6600	当たり
	—	0~65535のうち上記以外の数値	ハズレ
時短状態	—	1~59936	当たり
	—	0~65535のうち上記以外の数値	ハズレ

(B)普図変動パターン判定テーブル

遊技状態		普通回柄	普図変動時間
非時短状態	—	ハズレ普図	30秒
	—	当たり図柄	30秒
時短状態	—	ハズレ普図	5秒
	—	当たり図柄	5秒

(C)補助遊技制御テーブル

遊技状態	開放回数	開放時間
非時短状態	1	0.08秒
時短状態	1	3.00秒

【図10】

(A)大当たり判定テーブル

遊技状態		特別回柄乱数値	判定結果
通常確率状態	—	1000~1219	大当たり
	—	0~65535のうち上記以外の数値	ハズレ
高確率状態	—	1000~2499	大当たり
	—	0~65535のうち上記以外の数値	ハズレ

(B)大当たり回柄種別判定テーブル

特別回柄	大当たり回柄種別乱数値	判定結果
特図1	0~4	大当たり回柄X
	5~9	大当たり回柄Y
特図2	0~9	大当たり回柄Z
	—	—

(C)リーチ判定テーブル

遊技状態	リーチ乱数値	判定結果
非時短状態	0~29	リーチ有り
	30~99	リーチ無し
時短状態	0~9	リーチ有り
	10~99	リーチ無し

【図11】

特図1変動パターン判定テーブル						
遊技状態	特図1 判定結果	リーチ 判定結果	特図2 判定結果	リーチ 判定結果	特図1 判定時間(ms)	特図2 判定時間(ms)
非時短 状態	当たり	—	P01 —	100000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	SP1大当たり変動	リーチ→N1→チ
	—	—	P02 —	60000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	リーチ→N1→チ	SP1大当たり変動
時短 状態	—	—	P03 —	30000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	リーチ→N1→チ	SP1大当たり変動
	リーチ有り ハズレ	—	P04 —	95000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	SP1ハズレ変動	リーチ→N1→チ
時短 状態	—	—	P05 —	55000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	SP1ハズレ変動	リーチ→N1→チ
	リーチ無し ハズレ	—	P06 —	25000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	SP1ハズレ変動	リーチ→N1→チ
時短 状態	0~2 —	—	P07 —	13000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	通常変動	通常ハズレ変動
	3~4 —	—	P08 —	4000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	通常変動	通常ハズレ変動
時短 状態	—	—	P09 —	13000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	通常変動	通常ハズレ変動
	リーチ有り ハズレ	—	P10 —	40000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	SP1大当たり変動	リーチ→N1→チ
時短 状態	—	—	P11 —	80000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	通常変動	通常ハズレ変動
	—	—	P12 —	100000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	通常変動	通常ハズレ変動
時短 状態	—	—	P13 —	75000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	通常変動	通常ハズレ変動
	リーチ無し ハズレ	—	P14 —	80000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	通常変動	通常ハズレ変動
時短 状態	0~2 —	—	P15 —	60000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	通常変動	通常ハズレ変動
	3~4 —	—	P16 —	30000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	通常変動	通常ハズレ変動
時短 状態	—	—	P17 —	60000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	通常変動	通常ハズレ変動
	リーチ無し ハズレ	—	P18 —	30000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	通常変動	通常ハズレ変動

【図12】

特図2変動パターン判定テーブル						
遊技状態	特図2 判定結果	リーチ 判定結果	特図1 判定結果	リーチ 判定結果	特図2 判定時間(ms)	特図1 判定時間(ms)
非時短 状態	当たり	—	P51 —	100000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	SP1大当たり変動	リーチ→N1→チ
	—	—	P52 —	60000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	リーチ→N1→チ	SP1大当たり変動
時短 状態	—	—	P53 —	30000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	リーチ→N1→チ	SP1大当たり変動
	リーチ有り ハズレ	—	P54 —	95000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	SP1ハズレ変動	リーチ→N1→チ
時短 状態	—	—	P55 —	55000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	SP1ハズレ変動	リーチ→N1→チ
	リーチ無し ハズレ	—	P56 —	25000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	SP1ハズレ変動	リーチ→N1→チ
時短 状態	0~2 —	—	P57 —	13000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	通常変動	通常ハズレ変動
	3~4 —	—	P58 —	40000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	通常変動	通常ハズレ変動
時短 状態	—	—	P59 —	40000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	通常変動	通常ハズレ変動
	リーチ有り ハズレ	—	P60 —	13000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	SP1大当たり変動	リーチ→N1→チ
時短 状態	—	—	P61 —	80000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	通常変動	通常ハズレ変動
	—	—	P62 —	100000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	通常変動	通常ハズレ変動
時短 状態	—	—	P63 —	75000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	通常変動	通常ハズレ変動
	リーチ有り ハズレ	—	P64 —	80000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	通常変動	通常ハズレ変動
時短 状態	—	—	P65 —	60000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	通常変動	通常ハズレ変動
	リーチ無し ハズレ	—	P66 —	60000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	通常変動	通常ハズレ変動
時短 状態	3~4 —	—	P67 —	30000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	通常変動	通常ハズレ変動
	—	—	P68 —	30000 通常変動リーチ→N1→チ→発展演出→SP1→チ	通常変動	通常ハズレ変動

【図 13】

先読み判定テーブル		始動口	遊技 状態	大当たり 判定結果	変動パターン 判定結果	始動入賞 コマンド	特図変動演出の演出フロー
第1始動口	非時短 状態	大当たり	SP大当たり変動	SP大当たり	コマンド01	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→SPリーチ	
				N大当たり変動	コマンド02	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→LJ→チ	
		N大当たり変動	SPへズレ変動	SPへズレ変動	コマンド03	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→SPリーチ	
				リズム変動	コマンド04	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→LJ→チ	
				Nへズレ変動	コマンド05	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→LJ→チ	
	時短 状態	大当たり	SPへズレ変動	SPへズレ変動	コマンド06	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→LJ→チ	
				SP大当たり変動	コマンド07	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→SPリーチ	
		N大当たり変動	SPへズレ変動	大当たり変動	コマンド08	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→LJ→チ	
				SPへズレ変動	コマンド09	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→SPリーチ	
				リズム変動	コマンド10	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→LJ→チ	
第2始動口	非時短 状態	大当たり	SPへズレ変動	SPへズレ変動	コマンド11	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→SPリーチ	
				SPへズレ変動	コマンド12	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→LJ→チ	
		N大当たり変動	SPへズレ変動	SPへズレ変動	コマンド13	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→SPリーチ	
				SPへズレ変動	コマンド14	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→LJ→チ	
				SPへズレ変動	コマンド15	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→SPリーチ	
	時短 状態	大当たり	SPへズレ変動	SPへズレ変動	コマンド16	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→LJ→チ	
				SPへズレ変動	コマンド17	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→SPリーチ	
		N大当たり変動	SPへズレ変動	大当たり変動	コマンド18	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→LJ→チ	
				SPへズレ変動	コマンド19	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→SPリーチ	
				SPへズレ変動	コマンド20	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→LJ→チ	

【図 14】

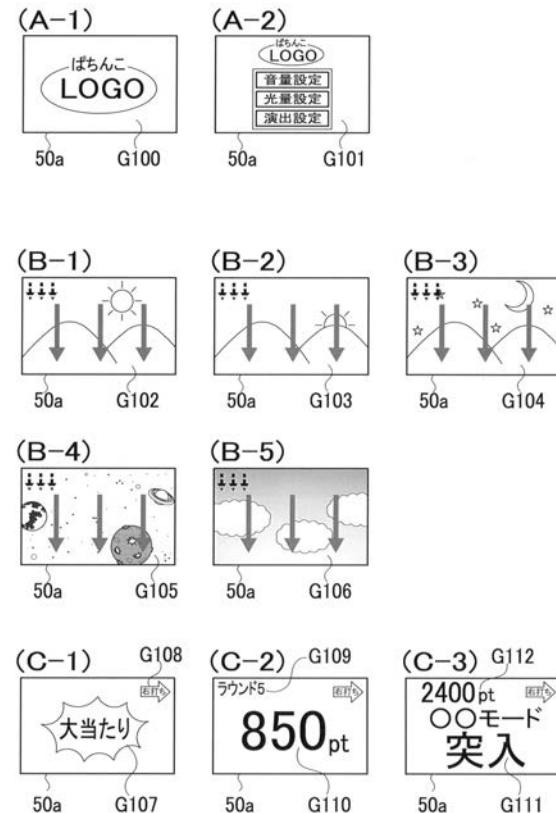
大当たり遊技制御テーブル	大入賞口の開閉パターン	大入賞口の開放回数	1回のラウンド	ラウンドの回数	遊技当たりの開放回数	開放する大入賞口	開放時間	閉鎖時間	OP時間	ED時間
大当たり遊技X (Vロング大当たり)	16R (実質9R)	1~8R	1回	第1大入賞口	29.5秒	2.5秒	2.5秒	0.1秒	10.0秒	15.0秒
大当たり遊技Y (ショート大当たり)	16R (実質9R)	9~15R	1回	第2大入賞口	29.5秒	2.0秒	2.0秒	0.1秒	10.0秒	10.0秒
大当たり遊技Z (Vロング大当たり)	16R (実質16R)	1~8R	1回	第3大入賞口	29.5秒	2.0秒	2.0秒	0.1秒	10.0秒	10.0秒
		9~15R	1回	第4大入賞口	29.5秒	2.0秒	2.0秒	0.1秒	10.0秒	10.0秒

【図 15】

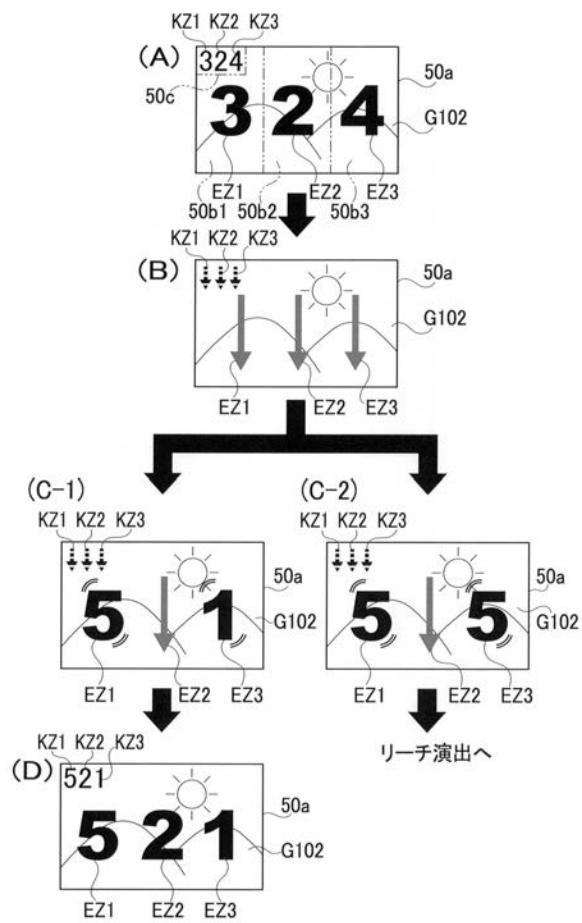
遊技状態

遊技状態	大当たり確率	電チュー作動
低確率低ベース遊技状態	通常確率状態	非時短状態
低確率高ベース遊技状態	通常確率状態	時短状態
高確率低ベース遊技状態	高確率状態	非時短状態
高確率高ベース遊技状態	高確率状態	時短状態
大当たり遊技状態	—	非時短状態

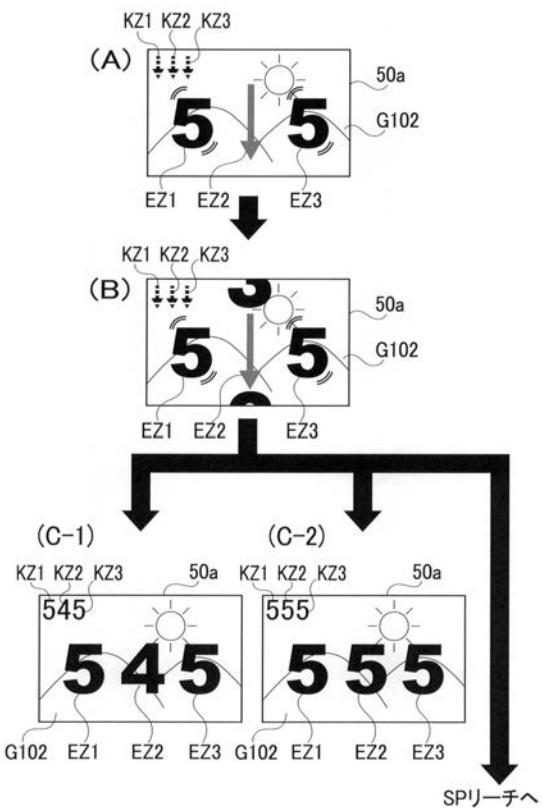
【図 16】



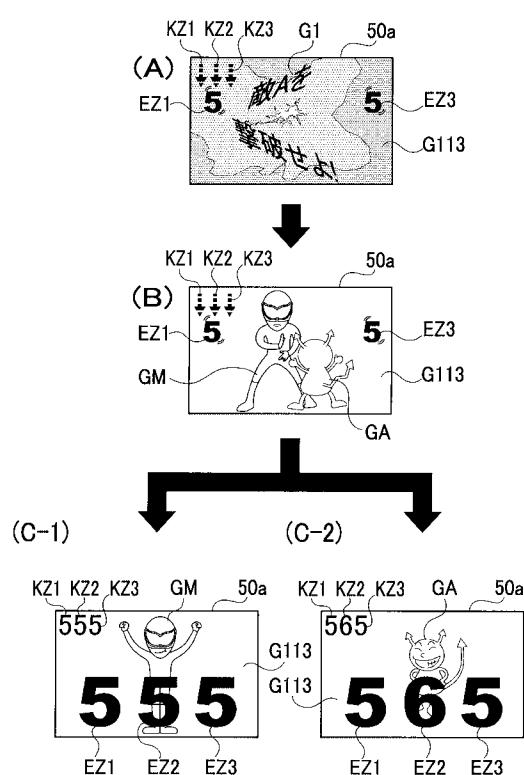
【図17】



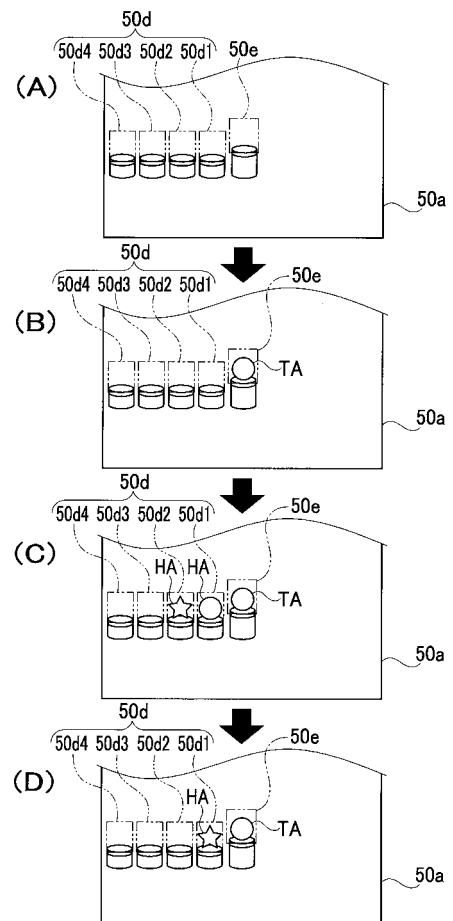
【図18】



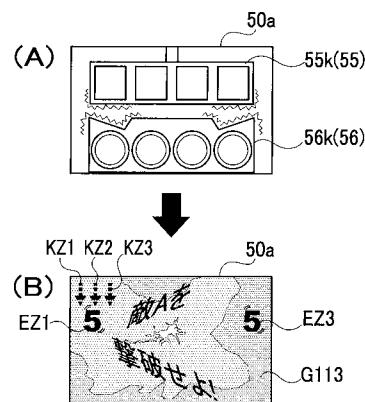
【図19】



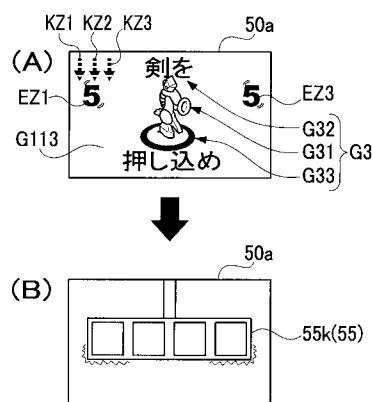
【図20】



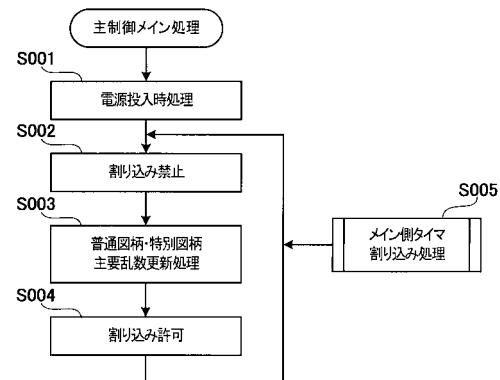
【図21】



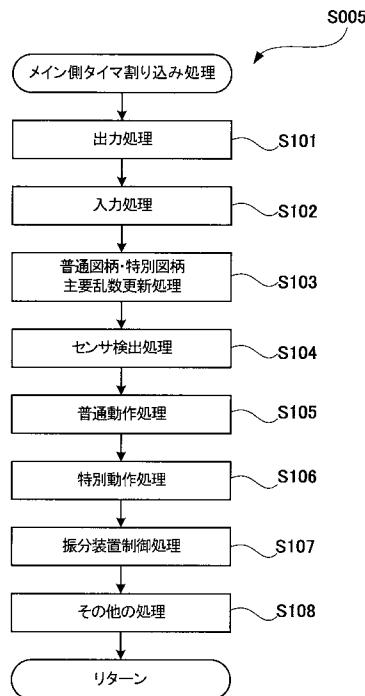
【図22】



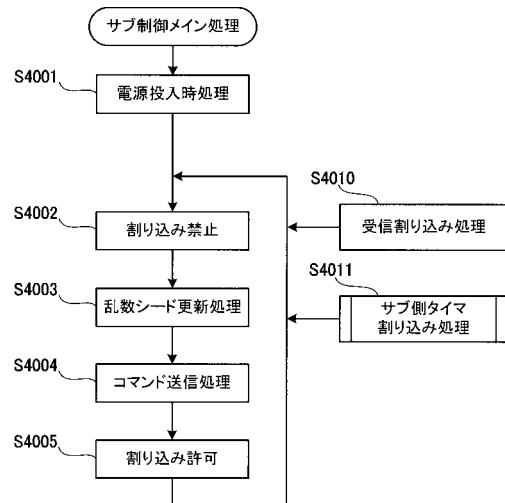
【図23】



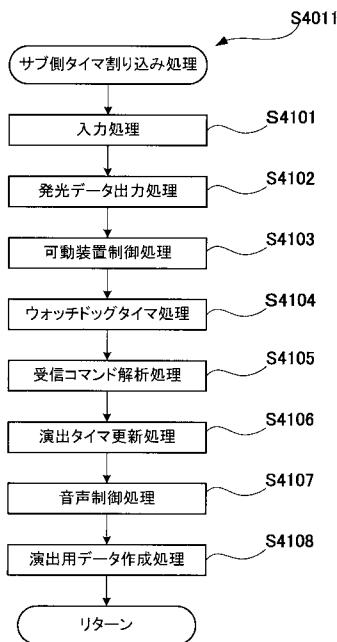
【図24】



【図25】



【図26】



【図27】

大当たり図柄1		大当たり図柄2		リーチ有り		リーチ無し		ハズレ	
特図1変動結果	リーチ	特図1保留数	特図1変動時間(ms)	特図1変動パターン	特図1変動演出の演出出口	特図1変動結果	リーチ	特図1変動パターン	特図1変動
P21	—	100000	通常変動→リーチ(奇数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ	第1SP大当たり変動	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→特殊图标停止	P21	—	105000	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ
P22	—	105000	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ	第2SP大当たり変動	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ	P22	—	30000	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ
P23	—	30000	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ	第1N大当たり変動	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ	P23	—	100000	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ
P24	—	120000	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ	第4SP大当たり変動	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ	P24	—	35000	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ
P25	—	115000	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ	第2N大当たり変動	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ	P25	—	115000	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ
P26	—	250000	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ	第1N/スレ変動	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ	P26	—	95000	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ
P27	—	30000	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ	第1SP/スレ変動	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ	P27	—	100000	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ
P28	—	13000	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ	第2SP/スレ変動	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ	P28	—	4000	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ
P29	—	13000	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ	通常変動→リーチ(奇数)	通常変動→リーチ(奇数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ	P29	—	13000	通常変動→リーチ(奇数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ
P30	—	4000	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ	通常変動→リーチ(偶数)	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ	P30	—	4000	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ
P31	—	4000	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ	通常変動→リーチ(偶数)	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ	P31	—	4000	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ

【図28】

特図1変動パターン判定テーブル(非時短状態)		* 備考		
特図1変動結果		特図1保留数(U1)		
大当たり図柄1	—	—	P21 100000 P22 105000 P23 30000 P24 100000 P25 120000 P26 35000 P27 95000 P28 100000 P29 115000 P30 25000 P31 30000	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ 通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ 通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ 通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ 通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ 通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ 通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ 通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ 通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ 通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ 通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ 通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ
大当たり図柄2	—	—	P21 105000 P22 100000 P23 35000 P24 120000 P25 115000 P26 25000 P27 95000 P28 115000 P29 13000 P30 13000 P31 13000	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ 通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ 通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ 通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ 通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ 通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ 通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ 通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ 通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ 通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ 通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ
リーチ有り	—	0~2	P07 13000 P08 4000	通常変動→リーチ(奇数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ 通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ
リーチ無し	—	3~4	P07 13000 P08 4000	通常変動→リーチ(奇数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ 通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ
ハズレ	—	—	—	通常変動→リーチ(偶数)→N1→チ→発展演出→SPリーチ

【図29】

(A)「大当たり図柄1」の場合に選択される特図1変動パターンの振分率

特図変動パターン	振分率(%)
P21	45
P22	50
P23	5

(B)「大当たり図柄2」の場合に選択される特図1変動パターンの振分率

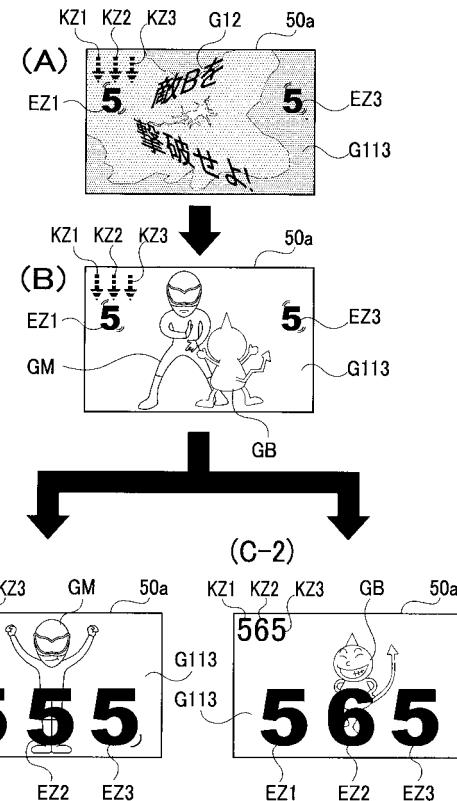
特図変動パターン	振分率(%)
P24	55
P25	40
P26	5

(C)「リーチ有りハズレ」の場合に選択される特図1変動パターンの振分率

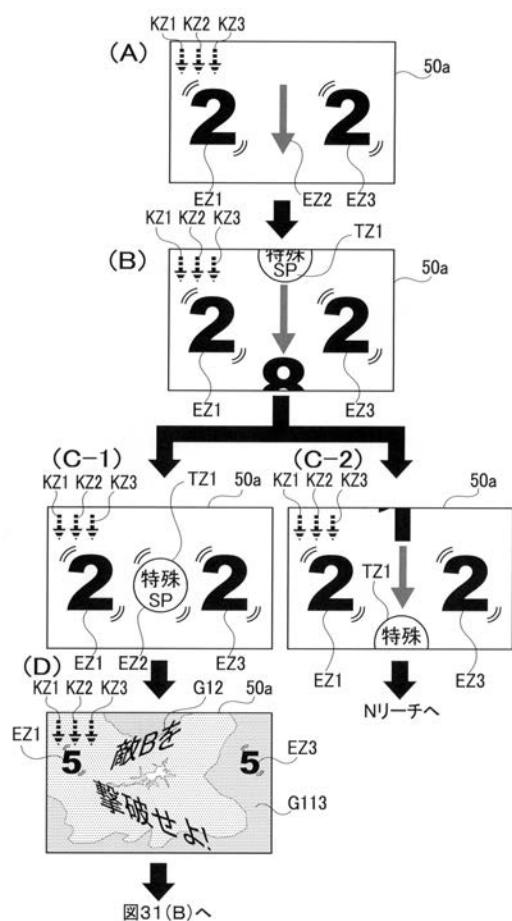
特図変動パターン	振分率(%)	備考
P27	6	同一の奇数を用いたリーチ、又は、同一の偶数を用いたリーチを経由
P28	4	—
P29	15	—
P30	45	—
P31	30	—

【 図 3 0 】

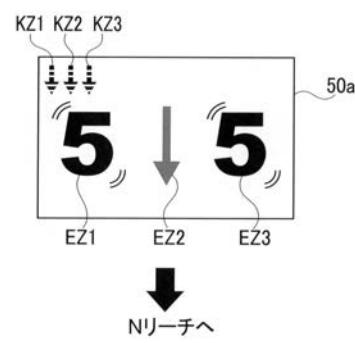
【 図 3 1 】



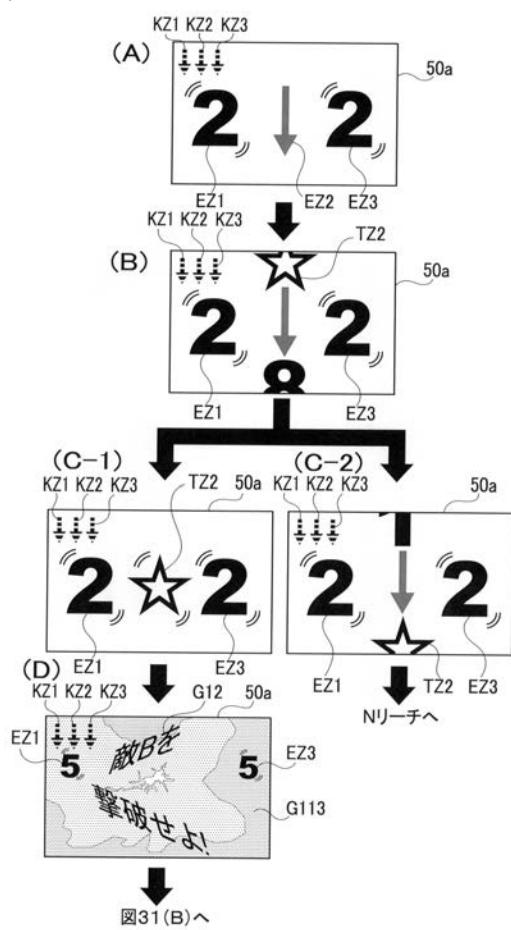
〔 叴 3 2 〕



〔 図 3 3 〕



【図 3 4】



フロントページの続き

(72)発明者 中山 覚

愛知県名古屋市中区丸の内二丁目11番13号 株式会社サンセイアールアンドディ内

(72)発明者 牧 智宣

愛知県名古屋市中区丸の内二丁目11番13号 株式会社サンセイアールアンドディ内

(72)発明者 柏木 浩志

愛知県名古屋市中区丸の内二丁目11番13号 株式会社サンセイアールアンドディ内

(72)発明者 梶野 浩司

愛知県名古屋市中区丸の内二丁目11番13号 株式会社サンセイアールアンドディ内

F ターム(参考) 2C333 AA11 CA29 CA50